

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンヨコハマコクリツダイガク 国立大学法人横浜国立大学							
フリガナ大学の名称	ヨコハマコクリツダイガク 横浜国立大学 (Yokohama National University)							
大学本部の位置	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号							
大学の目的	横浜国立大学は、教育基本法 の精神にのっとり、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的	グローバルな課題とローカルな課題が直結する国際都市＝横浜・神奈川県に立脚する本学ならではの文理融合の蓄積とリスク共生学の強みをいかし、都市科学という今までにない学問領域の創出と、グローバルとローカルが直面する多様な複雑なリスク・課題の解決をはかることのできる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	都市科学部 (College of Urban Sciences)							
	都市社会共生学科 (Department of Urban and Social Collaboration)	4	74	—	296	学士（学術）	平成29年4月 第1年次	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号
	建築学科 (Department of Architecture and Building Science)	4	70	2年次 2	286	学士（工学）	平成29年4月 第1年次 平成30年4月 第2年次	同上
	都市基盤学科 (Department of civil engineering)	4	48	3年次 5	202	学士（工学）	平成29年4月 第1年次 平成31年4月 第3年次	同上
環境リスク共生学科 (Department of Risk Management and Environmental Science)	4	56	—	224	学士（環境学）	平成29年4月 第1年次	同上	
計		248	2年次 2 3年次 5	1008				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	○学生募集停止 教育人間科学部 人間文化課程（廃止）（△150） ※平成29年4月学生募集停止 経済学部 経済システム学科（廃止）（△115） （3年次編入学定員）（△7） 国際経済学科（廃止）（△115） （3年次編入学定員）（△8） ※平成29年4月学生募集停止（3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止） 経営学部 経営学科（昼間主コース）（廃止）（△75） 経営学科（夜間主コース）（廃止）（△32） 会計・情報学科（廃止）（△70） 経営システム科学科（廃止）（△65） 国際経営学科（廃止）（△65） ※平成29年4月学生募集停止 理工学部 建築都市・環境系学科（廃止）（△160） ※平成29年4月学生募集停止							

		<p>○当該申請等以外の申請等          経済学部経済学科 ( 238) (平成28年5月申請(事前伺い))          (3年次編入学定員) ( 15)          経営学部経営学科 ( 287) (平成28年5月申請(事前伺い))          大学院教育学研究科          高度教職実践専攻 ( 15) (平成28年3月申請(意見伺い))</p> <p>○名称変更          平成29年4月名称変更予定          教育人間科学部 → 教育学部          理工学部          機械工学・材料系学科 → 機械・材料・海洋系学科</p> <p>○入学定員変更          理工学部          化学・生命系学科〔定員増〕 ( 12) (平成29年4月)          数物・電子情報系学科〔定員増〕 ( 17) (平成29年4月)          機械・材料・海洋系学科〔定員増〕 ( 45) (平成29年4月)          大学院教育学研究科          教育実践専攻〔定員減〕 (△15) (平成29年4月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	都市科学部 都市社会共生学科	260 科目	125 科目	54 科目	439 科目	124単位			
	建築学科	249 科目	57 科目	47 科目	353 科目	124単位			
	都市基盤学科	279 科目	49 科目	48 科目	376 科目	124単位			
	環境リスク共生学科	311 科目	49 科目	56 科目	416 科目	124単位			
教員組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	都市科学部 都市社会共生学科	人	人	人	人	人	人	人
			11 (11)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	245 (245)
			8 (8)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	223 (223)
			5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	243 (243)
			12 (13)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	24 (25)	0 (0)	236 (235)
		計	36 (37)	35 (35)	2 (2)	0 (0)	73 (74)	0 (0)	- (-)
	既設	教育学部 学校教育課程	53 (53)	30 (30)	3 (3)	0 (0)	86 (86)	0 (0)	50 (50)
			23 (23)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	37 (37)	2 (2)	40 (40)
			32 (32)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	49 (49)	6 (6)	45 (45)
			26 (26)	22 (22)	4 (4)	5 (5)	57 (57)	2 (2)	59 (59)
			33 (33)	31 (31)	4 (4)	4 (4)	72 (72)	4 (4)	37 (37)
40 (40)			33 (33)	0 (0)	5 (5)	78 (78)	7 (7)	58 (58)	
207 (207)			144 (144)	14 (14)	14 (14)	379 (379)	21 (21)	- (-)	
合計	243 (244)	179 (179)	16 (16)	14 (14)	452 (453)	21 (21)	- (-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		252人 (252人)	264人 (264人)	516人 (516人)					
	技 術 職 員		48人 (48人)	73人 (73人)	121人 (121人)					
	図 書 館 専 門 職 員		12人 (12人)	20人 (20人)	32人 (32人)					
	そ の 他 の 職 員		3人 (3人)	48人 (48人)	51人 (51人)					
計		315人 (315人)	405人 (405人)	720人 (720人)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>					
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>					
合 計		662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		175,710 m <sup>2</sup> (175,710 m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	175,710 m <sup>2</sup> (175,710 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	108 室	148 室	792 室	31室 (補助職員 15人)	11室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		都市科学部		7 1 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	都市科学部	1,324,279 〔505,714〕	34,349 〔19,350〕	12,332 〔11,765〕	8,790	3,547	40			
		(1,324,279 〔505,714〕)	(34,349 〔19,350〕)	(12,332 〔11,765〕)	(8,790)	(3,547)	(40)			
	計	1,324,279 〔505,714〕	34,349 〔19,350〕	12,332 〔11,765〕	8,790	3,547	40			
		(1,324,279 〔505,714〕)	(34,349 〔19,350〕)	(12,332 〔11,765〕)	(8,790)	(3,547)	(40)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				大学全体		
		15,348 m <sup>2</sup>	1,453席	1,308,970冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		3,882 m <sup>2</sup>	野球場		テニスコートほか					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	国費（運営費交 付金）による	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図 書 購 入 費								
		設 備 購 入 費								
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	横浜国立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	地球環境課程, マルチメディア文化課程, 国際共生社会課程 は平成23年4月より 学生募集停止 人間文化課程は平成 29年4月より学生 募集停止予定
	教育人間科学部	年	人	年次 人	人	学士(教育)	1.05	平成10年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番2号	
	学校教育課程	4	230	—	920	学士(教養)	1.04	平成23年度		
	人間文化課程	4	150	—	600	学士(教養)	1.08	平成10年度		
	地球環境課程	—	—	—	—	—	—	平成10年度		
マルチメディア文化課程	—	—	—	—	—	—	平成10年度			
国際共生社会課程	—	—	—	—	—	—	平成10年度			

経済学部	経済システム学科	4	115	3年次7	474	学士(経済学)	1.07	昭和24年度 平成16年度 平成16年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番3号	経済システム学 科、国際経済学 科は平成29年4月よ り学生募集停止予 定	
	国際経済学科	4	115	3年次8	476	学士(経済学)	1.04				
							1.08				
	経営学部	経営学科昼間主コース	4	75	—	300	学士(経営学)	1.06	昭和42年度 平成3年度 平成3年度 平成3年度 平成3年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番4号	経営学科、会計・ 情報学科、経営シ ステム科学科、国 際経営学科は平成 29年4月より学生 募集停止予定
		夜間主コース	4	32	—	128	学士(経営学)	1.14			
		会計・情報学科	4	70	—	280	学士(経営学)	1.08			
		経営システム科学科	4	65	—	260	学士(経営学)	0.94			
		国際経営学科	4	65	—	260	学士(経営学)	1.06			
			4	65	—	260	学士(経営学)	1.11			
	理工学部	機械工学・材料系学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.06	昭和24年度 昭和60年度 昭和60年度 昭和60年度 平成10年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番5号	工学部は成23年度 より学生募集停止
		化学・生命系学科	4	175	—	700	学士(理学、工学)	1.05			
		建築都市・環境系学科	4	160	—	640	学士(理学、工学)	1.06			
		数物・電子情報系学科	4	270	—	1080	学士(理学、工学)	1.07			
			4	270	—	1080	学士(理学、工学)	1.07			
	工学部	生産工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和60年度 昭和60年度 昭和60年度 昭和60年度 平成10年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番5号	工学部は成23年度 より学生募集停止
物質工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—				
建設学科		4	—	—	—	学士(工学)	—				
電子情報工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—				
知能物理工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—				
工学部第2部	生産工学科	5	—	—	—	学士(工学)	—	昭和24年度 昭和60年度 昭和60年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番5号	工学部第二部は平 成19年度より学生 募集停止	
	物質工学科	5	—	—	—	学士(工学)	—				
		5	—	—	—	学士(工学)	—				
教育学研究科	教育実践専攻(M)	2	100	—	200	修士(教育学)	1.04	平成23年度 平成12年度 昭和54年度 昭和54年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番2号	学校教育臨床専 攻、学校教育専 攻、特別支援教育 専攻、言語文化系 教育専攻、社会系 教育専攻、自然系 教育専攻、生活シ ステム系教育専 攻、健康・スポー ツ系教育専攻、芸 術系教育専攻は平 成23年度より学生 募集停止	
	学校教育臨床専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	学校教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	特別支援教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	言語文化系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	社会系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	自然系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	生活システム系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	健康・スポーツ系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
	芸術系教育専攻(M)	2	—	—	—	修士(教育学)	—				
国際社会科学府	経済学専攻(博士課程前期)	2	38	—	76	修士(経済学)	1.10	平成25年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番4号	法曹実務専攻は平 成27年度入学生員 減(△15人)	
	経営学専攻(博士課程前期)	2	50	—	100	修士(経営学)	1.02				
	国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	—	50	修士(法学、国際経済学、学術)	0.74				
	経済学専攻(博士課程後期)	3	10	—	30	博士(経済学、学術)	0.77				
	経営学専攻(博士課程後期)	3	12	—	36	博士(経営学、学術)	0.72				
	国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	—	24	博士(法学、国際経済学、学術)	0.91				
	法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	—	105	法務博士(専門職)	0.58				
		3	25	—	105	法務博士(専門職)	0.58				
国際社会科学府研究科	経済学専攻(M)	2	—	—	—	修士(経済学、学術)	—	平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成11年度 平成16年度	神奈川県横浜市保土 ヶ谷区常盤台79番4号	国際社会科学府研 究科は平成25年度よ り学生募集停止	
	国際経済学専攻(M)	2	—	—	—	修士(経済学、学術)	—				
	経営学専攻(M)	2	—	—	—	修士(経営学、学術)	—				
	会計・経営システム専攻(M)	2	—	—	—	修士(経営学、学術)	—				
	国際関係法専攻(M)	2	—	—	—	修士(国際経済法学、学術)	—				
	国際開発専攻(D)	3	—	—	—	博士(学術)	—				
	グローバル経済専攻(D)	3	—	—	—	博士(経済学、学術)	—				
	企業システム専攻(D)	3	—	—	—	博士(経営学、学術)	—				
	国際経済法学専攻(D)	3	—	—	—	博士(国際経済法学、学術)	—				
	法曹実務専攻(P)	3	—	—	—	法務博士(専門職)	—				

工学府	機能発現工学専攻 (M)	2	99	—	198	修士 (工学, 学術)	1. 10	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
	システム統合工学専攻 (M)	2	101	—	202	修士 (工学, 学術)	1. 12	平成13年度		
	物理情報工学専攻 (M)	2	122	—	244	修士 (工学, 学術)	1. 28	平成13年度		
	機能発現工学専攻 (D)	3	12	—	36	博士 (工学, 学術)	1. 08	平成13年度		
	システム統合工学専攻 (D)	3	13	—	39	博士 (工学, 学術)	0. 56	平成13年度		
	物理情報工学専攻 (D)	3	16	—	48	博士 (工学, 学術)	0. 83	平成13年度		
	環境情報学府									神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号
	環境生命学専攻 (M)	2	40	—	80	修士 (環境学, 工学, 学術)	0. 80	平成13年度		
	環境システム学専攻 (M)	2	40	—	80	修士 (環境学, 工学, 学術)	1. 15	平成13年度		
	情報メディア環境学専攻 (M)	2	45	—	90	修士 (環境学, 工学, 学術)	1. 14	平成13年度		
	環境イノベーションメソッド専攻 (M)	2	11	—	22	修士 (環境学, 技術経営, 学術)	0. 91	平成18年度		
	環境リスキミングメソッド専攻 (M)	2	37	—	74	修士 (環境学, 工学, 学術)	1. 04	平成18年度		
	環境生命学専攻 (D)	3	12	—	36	博士 (環境学, 工学, 学術)	0. 66	平成13年度		
	環境システム学専攻 (D)	3	10	—	30	博士 (環境学, 工学, 学術)	0. 53	平成13年度		
	情報メディア環境学専攻 (D)	3	12	—	36	博士 (環境学, 工学, 学術)	0. 77	平成13年度		
	環境イノベーションメソッド専攻 (D)	3	5	—	15	博士 (環境学, 技術経営, 学術)	0. 73	平成18年度		
	環境リスキミングメソッド専攻 (D)	3	9	—	27	博士 (環境学, 工学, 学術)	0. 77	平成18年度		
	都市イノベーション学府								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
	建築都市文化専攻 (博士課程前期)	2	68	—	136	修士 (工学, 学術)	0. 93	平成23年度		
	都市地域社会専攻 (博士課程前期)	2	37	—	74	修士 (工学, 学術)	1. 02	平成23年度		
都市イノベーション専攻 (博士課程後期)	3	12	—	36	博士 (工学, 学術)	1. 17	平成23年度			
附属施設の概要	○先端科学高等研究院 (目的) 新技術や社会を取り巻く多様なリスクを把握し、それらを適切に低減するための先端科学に関する高度な学術研究を、先進的な体制の下で集中的に推進し、その成果の社会還元を通して、次世代における安心・安全かつ持続可能な国際社会の発展に貢献するとともに、横浜国立大学の当該分野における学術研究の国際拠点化を実現し、併せて、本学の研究力を一層向上する。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 (設置年月) 平成26年10月 (規模等) 建物1,512㎡									
	○保健管理センター (目的) 学生・教職員の健康保持・増進に寄与する。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8 (設置年月) 昭和48年4月 (規模等) 建物349㎡									
	○情報基盤センター (目的) 情報基盤の整備充実を図るために、情報基盤技術に関する研究を推進し、教育、研究及び事務処理等における情報基盤の利用、活用を支援する。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 (設置年月) 平成19年4月 (総合情報処理センター改組) (規模等) 建物1,988㎡									
	○機器分析評価センター (目的) 研究用大型機器及び精密機器等を集中的に管理し、教育・研究の用に供するとともに、各研究用機器等の利用を合理的、効率的に行う。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 (設置年月日) 平成7年4月 (規模等) 建物1,435㎡									
	○男女共同参画推進センター (目的) 男女共同参画社会の構築という社会的要請に応えるため、大学独自あるいは国、地方公共団体、民間組織等との連携の下で男女共同参画に係る教育活動、研究活動を行う。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-4 (設置年月日) 平成25年4月 (規模等) 建物39㎡									
	○国際教育センター (目的) 外国人留学生に対する日本語及び日本事情に関する教育を行うと共に、短期留学国際プログラムの運営、日本人学生と留学生が共に学ぶ授業科目などを開講する。また、留学生の相談の対応、日本人学生の留学に関する相談対応や情報提供を行う。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 (設置年月) 平成26年4月 (留学生センター改組) (規模等) 建物1,526㎡									
	○高大接続・全学教育推進センター (目的) 横浜国立大学における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ (学生IR) の推進とともに、初年次教育科目から高度全学科目を体系的に編成した全学教育の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資する。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8 (設置年月日) 平成28年4月 (規模等) 建物240㎡									
○未来情報通信医療社会基盤センター (目的) 独立行政法人情報通信研究機構及びその他の機関と連携した先端情報通信技術に基づく未来社会基盤 (高度医療、福祉、金融、エネルギー、交通) の高度研究開発、本学大学院生又はこれと同等以上の知識を持つ研究者等に対する先端研究を通じた高度教育に関するものを行う。(所在地) 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7 (設置年月日) 平成17年9月 (規模等) 建物327㎡										

	<p>○地域実践教育研究センター（目的）地域連携推進室との緊密な連携をもとに、学部及び大学院の学生に対し、地域交流科目を中心に、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀人材育成を目的とした教育の推進、内外の諸機関・諸地域と連携しながら、地域貢献に関する教育・研究・実践活動を行い、前記の業務に関し、広く情報発信することにより社会に貢献する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3（設置年月日）平成17年9月（規模等）建物20㎡</p>	
	<p>○統合的海洋教育・研究センター（目的）海洋の統合的管理能力の修得を目的とした修士課程の教育、海洋の統合的管理に関する国際的、領域横断的な教育・研究情報の拠点の形成、その他、本学における海洋の統合的教育研究の促進を行う。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月日）平成19年6月（規模等）建物117㎡</p>	
	<p>○成長戦略研究センター（目的）新しい経済成長戦略に関する研究プロジェクトの推進、ベンチャー企業の創出及びそれを担う人材の育成を推進する。また、大学院レベルでのプロジェクトベース教育、ベンチャー企業と連携したインターンシップ、副専攻プログラムなどの教育活動を行う。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-4（設置年月日）平成23年4月（規模等）建物79㎡</p>	
	<p>○リスク共生社会創造センター（目的）21世紀社会におけるリスク対応の在り方を研究し、対応策の社会実装に寄与する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月日）平成27年10月（規模等）建物397㎡</p>	
	<p>○大岡インターナショナルレジデンス（目的）外国人留学生、外国人研究者、教職員を寄宿させ、かつ、国際交流の促進に資することを目的とする。（所在地）横浜市南区大岡2-31-2（設置年月日）平成22年9月（規模等）建物8,477㎡</p>	
	<p>○留学生会館（目的）外国人留学生を寄宿させ、かつ、国際交流の促進に資することを目的とする。（所在地）横浜市南区大岡2-31-1（設置年月日）昭和55年12月（規模等）建物5,009㎡</p>	
	<p>○大学会館（目的）本学の学生・教職員の人間関係の緊密化を図るとともに、学生・教職員の福利厚生に寄与し、学園生活を豊かにする。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1（設置年月）昭和63年9月（規模等）建物3,094㎡</p>	
	<p>○峰沢国際交流会館（目的）本学の学生に対し、生活と勉学の場を与え、その修学を容易にするとともに、国際交流の促進に資する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区峰沢町305-11（設置年月）平成4年5月（規模等）建物7,260㎡</p>	
	<p>○教育文化ホール（目的）地域の方々に対する生涯学習に関する事業等を実施する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1（設置年月）平成7年4月（規模等）建物1,512㎡</p>	
	<p>○産学官連携研究施設（目的）産学官連携を推進するための共同研究、共同研究講座、本学の研究成果に基づく起業及び外部資金による研究プロジェクト等を実施する場を提供する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月）平成25年1月（規模等）建物1,058㎡</p>	

国立大学法人横浜国立大学 組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>横浜国立大学</b>				<b>横浜国立大学</b>				
教育人間科学部	380	—	1,520	教育学部	230	—	920	名称変更(事前伺い)
学校教育課程	230	—	920	学校教育課程	230	—	920	
人間文化課程	150	—	600		0	—	0	平成29年4月学生募集停止
経済学部	230	3年次15	950	経済学部	238	3年次15	982	平成29年4月学生募集停止
経済システム学科	115	3年次7	474		0	0	0	
国際経済学科	115	3年次8	476	経済学科	238	3年次15	982	
経営学部	307	—	1,228	経営学部	287	—	1,148	平成29年4月学生募集停止
経営学科(昼間主コース)	75	—	300		0	—	0	
経営学科(夜間主コース)	32	—	128		0	—	0	
会計・情報学科	70	—	280		0	—	0	
経営システム科学科	65	—	260		0	—	0	
国際経営学科	65	—	260	経営学科	287	—	1,148	
理工学部	745	—	2,980	理工学部	659	—	2,636	名称変更(事前伺い)・定員変更(45)
機械工学・材料系学科	140	—	560	機械・材料・海洋系学科	185	—	740	
化学・生命系学科	175	—	700	化学・生命系学科	187	—	748	
建築都市・環境系学科	160	—	640		0	—	0	平成29年4月学生募集停止
数物・電子情報系学科	270	—	1,080	数物・電子情報系学科	287	—	1,148	定員変更(17)
				都市科学部	248	2年次2 3年次5	1,008	学部の設置(意見伺い)
				都市社会共生学科	74		296	
				建築学科	70	2年次2	286	
				都市基盤学科	48	3年次5	202	
				環境リスク共生学科	56		224	
学部計	1,662	3年次15	6,678	学部計	1,662	2年次2 3年次20	6,694	
<b>横浜国立大学大学院</b>				<b>横浜国立大学大学院</b>				
教育学研究科				教育学研究科				定員変更(△15) 専攻の設置(意見伺い)
教育実践専攻(M)	100	—	200	教育実践専攻(M)	85	—	170	
				高度教職実践専攻(P)	15	—	30	
国際社会科学府				国際社会科学府				
経済学専攻(M)	38	—	76	経済学専攻(M)	38	—	76	
経営学専攻(M)	50	—	100	経営学専攻(M)	50	—	100	
国際経済法学専攻(M)	25	—	50	国際経済法学専攻(M)	25	—	50	
経済学専攻(D)	10	—	30	経済学専攻(D)	10	—	30	
経営学専攻(D)	12	—	36	経営学専攻(D)	12	—	36	
国際経済法学専攻(D)	8	—	24	国際経済法学専攻(D)	8	—	24	
法曹実務専攻(P)	25	—	75	法曹実務専攻(P)	25	—	75	
工学府				工学府				
機能発現工学専攻(M)	99	—	198	機能発現工学専攻(M)	99	—	198	
システム統合工学専攻(M)	101	—	202	システム統合工学専攻(M)	101	—	202	
物理情報工学専攻(M)	122	—	244	物理情報工学専攻(M)	122	—	244	
機能発現工学専攻(D)	12	—	36	機能発現工学専攻(D)	12	—	36	
システム統合工学専攻(D)	13	—	39	システム統合工学専攻(D)	13	—	39	
物理情報工学専攻(D)	16	—	48	物理情報工学専攻(D)	16	—	48	
環境情報学府				環境情報学府				
環境生命学専攻(M)	40	—	80	環境生命学専攻(M)	40	—	80	
環境システム学専攻(M)	40	—	80	環境システム学専攻(M)	40	—	80	
情報メディア環境学専攻(M)	45	—	90	情報メディア環境学専攻(M)	45	—	90	
環境イノベーションマネジメント専攻(M)	11	—	22	環境イノベーションマネジメント専攻(M)	11	—	22	
環境リスクマネジメント専攻(M)	37	—	74	環境リスクマネジメント専攻(M)	37	—	74	
環境生命学専攻(D)	12	—	36	環境生命学専攻(D)	12	—	36	
環境システム学専攻(D)	10	—	30	環境システム学専攻(D)	10	—	30	
情報メディア環境学専攻(D)	12	—	36	情報メディア環境学専攻(D)	12	—	36	
環境イノベーションマネジメント専攻(D)	5	—	15	環境イノベーションマネジメント専攻(D)	5	—	15	
環境リスクマネジメント専攻(D)	9	—	27	環境リスクマネジメント専攻(D)	9	—	27	
都市イノベーション学府				都市イノベーション学府				
建築都市文化専攻(M)	68	—	136	建築都市文化専攻(M)	68	—	136	
都市地域社会専攻(M)	37	—	74	都市地域社会専攻(M)	37	—	74	
都市イノベーション専攻(D)	12	—	36	都市イノベーション専攻(D)	12	—	36	
修士課程・博士課程前期	813	—	1,626	修士課程・博士課程前期	798	—	1,596	
博士課程後期	131	—	393	博士課程後期	131	—	393	
専門職学位課程	25	—	75	専門職学位課程	40	—	105	
大学院計	969	—	2,094	大学院計	969	—	2,094	

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市社会共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
全学 教育科目	基礎科目 人文社会系	英米文学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1	
		音楽と自然	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1	
		危機管理学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1	
		基礎造形A	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1	
		経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1	
		経済学の諸課題Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1	
		経済学の諸課題Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1	
		現代芸術論	1・2・3・4	④～⑤		2		○			1							
		現代政治 (国際)	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		現代政治 (日本)	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		現代の会計と社会	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		現代の経済A	1・2・3・4	①～②		2		○										兼2
		現代の経済B	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼2
		現代の物流経営	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		鍵盤楽器の名曲	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		国際理解 国際交流における日本語の役割	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		国際理解 国際日本学入門	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		国際理解 台湾の文化と社会	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		国際理解 日韓比較文化論	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		国際理解 日本語をめぐる国際交流史	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		色彩論	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		社会科学概論A	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		社会科学概論B	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		社会科学の方法	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		社会科学の歴史	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		社会生活と法	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		宗教学	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		生涯発達論	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		職業と教育	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		心理学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		心理学史入門	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		水彩画基礎技術	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		地域課題実習Ⅰ	1・2・3・4	①～②		1				○								兼1
		地域課題実習Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		1				○								兼1
地誌学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1		
中国の古典文学	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1		
哲学	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1		
東洋思想史	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1		
都市と建築	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼10	オムニバス		
日本近現代史	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1		
日本前近代史	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1		

教育課程等の概要																
(都市科学部 都市社会共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文社会系	日本国憲法	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2		○									兼1	
	日本の近代文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	日本の言語	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	美術の見かた	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と自然のかかわり	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と動物の関係学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	文化人類学の考え方	1・2・3・4 ①～②		2		○				1						
	ベンチャーから学ぶマネジメント	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	法と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	民族音楽学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	木材と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ヨーロッパ文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	横浜学--地域の再発見--	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	倫理学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	音声言語学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1 英語	
	記述言語学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1 英語	
	小計 (58科目)	— —		0	114	0	—				1	1	0	0	0	兼59
	全学教育科目	基礎科目	ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼2
			Webページ作成入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
衣生活の科学			1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
エネルギー工学序論			1・2・3・4 ①～②		2		○								兼2 共同	
エネルギーと環境			1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
海洋工学と社会			1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼11	
環境化学概論			1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
環境リスクとつきあうⅠ			1・2・3・4 ①		1		○								兼3 オムニバス	
環境リスクとつきあうⅡ			1・2・3・4 ②		1		○								兼3 オムニバス	
環境をめぐる諸問題Ⅰ			1・2・3・4 ④		1		○								兼5 オムニバス	
自然科学系		環境をめぐる諸問題Ⅱ	1・2・3・4 ⑤		1		○								兼5 オムニバス	
		健康の科学	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		建築の環境と防災	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼8 オムニバス	
		国土学とグローバル社会Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○								兼5 オムニバス	
		国土学とグローバル社会Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○								兼5 オムニバス	
		古生物の科学Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○								兼1	
		古生物の科学Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○								兼1	
		材料学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9 オムニバス	
		実験で学ぶ物理学B	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		情報工学概論	1 ①～②		2		○								兼9	
情報セキュリティ入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1			
情報と社会	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1			
情報ネットワークシステム入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市社会共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手						
全学 教育 科目	基礎 科目 自然 科学 系	食環境論	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		数理科学Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼9			
		数理科学Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼9			
		数理科学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼9	オムニバス		
		生物地理学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		生物の世界Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○									兼4	オムニバス		
		生物の世界Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○									兼7	オムニバス		
		生命科学	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1			
		線形代数Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼9			
		線形代数Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼9			
		線形代数学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		体験物理科学A	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼3			
		体験物理科学B	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼3			
		地球環境と情報	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		地球と惑星の科学Ⅰ	1・2・3・4 ④		1		○									兼1			
		地球と惑星の科学Ⅱ	1・2・3・4 ⑤		1		○									兼1			
		地質リスクマネジメントⅠ	1・2・3・4 ④		1		○									兼1			
		地質リスクマネジメントⅡ	1・2・3・4 ⑤		1		○									兼1			
		統計学Ⅰ-A	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		統計学Ⅰ-C	2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		統計学Ⅱ-A	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1			
		統計学Ⅱ-C	2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1			
		微分積分Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼9			
		微分積分Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼9			
		理工学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼21	オムニバス		
		文系のための数学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		身近な電気と機械	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1			
		ICTプロジェクト	1・2・3・4 ③		2				○							兼1	英語・集中		
		ICTリテラシー	1・2・3・4 ⑥		2				○							兼1	英語・集中		
		小計 (52科目)		— —	0	90	0	—				0	0	0	0	0	0	兼117	
		イ ン フ ォ ー メ ー シ ョ ン 教 育 科 目	社会 装 略 実	知的財産権	3・4 ①～②		2		○								兼1		
				知的財産法	2・3 ④～⑤		2		○								兼1		
小計 (2科目)			— —	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2			
技 術 考 革 新 思	システム・エンジニアリング		1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1				
	数理統計		2・3・4 ①～②		2		○								兼1				
小計 (2科目)			— —	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2			
キ ャ リ ア	Wake up! プロジェクト	1 ①～②		2		○								兼1					
	キャリア・ケーススタディ	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1					
	キャリアデザイン	1・2 ①～②		2		○								兼1					
	グローバルビジネス・コミュニケーション	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1					
	ビジネス・コミュニケーション	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1					
まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	1 ①～②		2		○								兼1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市社会共生学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
イノベーション教育科目	まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ライフキャリアを考える	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	生涯設計とグローバルキャリアデザイン	1・2・3・4 ①～②		2			○								兼1	英語
	小計 (9科目)	— —	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	
グローバル教育科目	アカデミック・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	アラブの言語と文化	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	英語による異文化間理解	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	グローバルキャリア向け英文読解と要約	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	英語
	グローバルワーク向け英文読解と要約	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	多言語・多文化運用演習A	1・2・3・4 ④～⑤		2			○								兼1	英語
	多言語・多文化運用演習B	1・2・3・4 ①～②		2			○								兼1	英語
	ビジネス・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	英語
	海外演習A	2・3 ③, ⑥		1			○								兼1	英語
	小計 (9科目)	— —	0	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	
各国事情	インドネシア事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	日本事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	パラグアイ事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○				1						
	ブラジル事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ベトナム事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
小計 (5科目)	— —	0	10	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼4		
健康スポーツ科目	健康スポーツ演習B	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼5	
	小計 (1科目)	— —	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	
外国語科目	英語プレゼンテーション	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語ライティング	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語LR	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	自立英語	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語演習1 a	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習1 b	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習1 c	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習2 a	3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習2 b	3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	小計 (9科目)	— —	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	
初修外国語	ドイツ語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○		1					兼1	
	ドイツ語実習2 a	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○		1					兼1	
	ドイツ語実習1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○		1					兼1	
	ドイツ語実習2 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○		1					兼1	
	ドイツ語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○			1					兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市社会共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
全学 教育科目	外国語科目 初修外国語	ドイツ語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2				○		1					兼1	
		フランス語実習1 a	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		フランス語実習1 b	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		フランス語実習2 a	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		フランス語実習2 b	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		フランス語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		フランス語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		中国語実習1 a	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		中国語実習2 a	1・2・3	①～② ④～⑤		1					○							兼1
		中国語実習1 b	1・2・3	①～② ④～⑤		1					○							兼1
		中国語実習2 b	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		中国語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼2
		中国語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼2
		ロシア語実習1 a	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		ロシア語実習1 b	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		ロシア語実習2 a	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		ロシア語実習2 b	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		ロシア語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○		1					
		ロシア語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○		1					
		朝鮮語実習1	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		朝鮮語実習2	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		朝鮮語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		朝鮮語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		イスパニア語実習1	1・2・3	①～②		1					○							兼1
		イスパニア語実習2	1・2・3	④～⑤		1					○							兼1
		イスパニア語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		イスパニア語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		ギリシャ語	2・3・4	①～② ④～⑤		1					○							兼1
		ラテン語	2・3・4	①～② ④～⑤		1					○							兼1
		海外演習B	2・3・4	①～② ④～⑤		2					○							兼1
		小計 (35科目)		— —	0	48	0				—		2	0	0	0	0	兼9
		日本語	日本語初級 I	1・2	④～⑤		6					○						兼2
			日本語初級 II	1・2	①～②		6					○						兼2
			日本語初中級	1・2	①～②		4					○						兼2
			日本語初級漢字・語彙 I	1・2	①～② ④～⑤		1					○						兼1
日本語初級漢字・語彙 II	1・2		①～② ④～⑤		1					○						兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市社会共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手							
全学 教育科目	外国語科目 日本語	日本語初級漢字・語彙Ⅲ	1・2	①～② ④～⑤		1				○							兼1			
		日本語中級A	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級B	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級C	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級D	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級E	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級F	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語中級G	1・2	①～②		1				○							兼1			
		日本語上級A	1・2・3	①～②		1				○							兼1			
		日本語上級B	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級C	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級D	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級E	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級F	1・2・3	①～②		1				○							兼1			
		日本語上級G	1・2・3	④～⑤		2				○							兼1			
		日本語上級H	1・2・3	①～②		1				○							兼1			
		日本語上級I	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級J	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1			
		日本語上級K	1・2・3	①～②		1				○							兼1			
		日本語演習A	1・2・3	④～⑤		2				○							兼1			
日本語演習B	1・2・3	④～⑤		2				○							兼1					
日本語演習C	1・2・3	①～②		2				○							兼1					
小計 (27科目)		—	—	0	44	0			—		0	0	0	0	0	0	兼6			
合計 (209科目)		—	—	0	365	0			—		4	1	0	0	0	0	兼205			
学部 教育科目	基礎 習 演 目	人文社会科学基礎演習	1	①		1				○		1	2	2				共同		
		クリエイティブシティー基礎演習	1	④～⑤		2				○								兼1 英語		
		小計 (2科目)	—	—	1	2	0			—		1	2	2	0	0		兼1		
	都市 科学 の 基 礎	都市 科学 の 基 礎	都市科学A (グローバル・ローカル)	1	①～②		2			○			1					兼3 オムニバス		
			都市科学B (リスク共生)	1	④		1			○								兼2 オムニバス		
			都市科学C (イノベーション)	1	⑤		1			○			2					兼2 オムニバス		
			小計 (3科目)	—	—	4	0	0			—		3	0	0	0	0		兼5	
		グ ロ ー バ ル ・ ロ ー カ ル 関 連 科 目	学 部 共 通 科 目	地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	1	①～②		2			○								兼1	
				地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	1	④～⑤		2			○								兼1	
				都市社会基礎論	1	④～⑤		2			○			1						
				社会調査法A	2	①		1			○									兼1
				社会調査法B	2	①		1			○									兼1
				G I Sによる地域解析概論	2・3・4	①～②		2			○									兼1
メタデータ分析とリスク予測	2・3	①～②		2			○									兼1 英語				
組織風土ファシリテーションとチームエンバワメント	2・3	④～⑤		2			○									兼1 英語				
都市リスクの空間分析とマネジメントA	2	①		1			○									兼1				
建築芸術史論A	2・3・4	①		1			○									兼2 共同				

教育課程等の概要																	
(都市科学部 都市社会共生学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部共通科目	グローバル関連科目	建築芸術史論B	2・3・4	②		1		○							兼2 兼1 兼1	共同	
		都市基盤構造力学	1	④		1		○									
		都市基盤材料複合力学	2	④		1		○									
		小計 (13科目)	—	—	0	19	0	—		1	0	0	0	0	0	兼10	
	リスク共生関連科目	生態リスク学入門	1	①		1		○								兼1	
		リスク分析のための情報処理A	2	④		1		○								兼1	
		高齢社会とリスクA	2	④		1		○								兼1	
		都市環境リスク共生論A	2	④		1		○								兼1	
		社会リスク学A	2	①		1		○								兼1	
		社会リスク学B	2	②		1		○								兼1	
		居住空間の計画I	2	①		1		○								兼1	
		居住空間の計画II	2	②		1		○								兼1	
		都市基盤水理学	2	①		1		○								兼1	
都市基盤土質力学		2	①		1		○								兼1		
小計 (10科目)	—	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼8			
学部教育科目	イノベーション関連科目	企業経営とオペレーション	2・3	①～②		2		○							兼1	英語	
		都市基盤計画論	1	①		1		○							兼1		
		グローバルビジネスとイノベーションA	3	④		1		○							兼1		
		建築と都市のメディア・デザインI	2・3・4	①		1		○							兼1	※演習	
		建築と都市のメディア・デザインII	2・3・4	②		1		○							兼1	※演習	
		社会デザイン・フューチャーセッション	1	③		1		○							兼18	オムニバス	
		都市生態学	1	⑤		1		○							兼1		
		ジェンダーと共生 (開発)	2	⑤		1		○			1					英語	
		ジェンダーと共生 (文化)	2	⑤		1		○									
		建築と社会のデザイン	1・2・3・4	②		1		○							兼1		
小計 (10科目)	—	—	0	11	0	—		1	1	0	0	0	0	兼23			
専門基礎科目	海外研究基礎論	1	②		1		○				4	2				共同	
	社会文化批評基礎論	1	②		1		○				3	1				共同	
	社会分析基礎論	1	①～②		2		○				3	2	1			共同	
	文化創成基礎論	1	①		1		○				1	2	1			共同	
	グローバルビジネス創成基礎論	2	④～⑤		2		○								兼1	英語	
	グローバルビジネス分析評価基礎論	2	①～②		2		○								兼1	英語	
	グローバルビジネス管理・運営基礎論	2・3	①～②		2		○								兼1	英語	
	小計 (7科目)	—	—	5	6	0	—		11	7	2	0	0	0	兼2		
専門科目	コンズ・ベリック	国際開発学講義	1・2	④～⑤		2		○				1				【社会と共生の学び】左記4科目から、4単位以上履修すること	
		都市社会学講義	1・2	④～⑤		2		○			1						
		社会共生論講義	1・2	①～②		2		○			1						
		格差社会と社会的包摂講義	1・2	④～⑤		2		○			1						
		都市哲学講義	1・2	④～⑤		2		○			1						
		都市日本文化史講義	1・2	①～②		2		○			1						
		都市文化マネジメント講義	1・2	④～⑤		2		○			1						
		文化人類学講義	1・2	④～⑤		2		○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要

（都市科学部 都市社会共生学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
学部 教育科目	ベ ー モ ン ズ ク ・ コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	EQによるファシリテーションとマネジメント	1・2	①～②		2		○								兼1	英語	
		広告芸術A	1・2	④～⑤		2		○								兼1	英語	
		広告芸術B	1・2	①～②		2		○								兼1	英語	
		コミュニケーションとエモーショナル・リテラシー	1・2	④～⑤		2		○								兼1	英語	
		小計（12科目）	—	—		0	24	0	—			6	2	0	0	0	兼2	
		コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	映像社会論講義	2・3	①～②		2		○									【社会と共 生の学び】 左記7科目 から、8単 位以上履修 すること
	国際社会学講義		2・3	①～②		2		○			1							
	東アジア都市社会論講義		2・3	①～②		2		○			1							
	都市政策論講義		2・3	④～⑤		2		○			1							
	地域社会と公共性講義		2・3	①～②		2		○			1							
	ジェンダー社会論講義		2・3	①～②		2		○			1							
	社会運動論講義		2・3	①～②		2		○			1							
	音響文化論講義		2・3	①～②		2		○				1						
	開発人類学講義		2・3	①～②		2		○			1							
	空間芸術論講義		2・3	①～②		2		○			1							
	現代芸術論講義		2・3	①～②		2		○				1						
	現代都市文化論講義		2・3	①～②		2		○								兼1		
	現代ポピュラー文化論講義		2・3	①～②		2		○				1						
	現代メディア論講義		2・3	①～②		2		○								兼1		
	公共政策論講義		2・3	④～⑤		2		○								兼1		
	国際協力論講義		2・3	④～⑤		2		○								兼1		
	国際政治学講義		2・3	①～②		2		○				1						
	国際政治経済論講義		2・3	④～⑤		2		○								兼1		
	都市文芸文化論講義		2・3	④～⑤		2		○				1						
	東アジア近現代史講義		2・3	①～②		2		○					1					
	多民族都市文化共生講義		2	④～⑤		2		○								兼1	英語	
	都市社会マネジメント（アジアグローバル経営基礎）		2・3	④～⑤		2		○								兼1	英語	
	都市社会マネジメント（企業会計）		2・3	①～②		2		○								兼1	英語	
	都市社会マネジメント（経済学）		2・3	④～⑤		2		○								兼1	英語	
	都市社会マネジメント（日本型経営）		2・3	①～②		2		○								兼1	英語	
	都市社会マネジメント（ミクロ経済学）		2・3	④～⑤		2		○								兼1	英語	
	都市文化共創（映像学）		2・3	④～⑤		2		○					1				英語	
	都市文化共創（外交政策学）		2・3	①～②		2		○				1					英語	
	都市文化共創（サブカルチャー学）		2・3	④～⑤		2		○				1					英語	
都市文化共創（メディア芸術学）	2・3		①～②		2		○					1				英語		
都市文化共創（歴史学）	2・3		①～②		2		○				1					英語		
横浜都市文化共生講義	3		①～②		2		○								兼1	英語		
	小計（32科目）	—	—		0	64	0	—			8	4	2	0	0	兼11		
	コ ー ス バ ー カ ル ／ グ	映像社会論演習Ⅰ	2・3	④		1			○				1					
映像社会論演習Ⅱ		2・3	⑤		1			○				1						
エスニシティと共生		2・3	④		1			○			1							
音響文化論演習Ⅰ		2・3	④		1			○			1							

教育課程等の概要														
(都市科学部 都市社会共生学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部教育科目 専門科目 コア グローバル	音響文化論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	開発人類学演習	2・3 ③		1			○			1				
	空間芸術論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	空間芸術論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	現代芸術論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	現代芸術論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	現代都市文化論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	現代都市文化論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	現代ポピュラー文化論演習	2・3 ④		1			○			1				
	現代メディア論演習	2・3 ④		1			○							兼1
	国際社会学演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	国際社会学演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	コミュニティ開発演習Ⅰ	2・3 ①		1			○			1				
	コミュニティ開発演習Ⅱ	2・3 ②		1			○			1				
	政治学演習	2・3 ①		1			○				1			
	都市社会学演習Ⅰ	2・3 ①		1			○			1				
	都市社会学演習Ⅱ	2・3 ②		1			○			1				
	都市人類学演習	2・3 ①		1			○			1				
	都市哲学演習Ⅰ	2・3 ①		1			○			1				
	都市哲学演習Ⅱ	2・3 ②		1			○			1				
	都市文芸文化論演習Ⅰ	2・3 ①		1			○			1				
	都市文芸文化論演習Ⅱ	2・3 ②		1			○			1				
	東アジア都市社会論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	東アジア都市社会論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	紛争と共生	2・3 ②		1			○				1			
	メディアと共生	2・3 ⑤		1			○							兼1
	ヨーロッパ都市文化史演習Ⅰ	2・3 ①		1			○			1				
	ヨーロッパ都市文化史演習Ⅱ	2・3 ②		1			○			1				
	横浜都市文化史演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	横浜都市文化史演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
	コミュニティ論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1				
	コミュニティ論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1				
ジェンダー社会論演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1					
ジェンダー社会論演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1					
政治社会学演習Ⅰ	2・3 ④		1			○			1					
政治社会学演習Ⅱ	2・3 ⑤		1			○			1					
グローバル情報発信演習Ⅰ	1 ④～⑤		1			○							兼1	
グローバル情報発信演習Ⅱ	2 ①～②		1			○							兼1	
広告芸術演習AⅠ	1 ④		1			○							兼1	
広告芸術演習AⅡ	1 ⑤		1			○							兼1	
広告芸術演習BⅠ	2 ①		1			○							兼1	
広告芸術演習BⅡ	2 ②		1			○							兼1	

教育課程等の概要																
(都市科学部 都市社会共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部教育科目 専門科目 スタジオ	多民族都市文化共生演習	2 ④～⑤		1			○								兼1	英語
	横浜都市文化共生演習	3 ①～②		1			○								兼1	英語
	小計 (48科目)	— —	0	48	0	—			11	5	2	0	0	兼4		
	海外研究スタジオA I	2 ①～②		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオA II	2 ④～⑤		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオA III	3 ①～②		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオA IV	3 ④～⑤		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオB I	2 ①～②		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオB II	2 ④～⑤		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオB III	3 ①～②		3			○		4	2						※実習、共同
	海外研究スタジオB IV	3 ④～⑤		3			○		4	2						※実習、共同
	社会文化批評スタジオA I	2 ①～②		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオA II	2 ④～⑤		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオA III	3 ①～②		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオA IV	3 ④～⑤		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオB I	2 ①～②		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオB II	2 ④～⑤		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオB III	3 ①～②		3			○		3	1						※実習、共同
	社会文化批評スタジオB IV	3 ④～⑤		3			○		3	1						※実習、共同
	社会分析スタジオA I	2 ①～②		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオA II	2 ④～⑤		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオA III	3 ①～②		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオA IV	3 ④～⑤		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオB I	2 ①～②		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオB II	2 ④～⑤		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオB III	3 ①～②		3			○		3	2	1					※実習、共同
	社会分析スタジオB IV	3 ④～⑤		3			○		3	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオA I	2 ①～②		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオA II	2 ④～⑤		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオA III	3 ①～②		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオA IV	3 ④～⑤		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオB I	2 ①～②		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオB II	2 ④～⑤		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオB III	3 ①～②		3			○		1	2	1					※実習、共同
	文化創成スタジオB IV	3 ④～⑤		3			○		1	2	1					※実習、共同
	グローバルビジネス管理・運営スタジオ	3・4 ④～⑤		3			○								兼3	英語、共同
	グローバルビジネス広報PRスタジオ	3・4 ④～⑤		3			○								兼3	英語、共同
	グローバルビジネス創成スタジオ	3 ①～②		3			○								兼3	英語、共同
	グローバルビジネス分析評価スタジオ	2 ④～⑤		3			○								兼3	英語、共同
	グローバルリーダーシップ入門スタジオ	1 ④～⑤		3			○								兼3	英語、共同
コラボレーティブ・アソシエイトシップ・スタジオ	3 ①～②		3			○								兼3	英語、共同	
コラボレーティブ・スタディーズ・スタジオ	2 ①～②		3			○								兼3	英語、共同	

教育課程等の概要															
(都市科学部 都市社会共生学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スタジオ	リーダーシップ・ファシリテーション・スタジオ	4 ①～②		3				○						兼3	英語、共同
	小計(40科目)	— —	0	120	0	—			11	7	2	0	0	兼3	
	インターンシップA	2・3・4 ①～②		2				○		1					
インターンシップB	2・3・4 ④～⑤		2				○		1						
小計(2科目)	— —	0	4	0	—			0	1	0	0	0			
学部教育科目 専門科目 関連科目	イノベーション思想史Ⅰ	2・3 ①		1				○						兼1	
	イノベーション思想史Ⅱ	2・3 ②		1				○						兼1	
	グローバル・エコノミー入門	2・3 ④～⑤		2				○						兼1	
	経営戦略論	3 ①～②		2				○						兼1	
	合意形成論	3 ②		1				○						兼1	
	国際経営論Ⅰ	3 ①～②		2				○						兼2	
	国際経営論Ⅱ	3 ④～⑤		2				○						兼2	
	国際法	2・3 ④～⑤		2				○						兼1	
	社会環境リスク共生概論A(都市環境)	2・3 ①		1				○						兼5	オムニバス
	リスク共生社会基礎論	2・3 ②		1				○						兼4	オムニバス
	西洋建築史Ⅰ	2・3 ①		1				○						兼1	
	西洋建築史Ⅱ	2・3 ②		1				○						兼1	
	都市計画とまちづくりⅠ	3 ①		1				○						兼1	
	都市計画とまちづくりⅡ	3 ②		1				○						兼1	
	都市交通計画	3 ④		1				○						兼1	
	途上国における都市づくりⅠ	3 ④		1				○						兼1	
	途上国における都市づくりⅡ	3 ⑤		1				○						兼1	
	土木史と文明Ⅰ	2・3 ④		1				○						兼1	
	土木史と文明Ⅱ	2・3 ⑤		1				○						兼1	
	日本建築史Ⅰ	2・3 ④		1				○						兼1	
	日本建築史Ⅱ	2・3 ⑤		1				○						兼1	
	人間生活と建築計画Ⅰ	2・3 ④		1				○						兼1	
	人間生活と建築計画Ⅱ	2・3 ⑤		1				○						兼1	
	マクロ経済学入門	2・3 ④～⑤		2				○						兼1	
	ミクロ経済学入門	2・3 ①～②		2				○						兼1	
	法学入門	2・3 ④～⑤		2				○						兼1	
	雇用社会論	2・3 ①～②		2				○						兼1	
	産業社会論	2・3 ④～⑤		2				○						兼1	
	NPO論	2・3 ①		1				○						兼1	
	現代社会福祉	3 ④		2				○						兼1	
	合意形成とリスクⅠ	3 ①		1				○						兼1	
	合意形成とリスクⅡ	3 ②		1				○						兼1	
高齢社会とリスクB	2 ⑤		1				○						兼1		
ランドスケープ論Ⅰ	2・3 ④		1				○						兼1		
ランドスケープ論Ⅱ	2・3 ⑤		1				○						兼1		
事業計画と知的財産	2・3 ①～②		2				○						兼1	英語	
実用ICTプロジェクトとセキュリティ	2・3 ①～②		2				○						兼1	英語	

教育課程等の概要																
(都市科学部 都市社会共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部教育科目	関連科目	実用数理モデリング	2・3	④～⑤	2		○								兼1	英語
		都市社会マネジメント (国際貿易政策Ⅰ)	2・3	①～②	2		○								兼1	英語
		都市社会マネジメント (国際貿易政策Ⅱ)	2・3	④～⑤	2		○								兼1	英語
		都市創成技術 (化学・生命学)	2・3	④～⑤	2		○								兼1	英語
		都市創成技術 (化学・生命学演習)	2・3	①～②	2			○							兼1	英語
		都市創成技術 (機械工学・材料学)	2・3	①～②	2		○								兼1	英語
		都市創成技術 (機械工学・材料学演習)	2・3	④～⑤	2			○							兼1	英語
		都市創成技術 (数物・電子情報学)	2・3	①～②	2		○								兼1	英語
		都市創成技術 (数物・電子情報学演習)	2・3	④～⑤	2			○							兼1	英語
		剽窃とその規制	2・3	④～⑤	2		○								兼1	英語
	小計 (47科目)	—	—	0	70	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼37	
	卒業関連	課題演習A	4	①～②	2			○		11	7	2				
		課題演習B	4	④～⑤	2			○		11	7	2				
		卒業研究A	4	①～②	2			○		11	7	2				
卒業研究B		4	④～⑤	2			○		11	7	2					
小計 (4科目)	—	—	8	0	0	—	—	11	7	2	0	0				
合計 (230科目)		—	—	18	378	0	—	—	11	7	2	0	0	兼80		
総計 (439科目)		—	—	18	743	0	—	—	11	7	2	0	0	兼245		
学位又は称号			学士 (学術)			学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>・全学教育科目30単位以上、学部教育科目から94単位以上、合計124単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目 (※) のGPAが2.0以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。</p> <p>・全学教育科目については、人文社会系基礎科目4単位以上、自然科学系基礎科目4単位以上、英語6単位以上と初修外国語4単位以上を含む外国語12単位以上を修得すること。また高度全学教育科目として設定しているグローバル教育科目及びイノベーション教育科目及び学科が指定する基礎科目の中から合計4単位以上を3年次あるいは4年次に修得すること。ただし、YCCSプログラムにおいては、外国語は日本語で代替することができる。</p> <p>・学部教育科目については、学部共通科目14単位以上を含む94単位以上を修得すること。</p> <p>・都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目 (基幹知科目) については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。YCCS学生は英語による開講科目を、その他の学生は日本語による開講科目を履修すること。</p> <p>・都市社会共生学科の科目としては、アカデミックリテラシー、情報リテラシー、シビックリテラシーの内容を含んだ基礎演習科目1単位、人文社会科学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目5単位、学科専門科目74単位以上を含む合計80単位以上を修得すること。ただし、YCCSプログラムにおいては、基礎演習科目を2単位、学科専門基礎科目を6単位とする。</p> <p>・学科専門科目は、コモンズ・ベーシック科目 (選択必修) 8単位 (うち「社会と共生の学び (社会学領域)」から4単位以上)、コモンズ・アドバンス科目 (選択必修) 16単位 (うち「社会と共生の学び (社会学領域)」から8単位以上)、スタジオ科目 (選択必修) 24単位、ローカル/グローバル科目とインターンシップ科目及び関連科目 (建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科、経済学部、経営学部による提供科目) の中から合わせて18単位 (うちローカル/グローバル科目を14単位以上)、卒業研究関連科目から8単位の合計74単位以上を修得すること。</p> <p>・学部教育科目のうち2単位以上は、英語を使用または英語のテキストを中心的に用いる英語関連科目を修得すること。</p> <p>※以下の科目についてはGPAの対象外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前既修得単位として認定された科目</li> <li>・他大学開講科目で単位認定された科目</li> <li>・交換留学 (派遣) による認定科目</li> <li>・「合格」、「不合格」で評価される科目 (海外演習A、B)</li> </ul>							1学年の学期区分			2学期 6ターム制 「配当年次」欄における学期区分の記載方法 第1ターム：4月～5月→① 第2ターム：6月～7月→② 第3ターム：8月～9月→③ 第4ターム：10月～11月→④ 第5ターム：12月～1月→⑤ 第6ターム：2月～3月→⑥						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 建築学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学 教育科目	基礎科目 人文社会系	英米文学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		音楽と自然	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		危機管理学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		基礎造形A	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		経済学の諸課題Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		経済学の諸課題Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代芸術論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代政治(国際)	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代政治(日本)	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代の会計と社会	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		現代の経済A	1・2・3・4	①～②		2		○									兼2
		現代の経済B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼2
		現代の物流経営	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		鍵盤楽器の名曲	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 国際交流における日本語の役割	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 国際日本学入門	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		国際理解 台湾の文化と社会	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 日韓比較文化論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 日本語をめぐる国際交流史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		色彩論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学概論A	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		社会科学概論B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学の方法	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学の歴史	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		社会生活と法	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		宗教学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		生涯発達論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		職業と教育	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		心理学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		心理学史入門	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		水彩画基礎技術	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		地域課題実習Ⅰ	1・2・3・4	①～②		1				○							兼1
		地域課題実習Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		1				○							兼1
地誌学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
中国の古典文学	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		
哲学	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		
東洋思想史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
都市と建築	1・2・3・4	④～⑤		2		○				6	4				オムニバス		
日本近現代史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
日本前近代史	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		

教育課程等の概要																
(都市科学部 建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文社会系	日本国憲法	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2		○									兼1	
	日本の近代文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	日本の言語	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	美術の見かた	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と自然のかかわり	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と動物の関係学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	文化人類学の考え方	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ベンチャーから学ぶマネジメント	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	法と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	民族音楽学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	木材と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ヨーロッパ文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	横浜学--地域の再発見--	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	倫理学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	音声言語学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1 英語	
	記述言語学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1 英語	
	小計(58科目)	— —	0	114	0	—				6	4	0	0	0	兼51	
	基礎科目	ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼2
		Webページ作成入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1
衣生活の科学		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
エネルギー工学序論		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼2 共同	
エネルギーと環境		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
海洋工学と社会		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼11	
環境化学概論		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
環境リスクとつきあうⅠ		1・2・3・4 ①		1		○									兼3 オムニバス	
環境リスクとつきあうⅡ		1・2・3・4 ②		1		○									兼3 オムニバス	
環境をめぐる諸問題Ⅰ		1・2・3・4 ④		1		○									兼5 オムニバス	
環境をめぐる諸問題Ⅱ		1・2・3・4 ⑤		1		○									兼5 オムニバス	
健康の科学		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
建築の環境と防災		1・2・3・4 ④～⑤		2		○				2	6				兼1 オムニバス	
国土学とグローバル社会Ⅰ		1・2・3・4 ①		1		○									兼5 オムニバス	
国土学とグローバル社会Ⅱ		1・2・3・4 ②		1		○									兼5 オムニバス	
古生物の科学Ⅰ		1・2・3・4 ①		1		○									兼1	
古生物の科学Ⅱ		1・2・3・4 ②		1		○									兼1	
材料学入門		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼9 オムニバス	
実験で学ぶ物理学B		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
情報工学概論		1 ①～②		2		○									兼9	
情報セキュリティ入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1		
情報と社会	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1		
情報ネットワークシステム入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1		

教育課程等の概要																
(都市科学部 建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 教育科目	基礎科目 自然科学系	食環境論	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		数理科学Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9	
		数理科学Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼9	
		数理科学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼9	
		生物地理学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		生物の世界Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○								兼4	
		生物の世界Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○								兼7	
		生命科学	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
		線形代数Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9	
		線形代数Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼9	
		線形代数学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		体験物理科学A	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼3	
		体験物理科学B	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼3	
		地球環境と情報	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		地球と惑星の科学Ⅰ	1・2・3・4 ④		1		○								兼1	
		地球と惑星の科学Ⅱ	1・2・3・4 ⑤		1		○								兼1	
		地質リスクマネジメントⅠ	1・2・3・4 ④		1		○								兼1	
		地質リスクマネジメントⅡ	1・2・3・4 ⑤		1		○								兼1	
		統計学Ⅰ-A	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		統計学Ⅰ-C	2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	統計学Ⅱ-A	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
	統計学Ⅱ-C	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
	微分積分Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9		
	微分積分Ⅱ	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼9		
	物理工学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼21		
	文系のための数学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1		
	身近な電気と機械	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1		
	ICTプロジェクト	1・2・3・4 ③		2				○						兼1		
	ICTリテラシー	1・2・3・4 ⑥		2				○						兼1		
		小計（52科目）	— —	0	90	0	—				2	6	0	0	0	兼109
	イノベーション 教育科目	社会実装 略	知的財産権	3・4 ①～②		2		○								兼1
			知的財産法	2・3 ④～⑤		2		○								兼1
小計（2科目）			— —	0	4	0	—				0	0	0	0	0	兼2
技術革新 考		システム・エンジニアリング	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		数理統計	2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
		小計（2科目）	— —	0	4	0	—				0	0	0	0	0	兼2
キャリア		Wake up! プロジェクト	1 ①～②		2		○								兼1	
	キャリア・ケーススタディ	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
	キャリアデザイン	1・2 ①～②		2		○								兼1		
	グローバルビジネス・コミュニケーション	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
	ビジネス・コミュニケーション	2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
	まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	1 ①～②		2		○								兼1		

教育課程等の概要														
(都市科学部 建築学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
イノベーション教育科目	まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2・3・4 ①～②		2		○								兼1
	ライフキャリアを考える	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	生涯設計とグローバルキャリアデザイン	1・2・3・4 ①～②		2			○							兼1 英語
	小計 (9科目)	— —	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼3
グローバル教育科目	アカデミック・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	アラブの言語と文化	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	英語による異文化間理解	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	グローバルキャリア向け英文読解と要約	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1 英語
	グローバルワーク向け英文読解と要約	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	多言語・多文化運用演習A	1・2・3・4 ④～⑤		2			○							兼1 英語
	多言語・多文化運用演習B	1・2・3・4 ①～②		2			○							兼1 英語
	ビジネス・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1 英語
	海外演習A	2・3 ③, ⑥		1			○							兼1 英語
	小計 (9科目)	— —	0	17	0	—			0	0	0	0	0	兼3
各国事情	インドネシア事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	日本事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	パラグアイ事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	ブラジル事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	ベトナム事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
小計 (5科目)	— —	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
健康スポーツ科目	健康スポーツ演習B	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼5
	小計 (1科目)	— —	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼5
外国語科目	英語プレゼンテーション	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語ライティング	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語LR	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	自立英語	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語演習1 a	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習1 b	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習1 c	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習2 a	3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習2 b	3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	小計 (9科目)	— —	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼4
初修外国語	ドイツ語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○						兼2
	ドイツ語実習2 a	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語実習1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語実習2 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2

教育課程等の概要															
(都市科学部 建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目 外国語科目 初修外国語	ドイツ語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	フランス語実習 1 a	1・2・3 ①～②		1				○						兼1	
	フランス語実習 1 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	フランス語実習 2 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	フランス語実習 2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	フランス語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	フランス語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	中国語実習 1 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	中国語実習 2 a	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語実習 1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語実習 2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	中国語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	ロシア語実習 1 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	ロシア語実習 1 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	ロシア語実習 2 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	ロシア語実習 2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	ロシア語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	ロシア語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	朝鮮語実習 1	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	朝鮮語実習 2	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	朝鮮語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	朝鮮語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	イスパニア語実習 1	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	イスパニア語実習 2	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	イスパニア語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	イスパニア語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	ギリシャ語	2・3・4 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	ラテン語	2・3・4 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	海外演習 B	2・3・4 ①～② ④～⑤		2				○						兼1	
	小計 (35科目)		— —	0	48	0	—			0	0	0	0	0	兼11
	日本語	日本語中級 A	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級 B	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級 C	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級 D	1・2 ①～②		1				○						兼1
日本語中級 E		1・2 ①～②		1				○						兼1	
日本語中級 F		1・2 ①～②		1				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 建築学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全学 教育科目	外国語科目 日本語	日本語中級G	1・2	①～②		1				○							兼1	
		日本語上級A	1・2・3	①～②		1				○							兼1	
		日本語上級B	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級C	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級D	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級E	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級F	1・2・3	①～②		1				○							兼1	
		日本語上級G	1・2・3	④～⑤		2				○							兼1	
		日本語上級H	1・2・3	①～②		1				○							兼1	
		日本語上級I	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級J	1・2・3	④～⑤		1				○							兼1	
		日本語上級K	1・2・3	①～②		1				○							兼1	
		日本語演習A	1・2・3	④～⑤		2					○						兼1	
		日本語演習B	1・2・3	④～⑤		2					○						兼1	
		日本語演習C	1・2・3	①～②		2					○						兼1	
小計 (21科目)		—	—	0	25	0			—		0	0	0	0	0	兼6		
合計 (203科目)		—	—	0	346	0			—		8	10	0	0	0	兼192		
学部 教育科目	基礎 科目 演習	建築学概論・演習	1	①～②		3				○		8	10				オムニバス 共同 (一部)	
		小計 (1科目)	—	—		3	0	0		—		8	10	0	0	0		
	都市 科学 の 基 礎	都市科学A (グローバル・ローカル)	1	①～②		2				○		1					兼3	オムニバス
		都市科学B (リスク共生)	1	④		1				○		1					兼1	オムニバス
		都市科学C (イノベーション)	1	⑤		1				○		1					兼3	オムニバス
		小計 (3科目)	—	—		4	0	0		—		1	0	0	0	0	兼7	
	グ ロ ー バ ル ・ ロ ー カ ル 関 連 科 目	地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	1	①～②		2				○							兼1	
		地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	1	④～⑤		2				○							兼1	
		都市社会基礎論	1	④～⑤		2				○							兼1	
		社会調査法A	2	①		1				○							兼1	
		社会調査法B	2	①		1				○							兼1	
		G I Sによる地域解析概論	2・3・4	①～②		2				○			1					
		メタデータ分析とリスク予測	2・3	①～②		2				○							兼1	英語
		組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント	2・3	④～⑤		2				○							兼1	英語
		都市リスクの空間分析とマネジメントA	2	①		1				○			1					
		建築芸術史論A	2・3・4	①		1				○			1	1				共同
		建築芸術史論B	2・3・4	②		1				○			1	1				共同
	都市基盤構造力学	1	④		1				○							兼1		
	都市基盤材料複合力学	2	④		1				○							兼1		
小計 (13科目)	—	—		0	19	0			—		2	2	0	0	0	兼7		
リ ス ク 共 生 関 連 科 目	生態リスク学入門	1	①		1				○							兼1		
	リスク分析のための情報処理A	2	④		1				○							兼1		
	高齢社会とリスクA	2	④		1				○							兼1		
	都市環境リスク共生論A	2	④		1				○			1						

教育課程等の概要																
(都市科学部 建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	リスク共生関連科目	社会リスク学A	2	①		1		○							兼1	
		社会リスク学B	2	②		1		○							兼1	
		居住空間の計画Ⅰ	2	①		1		○			1					
		居住空間の計画Ⅱ	2	②		1		○			1					
		都市基盤水理学	2	①		1		○							兼1	
		都市基盤土質力学	2	①		1		○							兼1	
		小計 (10科目)	—	—	0	10	0		—		1	1	0	0	0	兼6
	イノベーション関連科目	企業経営とオペレーション	2・3	①～②		2		○							兼1	英語
		都市基盤計画論	1	①		1		○							兼1	
		グローバルビジネスとイノベーションA	3	④		1		○							兼1	
		建築と都市のメディア・デザインⅠ	2・3・4	①		1		○							兼1	※演習
		建築と都市のメディア・デザインⅡ	2・3・4	②		1		○							兼1	※演習
		社会デザイン・フューチャーセッション	1	③		1		○			8	10				オムニバス
		都市生態学	1	⑤		1		○							兼1	
ジェンダーと共生 (開発)	2	⑤		1		○							兼1			
ジェンダーと共生 (文化)	2	⑤		1		○							兼1	英語		
建築と社会のデザイン	1・2・3・4	②		1		○						1				
小計 (10科目)	—	—	0	11	0		—		8	10	0	0	0	兼7		
学部教育科目	専門基礎科目	解析学Ⅰ	1	①～②		2		○							兼9	
		解析学Ⅱ	1	④～⑤		2		○							兼9	
		確率・統計	3	④～⑤		2		○							兼9	
		図学Ⅰ	1	①～②		2		○							兼1	
		図学Ⅱ	1	④～⑤		2		○							兼1	
		線形代数学Ⅰ	1	①～②		2		○							兼9	
		線形代数学Ⅱ	1	④～⑤		2		○							兼9	
		微分方程式Ⅰ	1	①～②		2		○							兼9	
		微分方程式Ⅱ	2	④～⑤		2		○							兼9	
		物理学ⅠA	1	①～②		2		○							兼23	
		物理学ⅠB	1	④～⑤		2		○							兼22	
		小計 (11科目)	—	—	0	22	0		—		0	0	0	0	0	兼33
専門科目	専門コア科目	絵画・彫塑・基礎デザインⅠ	1	①～②		2		○							兼1	
		絵画・彫塑・基礎デザインⅡ	1	④～⑤		2		○							兼1	
		近代建築史A	3	①		1		○				1				
		近代建築史B	3	②		1		○			1					
		建築・都市環境工学演習	2	④～⑤		3			○			2			共同	
		建築インターンシップ	3	③		2			○		8	10				
		建築音・光環境A	3	①		1		○				1				
		建築音・光環境B	3	②		1		○				1				
		建築環境計画Ⅰ	2	①		1		○				1				
		建築環境計画Ⅱ	2	②		1		○				1				
		建築構造・構法設計演習	3	④～⑤		4			○			4			兼1	オムニバス
		建築構造解析Ⅰ・演習	1	④～⑤		3			○			1				



教育課程等の概要																
(都市科学部 建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門コア科目	鉄骨構造・演習	3 ①～②		3				○			1					
	都市環境設備計画Ⅰ	3 ①		1			○				1					
	都市環境設備計画Ⅱ	3 ②		1			○				1					
	都市計画とまちづくりⅠ	3 ①		1			○			1						
	都市計画とまちづくりⅡ	3 ②		1			○			1						
	都市と都市計画Ⅰ	2 ④		1			○			1						
	都市と都市計画Ⅱ	2 ⑤		1			○			1						
	日本建築史Ⅰ	2 ④		1			○			1						
	日本建築史Ⅱ	2 ⑤		1			○			1						
	人間生活と建築計画Ⅰ	2 ④		1			○				1					
	人間生活と建築計画Ⅱ	2 ⑤		1			○				1					
	フィールドワーク論・演習Ⅰ	2 ①		1				○				1				
	フィールドワーク論・演習Ⅱ	2 ②		1				○				1				
	ランドスケープ論Ⅰ	2 ④		1			○								兼1	
	ランドスケープ論Ⅱ	2 ⑤		1			○								兼1	
都市環境リスク共生論B	2 ⑤		1			○				1						
小計 (70科目)	— —		15	99	0			—		8	10	0	0	0	兼8	
学部教育科目	専門科目	環境・エネルギーシステム論Ⅰ	2 ④		1			○								兼1
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	2 ⑤		1			○								兼1
		環境法Ⅰ	2 ①		1			○								兼1
		環境法Ⅱ	2 ②		1			○								兼1
		空間芸術論講義	3 ①～②		2			○								兼1
		建設の国際プロジェクト・マネジメントⅠ	3 ④		1			○								兼3 オムニバス
		建設の国際プロジェクト・マネジメントⅡ	3 ⑤		1			○								兼3 オムニバス
		現代芸術論講義	3 ①～②		2			○								兼1
		現代都市文化論講義	3 ①～②		2			○								兼1
		建築プレゼンテーション	3 ①～②		2			○								兼1
		合意形成論	3 ②		1			○								兼1
	専門関連科目	里地と山地の生態学Ⅰ	2 ④		1			○								兼3 共同
		里地と山地の生態学Ⅱ	2 ⑤		1			○								兼2 共同
		資源循環・廃棄物学Ⅰ	3 ①		1			○								兼1
		資源循環・廃棄物学Ⅱ	3 ②		1			○								兼1
		構造動力学Ⅰ	3 ①		1			○								兼1
		構造動力学Ⅱ	3 ②		1			○								兼1
		土質力学Ⅱ	2 ②		1			○								兼1
		都市・地域経済学Ⅰ	2 ④		1			○								兼1
		都市・地域経済学Ⅱ	2 ⑤		1			○								兼1
		都市下水工学	3 ⑤		1			○								兼1
		都市交通計画	3 ④		1			○								兼1
		都市上水工学	3 ④		1			○								兼1
都市文芸文化論演習Ⅰ	4 ①		1				○							兼1		
都市文芸文化論演習Ⅱ	4 ②		1				○							兼1		

教育課程等の概要															
(都市科学部 建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部教育科目 専門科目 専門関連科目	水理学Ⅱ	2 ②		1		○									兼1
	文化人類学講義	2 ④～⑤		2		○									兼1
	メンテナンス工学Ⅰ	3 ④		1		○									兼1
	メンテナンス工学Ⅱ	3 ⑤		1		○									兼1
	都市創成技術（建築都市・環境学）	2・3 ①～②		2		○			1						兼2
	建築実践英語A	2・3 ④		1		○			2						英語・ 隔年・ 共同
	建築実践英語B	2・3 ④		1		○			2						英語・ 隔年・ 共同
小計（32科目）		— —	0	38	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	兼27
合計（150科目）		— —	22	199	0	—	—	—	8	10	0	0	0	0	兼82
総計（353科目）		— —	22	545	0	—	—	—	8	10	0	0	0	0	兼223
学位又は称号			学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<ul style="list-style-type: none"> <li>全学教育科目30単位以上、学部教育科目から94単位以上、合計124単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目のGPA（※）が2.0以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。</li> <li>全学教育科目については、人文社会系基礎科目4単位以上、自然科学系基礎科目4単位以上、英語6単位以上と初修外国語2単位以上を含む外国語10単位以上を修得すること。また高度全学教育科目として設定しているグローバル教育科目及びイノベーション教育科目及び学科が指定する基礎科目の中から合計4単位以上を3年次あるいは4年次に修得すること。ただし、YGEP-N1においては、外国語は日本語で代替することができる。</li> <li>学部教育科目については、学部共通科目14単位以上を含む94単位以上を修得すること。</li> <li>都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目（基幹知科目）については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。</li> <li>建築学科の科目としては、アカデミックリテラシー、情報リテラシー、シビックリテラシーの内容を含んだ基礎演習科目3単位、理工学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目12単位以上、専門コア科目及び専門関連科目からなる学科専門科目63単位以上を含む合計80単位以上を修得すること。</li> <li>学科専門基礎科目では、「解析学Ⅰ」、「解析学Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ」、「線形代数学Ⅱ」、「微分方程式Ⅰ」、「関数論」、「図学Ⅰ」、「図学Ⅱ」、「確率・統計」の中からの10単位以上を含む12単位を修得すること。</li> <li>学科専門科目は、専門コア科目から必修科目15単位、選択必修科目25単位を含み、専門関連科目から4単位以上を含む合計63単位以上を修得すること。</li> <li>学科専門科目の選択必修科目は、建築理論（AT）分野、構造工学（SE）分野、都市環境（UE）分野からそれぞれ4単位以上を含む25単位以上を修得すること。</li> <li>学部教育科目のうち2単位以上は、英語で開講されている科目を修得すること。</li> </ul> <p>※以下の科目についてはGPAの対象外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前既修得単位として認定された科目</li> <li>他大学開講科目で単位認定された科目</li> <li>交換留学（派遣）による認定科目</li> <li>「合格」、「不合格」で評価される科目（海外演習A、B）</li> </ul>							1学年の学期区分			2学期 6ターム制 「配当年次」欄における学期区分の記載方法 第1ターム：4月～5月→① 第2ターム：6月～7月→② 第3ターム：8月～9月→③ 第4ターム：10月～11月→④ 第5ターム：12月～1月→⑤ 第6ターム：2月～3月→⑥					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市基盤学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学 教育科目	基礎科目 人文社会系	英米文学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		音楽と自然	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		危機管理学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		基礎造形A	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		経済学の諸課題Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		経済学の諸課題Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代芸術論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代政治 (国際)	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代政治 (日本)	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		現代の会計と社会	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		現代の経済A	1・2・3・4	①～②		2		○									兼2
		現代の経済B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼2
		現代の物流経営	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		鍵盤楽器の名曲	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 国際交流における日本語の役割	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 国際日本学入門	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		国際理解 台湾の文化と社会	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 日韓比較文化論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		国際理解 日本語をめぐる国際交流史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		色彩論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学概論A	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		社会科学概論B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学の方法	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		社会科学の歴史	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		社会生活と法	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		宗教学	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		生涯発達論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		職業と教育	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1
		心理学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		心理学史入門	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		水彩画基礎技術	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1
		地域課題実習Ⅰ	1・2・3・4	①～②		1				○							兼1
地域課題実習Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		1				○							兼1		
地誌学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
中国の古典文学	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		
哲学	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		
東洋思想史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
都市と建築	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼10		
日本近現代史	1・2・3・4	④～⑤		2		○									兼1		
日本前近代史	1・2・3・4	①～②		2		○									兼1		

オムニバス

教育課程等の概要																
(都市科学部 都市基盤学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文社会系	日本国憲法	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2		○									兼1	
	日本の近代文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	日本の言語	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	美術の見かた	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と自然のかかわり	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	人と動物の関係学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	文化人類学の考え方	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ベンチャーから学ぶマネジメント	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	法と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	民族音楽学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	木材と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ヨーロッパ文学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	横浜学--地域の再発見--	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	倫理学	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	音声言語学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1 英語	
	記述言語学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1 英語	
	小計 (58科目)	— —	0	114	0	—				0	0	0	0	0	兼61	
	基礎科目	ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼2
		Webページ作成入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1
衣生活の科学		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
エネルギー工学序論		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼2 共同	
エネルギーと環境		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
海洋工学と社会		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼11	
環境化学概論		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
環境リスクとつきあう I		1・2・3・4 ①		1		○									兼3 オムニバス	
環境リスクとつきあう II		1・2・3・4 ②		1		○									兼3 オムニバス	
環境をめぐる諸問題 I		1・2・3・4 ④		1		○									兼5 オムニバス	
環境をめぐる諸問題 II		1・2・3・4 ⑤		1		○									兼5 オムニバス	
健康の科学		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
建築の環境と防災		1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼8 オムニバス	
国土学とグローバル社会 I		1・2・3・4 ①		1		○				4					兼1 オムニバス	
国土学とグローバル社会 II		1・2・3・4 ②		1		○				4					兼1 オムニバス	
古生物の科学 I		1・2・3・4 ①		1		○									兼1	
古生物の科学 II		1・2・3・4 ②		1		○									兼1	
材料学入門		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼9 オムニバス	
実験で学ぶ物理学 B		1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
情報工学概論		1 ①～②		2		○									兼9	
情報セキュリティ入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1		
情報と社会	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1		
情報ネットワークシステム入門	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1		

教育課程等の概要																
(都市科学部 都市基盤学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 教育科目	基礎科目 自然科学系	食環境論	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1	
		数理科学Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○							兼9	
		数理科学Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼9	
		数理科学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼9	
		生物地理学入門	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1	
		生物の世界Ⅰ	1・2・3・4	①		1		○							兼4	
		生物の世界Ⅱ	1・2・3・4	②		1		○							兼7	
		生命科学	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼1	
		線形代数Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○							兼9	
		線形代数Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼9	
		線形代数学入門	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1	
		体験物理科学A	1・2・3・4	①～②		2		○							兼3	
		体験物理科学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼3	
		地球環境と情報	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1	
		地球と惑星の科学Ⅰ	1・2・3・4	④		1		○							兼1	
		地球と惑星の科学Ⅱ	1・2・3・4	⑤		1		○							兼1	
		地質リスクマネジメントⅠ	1・2・3・4	④		1		○							兼1	
		地質リスクマネジメントⅡ	1・2・3・4	⑤		1		○							兼1	
		統計学Ⅰ-A	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1	
		統計学Ⅰ-C	2・3・4	①～②		2		○							兼1	
	統計学Ⅱ-A	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼1		
	統計学Ⅱ-C	2・3・4	④～⑤		2		○							兼1		
	微分積分Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○							兼9		
	微分積分Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○							兼9		
	物理工学概論	1・2・3・4	①～②		2		○							兼21		
	文系のための数学入門	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1		
	身近な電気と機械	1・2・3・4	①～②		2		○							兼1		
	ICTプロジェクト	1・2・3・4	③		2			○						兼1		
	ICTリテラシー	1・2・3・4	⑥		2			○						兼1		
	小計(52科目)		— —	0	90	0			—		4	0	0	0	0	兼113
	イノベーション 教育科目	社会実装 戦略	知的財産権	3・4	①～②		2		○						兼1	
			知的財産法	2・3	④～⑤		2		○						兼1	
小計(2科目)			— —	0	4	0			—		0	0	0	0	兼2	
技術革新 思考		システム・エンジニアリング	1・2・3・4	①～②		2		○						兼1		
		数理統計	2・3・4	①～②		2		○						兼1		
小計(2科目)			— —	0	4	0			—		0	0	0	0	兼2	
キャリア	Wake up! プロジェクト	1	①～②		2		○							兼1		
	キャリア・ケーススタディ	2・3・4	④～⑤		2		○							兼1		
	キャリアデザイン	1・2	①～②		2		○							兼1		
	グローバルビジネス・コミュニケーション	2・3・4	④～⑤		2		○							兼1		
	ビジネス・コミュニケーション	2・3・4	④～⑤		2		○							兼1		
まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	1	①～②		2		○							兼1			

教育課程等の概要														
(都市科学部 都市基盤学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
イノベーション教育科目	まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2・3・4 ①～②		2		○								兼1
	ライフキャリアを考える	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	生涯設計とグローバルキャリアデザイン	1・2・3・4 ①～②		2			○							兼1 英語
	小計(9科目)	— —	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼3
グローバル教育科目	アカデミック・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	アラブの言語と文化	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	英語による異文化間理解	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	グローバルキャリア向け英文読解と要約	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1 英語
	グローバルワーク向け英文読解と要約	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語
	多言語・多文化運用演習A	1・2・3・4 ④～⑤		2			○							兼1 英語
	多言語・多文化運用演習B	1・2・3・4 ①～②		2			○							兼1 英語
	ビジネス・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1 英語
	海外演習A	2・3 ③, ⑥		1			○							兼1 英語
	小計(9科目)	— —	0	17	0	—				0	0	0	0	0
各国事情	インドネシア事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	日本事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	パラグアイ事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	ブラジル事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
	ベトナム事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
小計(5科目)	— —	0	10	0	—				0	0	0	0	0	兼5
健康スポーツ科目	健康スポーツ演習B	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼5
	小計(1科目)	— —	0	2	0	—				0	0	0	0	0
外国語科目	英語プレゼンテーション	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語ライティング	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語LR	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	自立英語	1 ①～② ④～⑤		1				○						兼4
	英語演習1 a	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習1 b	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習1 c	2・3 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習2 a	3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	英語演習2 b	3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼4
	小計(9科目)	— —	0	14	0	—				0	0	0	0	0
初修外国語	ドイツ語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○						兼2
	ドイツ語実習2 a	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語実習1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語実習2 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○						兼2
	ドイツ語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2

教育課程等の概要															
(都市科学部 都市基盤学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目 外国語科目 初修外国語	ドイツ語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	フランス語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○						兼1	
	フランス語実習1 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	フランス語実習2 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	フランス語実習2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	フランス語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	フランス語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	中国語実習1 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	中国語実習2 a	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語実習1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語実習2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	中国語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	中国語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼2	
	ロシア語実習1 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	ロシア語実習1 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	ロシア語実習2 a	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	ロシア語実習2 b	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	ロシア語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	ロシア語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	朝鮮語実習1	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	朝鮮語実習2	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	朝鮮語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	朝鮮語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	イスパニア語実習1	1・2・3 ①～②		1					○					兼1	
	イスパニア語実習2	1・2・3 ④～⑤		1					○					兼1	
	イスパニア語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	イスパニア語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○							兼1	
	ギリシャ語	2・3・4 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	ラテン語	2・3・4 ①～② ④～⑤		1					○					兼1	
	海外演習B	2・3・4 ①～② ④～⑤		2				○						兼1	
	小計 (35科目)		— —	0	48	0	—			0	0	0	0	0	兼11
	日本語	日本語中級A	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級B	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級C	1・2 ①～②		1				○						兼1
		日本語中級D	1・2 ①～②		1				○						兼1
日本語中級E		1・2 ①～②		1				○						兼1	
日本語中級F		1・2 ①～②		1				○						兼1	

教育課程等の概要																		
(都市科学部 都市基盤学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全学教育科目	外国語科目 日本語	日本語中級G	1・2	①～②		1				○						兼1		
		日本語上級A	1・2・3	①～②		1				○						兼1		
		日本語上級B	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級C	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級D	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級E	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級F	1・2・3	①～②		1				○						兼1		
		日本語上級G	1・2・3	④～⑤		2				○						兼1		
		日本語上級H	1・2・3	①～②		1				○						兼1		
		日本語上級I	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級J	1・2・3	④～⑤		1				○						兼1		
		日本語上級K	1・2・3	①～②		1				○						兼1		
		日本語演習A	1・2・3	④～⑤		2				○						兼1		
		日本語演習B	1・2・3	④～⑤		2				○						兼1		
		日本語演習C	1・2・3	①～②		2				○						兼1		
		日本語専門語彙演習	1	①～②		2				○						兼2		
		留学生に対する日本語専門学習支援	1	①～②		2				○						兼2		
		都市基盤学のための日本語実践演習Ⅰ	1	①～②		1				○		1						
		都市基盤学のための日本語実践演習Ⅱ	1	①～②		1				○		1						
		都市基盤学のための日本語実践演習Ⅲ	1	④～⑤		1				○		1						
都市基盤学のための日本語実践演習Ⅳ	1	④～⑤		1				○		1								
小計 (27科目)		— —		0	33	0		—		1	0	0	0	0	兼6			
合計 (209科目)			— —	0	354	0		—		4	0	0	0	0	兼206			
学部教育科目	基礎科目演習	都市基盤応用数学Ⅰ	1	①		1			○			1						
		都市基盤応用数学Ⅱ	1	②		1			○			1						
		小計 (2科目)	— —		0	2	0		—		0	1	0	0	0			
	リテラシー科目	シミュレーションのための情報リテラシーⅠ	2	④		1			○				1					
		シミュレーションのための情報リテラシーⅡ	2	⑤		1			○				1					
		小計 (2科目)	— —		2	0	0		—		0	1	0	0	0			
	都市科学の基礎	都市科学A (グローバル・ローカル)	1	①～②		2			○			1				兼3	オムニバス	
		都市科学B (リスク共生)	1	④		1			○							兼2	オムニバス	
		都市科学C (イノベーション)	1	⑤		1			○			1				兼3	オムニバス	
		小計 (3科目)	— —		4	0	0		—		2	0	0	0	0	兼6		
		グローバル・ローカル関連科目	地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	1	①～②		2			○							兼1	
			地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	1	④～⑤		2			○							兼1	
			都市社会基礎論	1	④～⑤		2			○							兼1	
			社会調査法A	2	①		1			○							兼1	
			社会調査法B	2	①		1			○							兼1	
GISによる地域解析概論			2・3・4	①～②		2			○							兼1		
メタデータ分析とリスク予測			2・3	①～②		2			○							兼1	英語	
組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント			2・3	④～⑤		2			○							兼1	英語	
都市リスクの空間分析とマネジメントA	2		①		1			○							兼1			

教育課程等の概要															
(都市科学部 都市基盤学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	建築芸術史論A	2・3・4 ①		1		○								兼2	共同
	建築芸術史論B	2・3・4 ②		1		○								兼2	共同
	都市基盤構造力学	1 ④		1		○			1						
	都市基盤材料複合力学	2 ④		1		○								兼1	
	小計 (13科目)	— —	0	19	0	—			1	0	0	0	0	兼10	
	生態リスク学入門	1 ①		1		○								兼1	
	リスク分析のための情報処理A	2 ④		1		○								兼1	
	高齢社会とリスクA	2 ④		1		○								兼1	
	都市環境リスク共生論A	2 ④		1		○								兼1	
	社会リスク学A	2 ①		1		○								兼1	
	社会リスク学B	2 ②		1		○								兼1	
	居住空間の計画I	2 ①		1		○								兼1	
	居住空間の計画II	2 ②		1		○								兼1	
都市基盤水理学	2 ①		1		○				1						
都市基盤土質力学	2 ①		1		○				1						
小計 (10科目)	— —	0	10	0	—				0	2	0	0	0	兼6	
学部教育科目	企業経営とオペレーション	2・3 ①～②		2		○								兼1	英語
	都市基盤計画論	1 ①		1		○			1						
	グローバルビジネスとイノベーションA	3 ④		1		○								兼1	
	建築と都市のメディア・デザインI	2・3・4 ①		1		○								兼1	※演習
	建築と都市のメディア・デザインII	2・3・4 ②		1		○								兼1	※演習
	社会デザイン・フューチャーセッション	1 ③		1		○								兼18	オムニバス
	都市生態学	1 ⑤		1		○								兼1	
	ジェンダーと共生 (開発)	2 ⑤		1		○								兼1	
	ジェンダーと共生 (文化)	2 ⑤		1		○								兼1	英語
	建築と社会のデザイン	1・2・3・4 ②		1		○								兼1	
小計 (10科目)	— —	0	11	0	—				1	0	0	0	0	兼24	
専門基礎科目	応用数学	3 ④～⑤		2		○								兼9	
	解析学I	1 ①～②		2		○								兼9	
	解析学II	1 ④～⑤		2		○								兼9	
	確率・統計	2 ④～⑤		2		○								兼9	
	関数論	2 ④～⑤		2		○								兼9	
	計測	3 ①～②		2		○								兼3	
	情報処理概論	2 ①～②		2		○								兼1	
	図学I	1 ①～②		2		○								兼1	
	図学II	1 ④～⑤		2		○								兼1	
	線形代数学I	1 ①～②		2		○								兼9	
	線形代数学II	1 ④～⑤		2		○								兼9	
	地域経済政策	3 ②		2		○								兼1	
	土木史と文明I	2 ④	1			○				1					
	土木史と文明II	2 ⑤	1			○				1					
微分方程式I	1 ①～②		2		○								兼9		

教育課程等の概要															
(都市科学部 都市基盤学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	微分方程式Ⅱ	2 ④～⑤		2		○								兼9	
	物理学ⅠA	1 ①～②		2		○								兼23	
	物理学ⅠB	1 ④～⑤		2		○								兼22	
	物理学Ⅱ	1 ①～②		2		○								兼22	
	小計 (19科目)	— —	2	34	0	—			0	1	0	0	0	兼37	
学部教育科目 専門科目 専門コア科目	海外インターンシップ	3 ①～②		2			○		5	6					
	海岸防災工学Ⅰ	3 ①		1		○				1					
	海岸防災工学Ⅱ	3 ②		1		○				1					
	学外インターンシップ	3 ①～②		1			○		5	6					
	河川工学	3 ④		1		○								兼2	
	環境アセスメント	3 ①		1		○				1					
	環境水理学Ⅰ	3 ①		1		○			1						
	環境水理学Ⅱ	3 ②		1		○			1						
	気象災害リスクⅠ	2 ①		1		○								兼1	
	気象災害リスクⅡ	2 ②		1		○								兼1	
	建設の国際プロジェクト・マネジメントⅠ	3 ④		1		○								兼3 オムニバス	
	建設の国際プロジェクト・マネジメントⅡ	3 ⑤		1		○								兼3 オムニバス	
	建設材料とリサイクルⅠ	2 ①		1		○					1				
	建設材料とリサイクルⅡ	2 ②		1		○					1				
	合意形成論	3 ②		1		○					1				
	公共交通工学	3 ④～⑤		1		○				1					
	鋼構造と都市インフラⅠ	3 ④		1		○				1					
	鋼構造と都市インフラⅡ	3 ⑤		1		○				1					
	構造力学Ⅱ	1 ⑤	1			○					1				
	構造力学Ⅲ	2 ①		1		○					1				
	構造力学Ⅳ	2 ②		1		○				1					
	構造力学演習	2 ④	1					○		1	1				オムニバス
	構造リスク設計論Ⅰ	4 ①		1		○									兼1
	構造リスク設計論Ⅱ	4 ②		1		○									兼1
	交通工学技術論	3 ④		1		○					1				
	交通工学理論	3 ⑤		1		○					1				
	国際基盤工学実習	3 ④～⑤		1				○		5	6				オムニバス
	国際連携科目 (海外拠点)	4 ③		2				○		5	6				
	コンクリート工学演習	3 ④	1					○							兼1
	鉄筋コンクリート構造	2 ⑤	1			○									兼1
資源循環・廃棄物学Ⅰ	3 ①		1		○				1						
資源循環・廃棄物学Ⅱ	3 ②		1		○				1						
地震防災都市論Ⅰ	2 ④		1		○									兼1	
地震防災都市論Ⅱ	2 ⑤		1		○									兼1	
土質力学Ⅱ	2 ②	1			○					1					
土質力学Ⅲ	2 ④		1		○				1						
土質力学Ⅳ	2 ⑤		1		○				1						

教育課程等の概要															
(都市科学部 都市基盤学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部教育科目 専門科目 専門コア科目 連科専門科目	地盤リスク工学Ⅰ	3 ①		1		○								兼1	
	地盤リスク工学Ⅱ	3 ②		1		○								兼1	
	構造動力学Ⅰ	3 ①		1		○			1						
	構造動力学Ⅱ	3 ②		1		○			1						
	水文水資源学	3 ⑤		1		○								兼1	
	水理学Ⅱ	2 ②	1			○				1					
	水理学Ⅲ	2 ④		1		○				1					
	水理学Ⅳ	2 ⑤		1		○				1					
	水理学演習	3 ①	1				○		1	1					オムニバス
	測量学	2 ①	1			○				1					
	測量学実習Ⅰ	2 ①～②	1					○						兼1	
	測量学実習Ⅱ	2 ③	1					○						兼1	
	卒業研究A	4 ①～②	2					○		5	6				
	卒業研究B	4 ④～⑤	3					○		5	6				
	都市環境実験・演習A	3 ①	1					○		3	4			兼1	共同
	都市環境実験・演習B	3 ②	1					○		2	2			兼1	共同
	都市環境設計製図Ⅰ	4 ①		1			○							兼2	オムニバス
	都市環境設計製図Ⅱ	4 ②		1			○							兼2	オムニバス
	都市基盤安全学入門Ⅰ	1 ①		1			○			5	6				オムニバス
	都市基盤安全学入門Ⅱ	1 ②		1			○			5	6				オムニバス
	都市基盤解析論	2 ②	2				○			1					
	都市基盤計画演習	3 ①	1					○			1				
	都市計画と交通	2 ④		1			○			1					
	都市景観設計Ⅰ	2 ④		1			○							兼1	
	都市景観設計Ⅱ	2 ⑤		1			○							兼1	
	都市下水道工学	3 ⑤		1			○							兼1	
	都市交通計画	3 ④		1			○			1					
	都市上水工学	3 ④		1			○							兼1	
	都市水害防災Ⅰ	2 ④		1			○			1					
	都市水害防災Ⅱ	2 ⑤		1			○			1					
	土質力学演習	3 ④	1					○		1	1				オムニバス
	都市と地盤環境Ⅰ	3 ④		1			○							兼1	
	都市と地盤環境Ⅱ	3 ⑤		1			○							兼1	
途上国における都市づくりⅠ	3 ④		1			○				1					
途上国における都市づくりⅡ	3 ⑤		1			○				1					
複合構造	3 ⑤		1			○							兼3	オムニバス	
プレストレストコンクリート構造	3 ④		1			○							兼3	オムニバス	
メンテナンス工学Ⅰ	3 ④		1			○				1					
メンテナンス工学Ⅱ	3 ⑤		1			○				1					
小計 (76科目)	— —		21	61	0				5	6	0	0	0	兼18	
連科専門科目	安全工学概論	2 ①～②		2		○								兼1	
連科専門科目	応用数学演習A	3 ①～②		2			○							兼9	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 都市基盤学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
学部教育科目	専門科目 専門関連科目	応用数学演習B	3	④～⑤		2			○							兼9			
		開発人類学講義	3	①～②		2			○								兼1		
		環境・エネルギーシステム論Ⅰ	2	④		1			○								兼1		
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	2	⑤		1			○								兼1		
		環境管理学	3	④～⑤		2			○								兼2		
		環境法Ⅰ	2	①		1			○								兼1		
		環境法Ⅱ	2	②		1			○								兼1		
		基礎化学	1	④～⑤		2			○								兼1		
		公共施設の計画A	2	①		1			○								兼1		
		公共施設の計画B	2	②		1			○								兼1		
		国際開発学講義	3	④～⑤		2			○								兼1		
		国際経営論Ⅰ	3	①～②		2			○								兼1		
		国際経営論Ⅱ	3	④～⑤		2			○								兼1		
		国際政治学講義	3	①～②		2			○								兼1		
		自然環境リスク共生概論A (地球と環境)	1	①		1			○								兼6	オムニバス	
		自然環境リスク共生概論B (生物と環境)	1	①		1			○								兼9	オムニバス	
		地球科学	3	①～②		2			○								兼1		
		都市環境設備計画Ⅰ	3	①		1			○								兼1		
		都市環境設備計画Ⅱ	3	②		1			○								兼1		
		都市環境リスク共生論B	2	⑤		1			○								兼1		
		都市計画とまちづくりⅠ	3	①		1			○								兼1		
		都市計画とまちづくりⅡ	3	②		1			○								兼1		
		都市リスクの空間分析とマネジメントB	2	②		1			○								兼1		
		人間生活と建築計画Ⅰ	1	④		1			○								兼1		
		人間生活と建築計画Ⅱ	1	⑤		1			○								兼1		
		文化人類学講義	3	④～⑤		2			○								兼1		
		溶接工学概論	2	④～⑤		2			○								兼1		
		都市創成技術 (建築都市・環境学)	2・3	①～②		2			○				1				兼2	英語、オムニバス	
		都市基盤英語A	2・3	⑤		1			○				1					英語	
		都市基盤英語B	2・3	④		1			○				1					英語・隔年	
		小計 (32科目)		—	—	0	46	0	—	—	—	—	1	2	0	0	0	兼40	
		合計 (167科目)		—	—	29	183	0	—	—	—	—	5	6	0	0	0	兼111	
総計 (376科目)		—	—	29	537	0	—	—	—	—	5	6	0	0	0	兼243			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(都市科学部 都市基盤学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学教育科目30単位以上、学部教育科目から94単位以上、合計124単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目のGPA（※）が2.0以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。</li> <li>・全学教育科目については、人文社会系基礎科目4単位以上、自然科学系基礎科目4単位以上、英語6単位以上と初修外国語2単位以上を含む外国語10単位以上を修得すること。また高度全学教育科目として設定しているグローバル教育科目及びイノベーション教育科目及び学科が指定する基礎科目の中から合計4単位以上を3年次あるいは4年次に修得すること。ただし、YGEP-N1学生及びYGEP-N2学生においては、外国語は日本語で代替することができる。YGEP-N2学生については、日本事情科目を人文社会系基礎科目に代替することができる。</li> <li>・学部教育科目については、学部共通科目14単位以上を含む94単位以上を修得すること。</li> <li>・都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目（基幹知科目）については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。</li> <li>・都市基盤学科の科目としては、アカデミックリテラシー、情報リテラシー、シビックリテラシーの内容を含んだリテラシー科目から必修科目2科目2単位、基礎演習科目から1単位以上、理工学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目から必修科目2科目2単位を含み14単位以上、学科専門科目63単位以上を含む合計80単位以上を修得すること。</li> <li>・学科専門科目は、専門コア科目から、必修科目21単位、選択必修科目11単位を含み、専門関連科目から4単位以上を含んで、63単位以上を修得すること。</li> <li>・学部教育科目のうち2単位以上は、英語で開講されている科目を修得すること。</li> </ul> <p>※以下の科目についてはGPAの対象外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前既修得単位として認定された科目</li> <li>・他大学開講科目で単位認定された科目</li> <li>・交換留学（派遣）による認定科目</li> <li>・「合格」、「不合格」で評価される科目（海外演習A、B）</li> </ul>						1学年の学期区分			2学期 6ターム制 「配当年次」欄における 学期区分の記載方法 第1ターム：4月～5月→① 第2ターム：6月～7月→② 第3ターム：8月～9月→③ 第4ターム：10月～11月→④ 第5ターム：12月～1月→⑤ 第6ターム：2月～3月→⑥					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 環境リスク共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 教育科目	基礎科目 人文社会系	英米文学	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		音楽と自然	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		危機管理学	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		基礎造形A	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		経済学の諸課題Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		経済学の諸課題Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		現代芸術論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		現代政治(国際)	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		現代政治(日本)	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		現代の会計と社会	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		現代の経済A	1・2・3・4	①～②		2		○								兼2
		現代の経済B	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼2
		現代の物流経営	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		鍵盤楽器の名曲	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		国際理解 国際交流における日本語の役割	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		国際理解 国際日本学入門	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		国際理解 台湾の文化と社会	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		国際理解 日韓比較文化論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		国際理解 日本語をめぐる国際交流史	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		色彩論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		社会科学概論A	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		社会科学概論B	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		社会科学の方法	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		社会科学の歴史	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		社会生活と法	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		宗教学	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		生涯発達論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		職業と教育	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1
		心理学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		心理学史入門	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		水彩画基礎技術	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1
		地域課題実習Ⅰ	1・2・3・4	①～②		1				○						兼1
		地域課題実習Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		1				○						兼1
地誌学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1		
中国の古典文学	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1		
哲学	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1		
東洋思想史	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1		
都市と建築	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼10		
日本近現代史	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼1		
日本前近代史	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1		
日本国憲法	1・2・3・4	①～② ④～⑤		2		○								兼1		

オムニバス

教育課程等の概要															
(都市科学部 環境リスク共生学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文社会系	日本の近代文学	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	日本の言語	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	美術の見かた	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	人と自然のかかわり	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	人と動物の関係学	1・2・3・4 ①～②		2		○			1					兼1	
	文化人類学の考え方	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	ベンチャーから学ぶマネジメント	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
	法と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
	民族音楽学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	木材と人間	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	ヨーロッパ文学	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	横浜学--地域の再発見--	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	倫理学	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1	
	音声言語学概論	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1 英語	
記述言語学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1 英語		
小計 (58科目)	— —		0	114	0	—			1	0	0	0	0	兼60	
全学教育科目	基礎科目	ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	1・2・3・4 ④～⑤		2		○			1					兼1
		Webページ作成入門	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
		衣生活の科学	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
		エネルギー工学序論	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼2 共同
		エネルギーと環境	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1
		海洋工学と社会	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼11
		環境化学概論	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1
		環境リスクとつきあうⅠ	1・2・3・4 ①		1		○			2	1				オムニバス
		環境リスクとつきあうⅡ	1・2・3・4 ②		1		○								兼3 オムニバス
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	1・2・3・4 ④		1		○			1	3				兼1 オムニバス
	環境をめぐる諸問題Ⅱ	1・2・3・4 ⑤		1		○			2	3				兼1 オムニバス	
	自然科学系	健康の科学	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1
		建築の環境と防災	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼8 オムニバス
		国土学とグローバル社会Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○								兼5 オムニバス
		国土学とグローバル社会Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○								兼5 オムニバス
		古生物の科学Ⅰ	1・2・3・4 ①		1		○			1					兼9 オムニバス
		古生物の科学Ⅱ	1・2・3・4 ②		1		○			1					兼9 オムニバス
		材料学入門	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9
		実験で学ぶ物理学B	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1
		情報工学概論	1 ①～②		2		○								兼9
情報セキュリティ入門		1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1	
情報と社会	1・2・3・4 ④～⑤		2		○								兼1		
情報ネットワークシステム入門	1・2・3・4 ①～②		2		○			1					兼1		
食環境論	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼1		
数理科学Ⅰ	1・2・3・4 ①～②		2		○								兼9		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 環境リスク共生学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全学 教育科目	基礎科目 自然科学系	数理科学Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼9	オムニバス	
		数理科学概論	1・2・3・4	④～⑤		2		○								兼9		
		生物地理学入門	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1		
		生物の世界Ⅰ	1・2・3・4	①		1		○			1	3						オムニバス
		生物の世界Ⅱ	1・2・3・4	②		1		○			4	3						オムニバス
		生命科学	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		線形代数Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○										兼9
		線形代数Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼9
		線形代数学入門	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		体験物理科学A	1・2・3・4	①～②		2		○										兼3
		体験物理科学B	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼3
		地球環境と情報	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		地球と惑星の科学Ⅰ	1・2・3・4	④		1		○										兼1
		地球と惑星の科学Ⅱ	1・2・3・4	⑤		1		○										兼1
		地質リスクマネジメントⅠ	1・2・3・4	④		1		○										兼1
		地質リスクマネジメントⅡ	1・2・3・4	⑤		1		○										兼1
		統計学Ⅰ-A	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		統計学Ⅰ-C	2・3・4	①～②		2		○										兼1
		統計学Ⅱ-A	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		統計学Ⅱ-C	2・3・4	④～⑤		2		○										兼1
		微分積分Ⅰ	1・2・3・4	①～②		2		○										兼9
		微分積分Ⅱ	1・2・3・4	④～⑤		2		○										兼9
		理工学概論	1・2・3・4	①～②		2		○										兼21
		文系のための数学入門	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		身近な電気と機械	1・2・3・4	①～②		2		○										兼1
		ICTプロジェクト	1・2・3・4	③		2				○								兼1
		ICTリテラシー	1・2・3・4	⑥		2				○								兼1
		小計 (52科目)		—	—	0	90	0	—			7	9	0	0	0		兼101
イノベーション 教育科目	社会戦略実装	知的財産権	3・4	①～②		2		○								兼1		
		知的財産法	2・3	④～⑤		2		○								兼1		
		小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2		
	技術革新思考	システム・エンジニアリング	1・2・3・4	①～②		2		○								兼1		
		数理統計	2・3・4	①～②		2		○								兼1		
	小計 (2科目)		—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2		
キャリア	Wake up! プロジェクト	1	①～②		2		○								兼1			
	キャリア・ケーススタディ	2・3・4	④～⑤		2		○								兼1			
	キャリアデザイン	1・2	①～②		2		○								兼1			
	グローバルビジネス・コミュニケーション	2・3・4	④～⑤		2		○								兼1			
	ビジネス・コミュニケーション	2・3・4	④～⑤		2		○								兼1			
まなび座Ⅰ・校友会リレートーク		1	①～②		2		○								兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 環境リスク共生学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
イノベーション教育科目	まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2・3・4 ①～②		2		○									兼1	
	ライフキャリアを考える	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	生涯設計とグローバルキャリアデザイン	1・2・3・4 ①～②		2			○								兼1	英語
	小計 (9科目)	— —	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
グローバル教育科目	アカデミック・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	アラブの言語と文化	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	英語による異文化間理解	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	グローバルキャリア向け英文読解と要約	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	英語
	グローバルワーク向け英文読解と要約	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	英語
	多言語・多文化運用演習A	1・2・3・4 ④～⑤		2			○								兼1	英語
	多言語・多文化運用演習B	1・2・3・4 ①～②		2			○								兼1	英語
	ビジネス・プレゼンテーションスキル	1・2・3・4 ①～②		2		○									兼1	英語
	海外演習A	2・3 ③, ⑥		1			○								兼1	英語
	小計 (9科目)	— —	0	17	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
各国事情	インドネシア事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	日本事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	パラグアイ事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ブラジル事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	ベトナム事情	1・2・3・4 ④～⑤		2		○									兼1	
	小計 (5科目)	— —	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	
健康スポーツ科目	健康スポーツ演習B	1・2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼5	
	小計 (1科目)	— —	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	
外国語科目	英語プレゼンテーション	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語ライティング	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語LR	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	自立英語	1 ①～② ④～⑤		1				○							兼4	
	英語演習1 a	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習1 b	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習1 c	2・3 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習2 a	3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	英語演習2 b	3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼4	
	小計 (9科目)	— —	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	
初修外国語	ドイツ語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○							兼2	
	ドイツ語実習2 a	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○							兼2	
	ドイツ語実習1 b	1・2・3 ①～② ④～⑤		1				○							兼2	
	ドイツ語実習2 b	1・2・3 ④～⑤		1				○							兼2	
	ドイツ語演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼2	
	ドイツ語発展演習	2・3・4 ①～② ④～⑤		2			○								兼2	
	フランス語実習1 a	1・2・3 ①～②		1				○							兼1	
	フランス語実習1 b	1・2・3 ④～⑤		1				○							兼1	
	フランス語実習2 a	1・2・3 ①～②		1				○							兼1	
	フランス語実習2 b	1・2・3 ④～⑤		1				○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市科学部 環境リスク共生学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の 横は開講ター ム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考							
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手								
全学 教育科目	外国語科目 初修外国語	フランス語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○										兼1		
		フランス語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○										兼1		
		中国語実習 1 a	1・2・3	①～②		1				○										兼1	
		中国語実習 2 a	1・2・3	①～② ④～⑤		1				○										兼1	
		中国語実習 1 b	1・2・3	①～② ④～⑤		1				○										兼1	
		中国語実習 2 b	1・2・3	④～⑤		1				○										兼1	
		中国語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼2	
		中国語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼2	
		ロシア語実習 1 a	1・2・3	①～②		1				○										兼1	
		ロシア語実習 1 b	1・2・3	④～⑤		1				○										兼1	
		ロシア語実習 2 a	1・2・3	①～②		1				○										兼1	
		ロシア語実習 2 b	1・2・3	④～⑤		1				○										兼1	
		ロシア語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		ロシア語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		朝鮮語実習 1	1・2・3	①～②		1				○										兼1	
		朝鮮語実習 2	1・2・3	④～⑤		1				○										兼1	
		朝鮮語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		朝鮮語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		イスパニア語実習 1	1・2・3	①～②		1				○										兼1	
		イスパニア語実習 2	1・2・3	④～⑤		1				○										兼1	
		イスパニア語演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		イスパニア語発展演習	2・3・4	①～② ④～⑤		2			○											兼1	
		ギリシャ語	2・3・4	①～② ④～⑤		1				○										兼1	
		ラテン語	2・3・4	①～② ④～⑤		1				○										兼1	
		海外演習B	2・3・4	①～② ④～⑤		2				○										兼1	
		小計 (35科目)		—	—	0	48	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼11
		全学 教育科目	日本語科目	日本語中級A	1・2	①～②		1				○									兼1
				日本語中級B	1・2	①～②		1				○									兼1
日本語中級C	1・2			①～②		1				○									兼1		
日本語中級D	1・2			①～②		1				○										兼1	
日本語中級E	1・2			①～②		1				○										兼1	
日本語中級F	1・2			①～②		1				○										兼1	
日本語中級G	1・2			①～②		1				○										兼1	
日本語上級A	1・2・3			①～②		1				○										兼1	
日本語上級B	1・2・3			④～⑤		1				○										兼1	
日本語上級C	1・2・3			④～⑤		1				○										兼1	
日本語上級D	1・2・3			④～⑤		1				○										兼1	
日本語上級E	1・2・3			④～⑤		1				○										兼1	
日本語上級F	1・2・3			①～②		1				○										兼1	
日本語上級G	1・2・3			④～⑤		2				○										兼1	
日本語上級H	1・2・3	①～②		1				○										兼1			

教育課程等の概要																
(都市科学部 環境リスク共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学教育科目	外国語科目 日本語	日本語上級 I	1・2・3	④～⑤		1				○					兼1	
		日本語上級 J	1・2・3	④～⑤		1				○					兼1	
		日本語上級 K	1・2・3	①～②		1				○					兼1	
		日本語演習 A	1・2・3	④～⑤		2				○					兼1	
		日本語演習 B	1・2・3	④～⑤		2				○					兼1	
		日本語演習 C	1・2・3	①～②		2				○					兼1	
		日本語専門語彙演習	1	①～②		2				○					兼2	
		留学生に対する日本語専門学習支援	1	①～②		2				○					兼2	
		環境リスク共生学のための日本語実践演習 I	1	①～②		1				○		1				
		環境リスク共生学のための日本語実践演習 II	1	①～②		1				○		1				
		環境リスク共生学のための日本語実践演習 III	1	④～⑤		1				○		1				
		環境リスク共生学のための日本語実践演習 IV	1	④～⑤		1				○		1				
		小計 (27科目)	—	—	0	33	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0
合計 (209科目)			—	—	0	354	0	—	—	8	9	0	0	0	兼193	
基礎演習科目	環境共生フィールド演習	1	①	1					○		10	12			兼1 共同・集中	
	環境リスク情報処理	1	④	1					○		10	12			兼1 共同	
	環境を扱う実務とキャリア・プランニング I	1	④	1				○			1					
小計 (3科目)	—	—	3	0	0	—	—	—	—	10	12	0	0	0	兼1	
都市科学の基礎	都市科学 A (グローバル・ローカル)	1	①～②	2					○		1				兼3 オムニバス	
	都市科学 B (リスク共生)	1	④	1					○						兼1 オムニバス	
	都市科学 C (イノベーション)	1	⑤	1					○						兼4 オムニバス	
小計 (3科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼7	
グローバル・ローカル関連科目	地域連携と都市再生 A 【ヨコハマ地域学】	1	①～②		2				○						兼1	
	地域連携と都市再生 B 【かながわ地域学】	1	④～⑤		2				○						兼1	
	都市社会基礎論	1	④～⑤		2				○						兼1	
	社会調査法 A	2	①		1				○		1					
	社会調査法 B	2	①		1				○		1					
	G I S による地域解析概論	2・3・4	①～②		2				○						兼1	
	メタデータ分析とリスク予測	2・3	①～②		2				○						兼1 英語	
	組織風土ファシリテーションとチームエンバワメント	2・3	④～⑤		2				○						兼1 英語	
	都市リスクの空間分析とマネジメント A	2	①		1				○						兼1	
	建築芸術史論 A	2・3・4	①		1				○						兼2 共同	
	建築芸術史論 B	2・3・4	②		1				○						兼2 共同	
	都市基盤構造力学	1	④		1				○						兼1	
	都市基盤材料複合力学	2	④		1				○						兼1	
小計 (13科目)	—	—	0	19	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼10	
リスク共生関連科目	生態リスク学入門	1	①		1				○		1					
	リスク分析のための情報処理 A	2	④		1				○		1					
	高齢社会とリスク A	2	④		1				○		1					
	都市環境リスク共生論 A	2	④		1				○						兼1	
	社会リスク学 A	2	①		1				○						兼1	
	社会リスク学 B	2	②		1				○						兼1	

教育課程等の概要																
(都市科学部 環境リスク共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	リスク共生関連科目	居住空間の計画Ⅰ	2	①		1		○							兼1	
		居住空間の計画Ⅱ	2	②		1		○							兼1	
		都市基盤水理学	2	①		1		○							兼1	
		都市基盤土質力学	2	①		1		○							兼1	
	小計(10科目)	—	—		0	10	0	—			3	0	0	0	0	兼5
	イノベーション関連科目	企業経営とオペレーション	2・3	①～②		2		○								兼1 英語
		都市基盤計画論	1	①		1		○								兼1
		グローバルビジネスとイノベーションA	3	④		1		○			1					兼1 ※演習
		建築と都市のメディア・デザインⅠ	2・3・4	①		1		○								兼1 ※演習
		建築と都市のメディア・デザインⅡ	2・3・4	②		1		○								兼1 ※演習
社会デザイン・フューチャーセッション		1	③		1		○								兼18 オムニバス	
都市生態学	1	⑤		1		○				1				兼1		
ジェンダーと共生(開発)	2	⑤		1		○								兼1		
ジェンダーと共生(文化)	2	⑤		1		○								兼1 英語		
建築と社会のデザイン	1・2・3・4	②		1		○								兼1		
小計(10科目)	—	—		0	11	0	—			1	1	0	0	0	兼23	
学部教育科目	専門基礎科目	移動および速度論A	3	①～②		2		○							兼1	
		応用数学	3	④～⑤		2		○							兼9	
		応用数学演習A	3	①～②		2		○							兼9	
		応用数学演習B	3	④～⑤		2		○							兼9	
		解析学Ⅰ	1	①～②		2		○							兼9	
		解析学Ⅱ	1	④～⑤		2		○							兼9	
		化学実験	1	①～②		1				○						兼1
		確率・統計	2	④～⑤		2		○								兼9
		環境リスク共生ワークショップ	3・4	④	1			○				10	12			兼2 オムニバス
		環境を扱う実務とキャリア・プランニングⅡ	1	⑤		1		○				1				
		関数論	3	④～⑤		2		○								兼9
		基礎化学	1	④～⑤		2		○								兼1
		基礎化学Ⅱ	1	④～⑤		2		○								兼1
		計測	2	①～②		2		○								兼3
		材料無機化学	2	①～②		2		○								兼1
		材料有機化学	2	④～⑤		2		○								兼1
		自然環境リスク共生概論A(地球と環境)	1	①	1			○				3	3			オムニバス
		自然環境リスク共生概論B(生物と環境)	1	①	1			○				4	5			オムニバス
		社会環境リスク共生概論A(都市環境)	1	①	1			○				2	2			兼1 オムニバス
		リスク共生社会基礎論	1	②	1			○				1	1			兼2 オムニバス
図学Ⅰ	1・2	①～②		2		○								兼1		
図学Ⅱ	1・2	④～⑤		2		○								兼1		
線形代数学Ⅰ	1	①～②		2		○								兼9		
線形代数学Ⅱ	1	④～⑤		2		○								兼9		
地球科学	1・2	①～②		2		○				1						
地球科学実験	1・2	①～②		2				○		2	2				共同・集中	

教育課程等の概要																
(都市科学部 環境リスク共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	微分方程式Ⅰ	1	①~②		2		○								兼9	
	微分方程式Ⅱ	1	④~⑤		2		○								兼9	
	物理学ⅠA	1	①~②		2		○								兼23	
	物理学ⅠB	1	④~⑤		2		○								兼22	
	物理学Ⅱ	1	①~②		2		○								兼22	
	物理実験	1	①~②		1			○							兼23	
	マクロ経済学入門	1・2	④~⑤		2		○								兼1	
	ミクロ経済学入門	1・2	①~②		2		○								兼1	
	小計 (34科目)	—	—	5	55	0	—	—	—	—	10	12	0	0	0	兼45
	学部教育科目 専門科目	海洋システム論Ⅰ	2	①	1			○			1					共同
環境汚染の科学Ⅰ		2	①	1			○				2					
環境汚染の科学Ⅱ		2	②		1			○			1					
環境法Ⅰ		2	①	1				○			1					
環境リスク共生演習A		2	③		1				○		10	12			兼1	
環境リスク共生演習B		2	④		1				○		10	12			兼1	
環境リスク共生演習C		2	⑤		1				○		10	12			兼1	
環境リスク共生演習D		2	⑥		1				○		10	12			兼1	
環境リスク共生演習E		3	①		1				○		10	12			兼1	
環境リスク共生演習F		3	②		1				○		10	12			兼1	
合意形成とリスクⅠ		3	①	1					○		1					
合意形成とリスクⅡ		3	②		1				○		1					
個体群生態学・進化生態学概論Ⅰ		2	②	1					○			1				
生態系と物質循環Ⅰ		2	①	1					○		1					
生物群集とリスクⅠ		2	①	1					○		1					
生命論の哲学Ⅰ		2	④		1				○		1					
生命論の哲学Ⅱ		2	⑤		1				○		1					
組織マネジメントとリスクⅠ		2	①		1				○		1					
組織マネジメントとリスクⅡ		2	②		1				○		1					
地球環境変動と生命進化Ⅰ		3	①	1					○			1				
地球システム論Ⅰ		2	④	1					○			1				
都市リスクの空間分析とマネジメントB		2	②		1				○						兼1	
リスク分析のための情報処理B		2	⑤		1				○		1					
リスクマネジメントⅠ		3	④	1					○						兼1	
リスクマネジメントⅡ		3	⑤		1				○						兼1	
小計 (25科目)	—	—	10	15	0	—	—	—	—	11	12	0	0	0	兼3	
自然系コア	海洋学フィールドワーク	2	③		2				○	1	1				共同・集中	
	海洋システム論Ⅱ	2	②		1			○		1						
	海洋生物学Ⅰ	2	④		1			○			1					
	海洋生物学Ⅱ	2	⑤		1			○			1					
	環境法Ⅱ	2	②		1			○		1						
	古環境学Ⅰ	2	①		1			○		1						
	古環境学Ⅱ	2	②		1			○		1						

教育課程等の概要																
(都市科学部 環境リスク共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部教育科目 専門科目 自然系コア	古生物学Ⅰ	2	④		1		○				1					
	古生物学Ⅱ	2	⑤		1		○				1					
	個体群生態学・進化生態学概論Ⅱ	2	②		1		○				1					
	里地と山地の生態学Ⅰ	2	④		1		○			2	1				共同	
	里地と山地の生態学Ⅱ	2	⑤		1		○				2				共同	
	植物生理学Ⅰ	2	④		1		○				1					
	植物生理学Ⅱ	2	⑤		1		○				1					
	生態学遠隔地フィールドワーク	2	③		2				○		2					共同
	生態学実習Ⅰ	3	①		1				○		1	1				共同
	生態学実習Ⅱ	3	②		1				○		1	1				共同
	生態学社会フィールドワークⅠ	2	④～⑤		1				○		2					共同
	生態学社会フィールドワークⅡ	2	④～⑤		1				○		2					共同
	生態系計画学	3	①		1		○				1	1				共同
	生態系設計学	3	②		1		○				1	1				共同
	生態系と物質循環Ⅱ	2	②		1		○				1					
	生態毒性学Ⅰ	2	④		1		○					1				
	生態毒性学Ⅱ	2	⑤		1		○					1				
	生物群集とリスクⅡ	2	②		1		○				1					
	地球環境変動と生命進化Ⅱ	3	②		1		○					1				
	地球システム論Ⅱ	2	⑤		1		○					1				
	地球ダイナミクス	3	①		1		○				1					
	地球物質循環論	3	②		1		○					1				
	地質学遠隔地フィールドワーク	3	①～②		2				○		2	2				共同
	復元生態学Ⅰ	2	④		1		○					1				
	復元生態学Ⅱ	2	⑤		1		○					1				
	保全生態学	2	⑤		1		○					1				
	小計 (33科目)	—	—		0	36	0		—		7	8	0	0	0	
	社会系コア	イノベーション思想史Ⅰ	2	①		1		○				1				
		イノベーション思想史Ⅱ	2	②		1		○				1				
		環境・エネルギーシステム論Ⅰ	2	④	1			○				1				
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	2	⑤		1		○				1				
		環境汚染と環境リスク解析Ⅰ	2	①		1		○								兼1
		環境汚染と環境リスク解析Ⅱ	2	②		1		○								兼1
環境化学基礎演習Ⅰ		2	①		1				○		1					
環境化学基礎演習Ⅱ		2	②		1				○		1					
環境政策		2	④		1		○				1					
グローバルビジネスとイノベーションB		3	⑤		1		○				1					
高齢社会とリスクB		2	⑤		1		○				1					
情報セキュリティマネジメントA		3	①		1		○				1					
情報セキュリティマネジメントB		3	②		1		○				1					
都市・地域経済学Ⅰ		2	④	1			○					1				
都市・地域経済学Ⅱ		2	⑤		1		○					1				

教育課程等の概要														
(都市科学部 環境リスク共生学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
社会系コア	都市環境浄化工学Ⅰ	3 ④		1		○				1				
	都市環境浄化工学Ⅱ	3 ⑤		1		○				1				
	小計 (17科目)	— —	2	15	0	—			4	4	0	0	0	兼1
学部教育科目 専門科目 選択	安全・環境化学	2・3 ①～②		2		○								兼1
	安全工学概論	2・3 ①～②		2		○								兼1
	海岸防災工学Ⅰ	2・3 ①		1		○								兼1
	海岸防災工学Ⅱ	2・3 ②		1		○								兼1
	開発人類学講義	2・3 ①～②		2		○								兼1
	河川工学	2・3 ④		1		○								兼1
	環境アセスメント	3 ①		1		○								兼1
	環境管理学	3 ④～⑤		2		○								兼2
	環境工学Ⅰ	2・3 ①～②		2		○								兼1
	気象災害リスクⅠ	2・3 ①		1		○								兼1
	気象災害リスクⅡ	2・3 ②		1		○								兼1
	計量経済学	2 ④		2		○								兼1
	現代社会福祉	3 ④		2		○								兼1
	現代メディア論講義	2・3 ①～②		2		○								兼1
	建築法規Ⅰ	2・3 ④		1		○								兼1
	建築法規Ⅱ	2・3 ⑤		1		○								兼1
	合意形成論	3 ②		1		○								兼1
	国際開発学講義	2・3 ④～⑤		2		○								兼1
	国際環境経済論	2 ②		2		○								兼1
	国際政治学講義	2・3 ①～②		2		○								兼1
	資源循環・廃棄物学Ⅰ	2・3 ①		1		○								兼1
	資源循環・廃棄物学Ⅱ	2・3 ②		1		○								兼1
	地震防災都市論Ⅰ	2・3 ④		1		○								兼1
	地震防災都市論Ⅱ	2・3 ⑤		1		○								兼1
	土質力学Ⅱ	2・3 ②		1		○								兼1
	土質力学Ⅲ	2・3 ④		1		○								兼1
	土質力学Ⅳ	2・3 ⑤		1		○								兼1
	情報処理概論	2 ①～②		2		○								兼1
	植物科学Ⅰ	2・3 ①～②		2		○								兼1
	植物科学Ⅱ	2・3 ④～⑤		2		○								兼1
	植物分子生理学	2・3 ①～②		2		○								兼1
	水文水資源学	2・3 ⑤		1		○								兼1
	水理学Ⅱ	2 ②		1		○								兼1
水理学Ⅲ	2・3 ④		1		○								兼1	
水理学Ⅳ	2・3 ⑤		1		○								兼1	
地域環境マネジメント論	2・3 ④～⑤		2		○								兼1	
地域経済政策	2 ②		2		○								兼1	
地方財政	3 ⑤		2		○								兼1	
都市環境設備計画Ⅰ	2・3 ①		1		○								兼1	

教育課程等の概要																
(都市科学部 環境リスク共生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部教育科目	選択 専門科目	都市環境設備計画Ⅱ	2・3	②		1			○							兼1
		都市計画と交通	2	④		1			○							兼1
		都市下水道工学	2・3	⑤		1			○							兼1
		都市上水工学	2・3	④		1			○							兼1
		都市と都市計画Ⅰ	2・3	④		1			○							兼1
		都市と都市計画Ⅱ	2・3	⑤		1			○							兼1
		都市文芸文化論講義	2・3	④～⑤		2			○							兼1
		文化人類学講義	2・3	④～⑤		2			○							兼1
		メンテナンス工学Ⅰ	2・3	④		1			○							兼1
		メンテナンス工学Ⅱ	2・3	⑤		1			○							兼1
		ランドスケープ論Ⅰ	2・3	④		1			○							兼1
		ランドスケープ論Ⅱ	2・3	⑤		1			○							兼1
		都市創成技術 (建築都市・環境学)	2・3	①～②		2			○			1				兼2
		環境政策 (英語)	2	④		1			○			1				
		生態リスクマネジメント事例研究	2・3	①～②		2			○			1				
	小計 (54科目)	—	—	0	76	0		—			2	1	0	0	0	兼36
	課題演習	環境リスク共生ゼミⅠ	3	④～⑤		2			○		10	12				兼1
		環境リスク共生ゼミⅡ	4	①～②		2			○		10	12				兼1
環境リスク共生ゼミⅢ		4	④～⑤		2			○		10	12				兼1	
小計 (3科目)		—	—	0	6	0		—		10	12	0	0	0	兼1	
卒業関係	卒業研究A	4	①～②	2				○		12	12					
	卒業研究B	4	④～⑤	2				○		12	12					
	小計 (2科目)	—	—	4	0	0		—		12	12	0	0	0		
合計 (207科目)		—	—	28	243	0		—		12	12	0	0	0	兼106	
総計 (416科目)		—	—	28	597	0		—		12	12	0	0	0	兼236	

教育課程等の概要														
(都市科学部 環境リスク共生学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次 ※開講時期の横は開講ターム	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士(環境学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<ul style="list-style-type: none"> <li>全学教育科目30単位以上、学部教育科目から94単位以上、合計124単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目のGPA(※)が2.0以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。</li> <li>全学教育科目については、人文社会系基礎科目4単位以上、自然科学系基礎科目4単位以上、英語6単位以上と初修外国語2単位以上を含む外国語10単位以上を修得すること。また高度全学教育科目として設定しているグローバル教育科目及びイノベーション教育科目及び学科が指定する基礎科目の中から合計4単位以上を3年次あるいは4年次に修得すること。ただし、YGEP-N1学生及びYGEP-N2学生においては、外国語は日本語で代替することができる。YGEP-N2学生については、日本事情科目を人文社会系基礎科目に代替することができる。</li> <li>学部教育科目については、学部共通科目14単位以上を含む94単位以上を修得すること。</li> <li>都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目(基幹知科目)については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。</li> <li>環境リスク共生学科の科目としては、アカデミックリテラシー、情報リテラシー、シビックリテラシーの内容を含んだ基礎演習科目3単位、リスク専門科目の基礎及び理工学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目17単位以上、学科専門科目60単位以上を含む合計84単位以上を修得すること。</li> <li>学科専門科目は、必修科目16単位、かつ、環境リスクコア科目、自然系コア科目、社会系コア科目からそれぞれ4単位以上を含むようにして、合計60単位以上修得すること。</li> <li>学部教育科目のうち2単位以上は、英語で開講されている科目を修得すること。</li> </ul> ※以下の科目についてはGPAの対象外とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前既修得単位として認定された科目</li> <li>他大学開講科目で単位認定された科目</li> <li>交換留学(派遣)による認定科目</li> <li>「合格」、「不合格」で評価される科目(海外演習A、B)</li> </ul>						1学年の学期区分			2学期 6ターム制 「配当年次」欄における学期区分の記載方法 第1ターム：4月～5月→① 第2ターム：6月～7月→② 第3ターム：8月～9月→③ 第4ターム：10月～11月→④ 第5ターム：12月～1月→⑤ 第6ターム：2月～3月→⑥					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	英米文学	アフリカ及びアフリカ系の人びとを中心に、英語圏文学において、マイノリティの体験がどのように表現、あるいは曲解されてきたか、歴史的背景を踏まえながら概観する。アフリカ系アメリカ人の文学、カリブにおけるアフリカ系ディアスポラの文学、アフリカ文学などの他、白人作家によるマイノリティ表象にも言及しながら、いくつかの代表的作品を取り上げ、グローバルな世界におけるアイデンティティという今日的な問題について、考えを深めることを目的とする。	
			音楽と自然	あらゆる音楽は人間の所作や文化を反映しているが、中には我々を取り巻く自然をヒントにした曲も数多く存在していて、それらは時代や文化の差異によって様々な質感を表わし、興味深い。また、まさに人が作り出したはずの楽器や歌の発声、音階も、見方を少し変えるだけで、実はそこに自然のあり方が深く関わっているのがある。この授業では「自然」をキーワードとして、それに関わる西欧音楽や民族音楽そして簡単な音楽の理論を様々な見方で概観する。	
			危機管理学	2011年3月11日の東日本大震災による未曾有の被害をはじめ、これまでに経験した様々な危機の事例を踏まえて、危機とは一体何なのか、危機管理とは一体何をどうすることなのか、現在の我が国の危機管理法制と危機管理組織はどうなっているか、いろいろな種類の危機に対する危機管理対策上の要点はそれぞれ何なのかなどについて、授業を通して広く学び、深く調べ、熱心に議論することにより、危機に強い人間形成を図り、卒業後の実社会において力強く生きていける若者を育てることを授業の目的とする。	
			基礎造形A	身近に存在するものの本質を理解する為の方法の一つとして、深く真摯な姿勢で見つめ描写することが挙げられる。外界への探求の中から自らの内への理解を深めることによって自らの表現に深みを持たせることが可能となる。各回ごとに課題を設定し、基本的な描画材である鉛筆を中心にものの形を画面上にしっかりと表現できる能力を習得する。 また、その描画を通して、自己の表現について客観的に捉える姿勢及び自分を含めた世界への洞察力、表現力を身につけ、自己表現の幅を新たに創造し、社会においてその表現がどのような関わりを持っていくのかを思考する姿勢を習得する。	
			経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	この授業の目的は、起業家精神に触れ、「今」のビジネス・起業に対する関心を喚起し、それらへの志を養うとともに、働くことの価値と、自らのライフデザインを考える契機を提供することである。 ①ガイダンス②創業経営者講演1③創業経営者講演2④創業経営者講演3⑤インターンシップ・ガイダンス⑥インターンシップ経験者パネルディスカッション⑦創業経営者講演4⑧中間まとめ⑨創業経営者講演5⑩創業経営者講演6⑪創業経営者講演7⑫創業経営者講演8⑬創業経営者講演9⑭創業経営者講演10⑮パネルディスカッション⑯総括	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	経済学の諸課題Ⅰ	経済学部の教員が、自身の専門分野の主要なトピックや研究方法を中心に経済学の各分野についての話題や方法も加え、初学者・他分野の学生向けにわかりやすく説明し、経済学の基本的な考え方を学んでもらう。	
			経済学の諸課題Ⅱ	経済学の代表的な分野をいくつかとり上げて初学者・他分野の学生向けにわかりやすく解説し、経済学の基本的な考え方を学んでもらう。	
			現代芸術論	人間の生活が個人・社会の状況のみならず、人間以外の生物・事物の状態にも大きな変化を及ぼす現代世界では、人間ひとりひとりが、個人・社会の状況や人間以外の生物・事物の状態を繊細に感覚する能力、世界によって自らが作られながら「よりよく」作りかえていく能力を、さらに磨いていく必要がある。現代芸術は人間のこうした能力が鋭敏に表現される場であり、世界の状態の変化を繊細に感覚できる場でもある。 講義「現代芸術論」では現代芸術の使命をこのように位置づけたうえで、現代芸術の歴史的・理論的・制作的原理を講義していく。	
			現代政治（国際）	現代の国際政治の諸側面について、国際政治学の理論枠組みを踏まえながら展開する。近年、テロ事件や核兵器の開発、配備など、軍事的安全保障の問題とともに、世界同時不況、地球環境、人権の擁護なども国際関係をゆるがす大きな要因となっている。授業では、これらの今日的課題を盛り込み、様々な観点からの解釈を提供するとともに、グローバル化が進展する中での主権国家の役割と意義についても合わせて検討していく。理論枠組みによる見方の違いを学生自らが認識できるようになることを狙う。	
			現代政治（日本）	本授業は、現在の日本を取り巻く政治的な課題（政党政治、行政、市民の政治参加、福祉政治等）の現状やそこでの論点についての多様な見解を解説するとともに、これらについての政治学・政治理論の観点からの批判的分析を講義するものである。特に本授業では、学部を横断する様々な学生の誰しもが日本政治の単なる受け手ではなく担い手である、という点への自覚を促すとともに、自らの政治的意見や態度を他者に理解可能な形で表出するための力を育むことを目的としている。そのために本授業では、基礎的な政治学・政治理論の知識の習熟、それらを踏まえた現代政治の理解の促進、ならびに各人の政治的意見の洗練を図っていく場を提供する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目  基礎 科目  人文 社会 系	現代の会計と社会	この授業の目的は、経営学部以外の学生に、社会における会計の意義・役割を理解してもらうとともに、会計情報を用いた分析の基礎を事例を通じて修得することにある。加えて会計責任の具体的仕組みである内部統制の理論的枠組みを理解するとともに実際の事例に当てはめて分析してもらうことを目的としている。取り上げるトピックとしては、①企業社会において会計が必要とされる理論的根拠、②企業のディスクロージャーの現状、③財務分析の手法と活用、④COSO内部統制フレームワークとその適用、の予定である。	
	現代の経済A	本講座では、経済学に初めて触れる学生を対象に、ミクロ経済学の入門的な講義を行う。経済現象は、様々な経済主体の経済行動の結果として観察されるものであり、一般にそれがどのようなメカニズムで発生しているのかを説明するのは容易ではない。本講座では、企業間の契約や企業内の人事などを含む様々な経済現象の中でも最も基本的な、「市場における財の売買」という経済現象を「消費者」と「生産者」という二つの経済主体の行動を分析することで説明し、その説明ツールとして用いられるミクロ経済学の基本的な考え方を理解することを目的とする。講義では、難解な数学は用いず、グラフや具体的な事例を使って、学生が直感的にミクロ経済学の考え方を習得できるように心がける。	
	現代の経済B	本講座では、初めて経済学に触れる学生を対象に、マクロ経済学の入門的な講義を行う。まず、最も重要な経済指標である、国内総生産(GDP)を含む国民経済計算の全体像を概観し、次に、ケインズ理論に基づいて、GDPがどのように決まるかについて説明する。さらに、45度線分析やIS-LM分析から、経済が不況に陥った場合に政府が採るべき財政政策や金融政策について分析するというのが、本講座の大きな内容である。時間に余裕があれば、IS-LM分析を国際経済にまで拡張したマンデル・フレミングモデルについても説明する。講義では、難解な数学は用いず、グラフや具体的な事例を使って、学生が直感的にマクロ経済学の考え方を習得できるように心がける。	
	現代の物流経営	グローバル化した現代経済を支える基盤産業の一つである物流業の発展過程と現状を概観するとともに、その重要性および今後の課題について理解を深めるため、一般社団法人日本物流団体連合会の寄付講座として開設される。授業では物流業界で活躍されている専門家の方々を多数お招きして、スライドやDVD資料を活用しながら、物流の主要機能や重要なトピックについて解説し、質疑・討論を行う形式を取る。各回の授業内容は、①ガイダンスと物流効率化の方法、②物流総論、③物流と環境問題、④トラック運送業、⑤宅配便、⑥鉄道貨物、⑦内航海運、⑧外航海運、⑨航空貨物、⑩フォワーダー、⑪倉庫業、⑫食品物流、⑬パレット・通い箱、⑭サード・パーティー・ロジスティクス、⑮物流政策	
	鍵盤楽器の名曲	本講義は、西洋音楽史におけるバロックから現代までの「鍵盤楽器の名曲」について、時代背景、作曲経緯、作品分析などの理解を通して、西洋クラシック音楽への興味を高め、また音楽作品の鑑賞方法について学び、芸術音楽への造詣を深めることを目的とする。授業では、様々なピアニストの音源を聴き比べたり、教員の実演を聴きながら等できるだけ芸術音楽を身近なものとするをも目指している。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	国際理解 国際交流における日本語の役割	本授業は講義・実践活動を通して、国際交流活動をする上での日本語の役割について知識を深めることを主な目的としている。また、異なる文化背景を持つ人々と積極的に交流できるようになることも履修目標の一つとして挙げられている。具体的には1) 第二言語習得理論・異文化コミュニケーション・留学生支援に関する講義を聴きレポートを書く、2) 日本語スピーチ大会出場留学生の支援や大会運営などの実践活動を行う、3) 「やさしい日本語」を理解し、グループプロジェクトに取り組む、の三部により構成されている。	
			国際理解 国際日本学入門	日本人は第二次世界大戦における敗戦をどのように受けとめ、復興に向かっていったのか。また、その長い「戦後」の中で、日本および日本人はどのように変化していったのか。それは現在の日本とどのような関係にあるのか、を黒澤明、今村昌平、小津安二郎などの映画や大岡昇平、大城立裕、村上春樹などの文学作品、さらに当時の新聞記事を通して考察する。さらにそれについて留学生も交えて議論することで、国際的視野から世界の中の日本、日本の中の世界について考える。	
			国際理解 台湾の文化と社会	現代台湾の映画、小説、エッセイなどの鑑賞・講読、さらには戦前の台湾文学の講読を通して、複雑な歴史、多面的な文化を持つ台湾の社会を見ていく。さらに留学生との意見交換を通じて、植民地統治という過去を持つ日本の歴史と、それを踏まえての東アジアの現在および未来について考える。取り上げる作品としては台湾映画では魏徳聖、侯孝賢の諸作品、台湾文学では陳千武、李喬、白先勇などを予定している。また、津島佑子、丸谷才一、日影丈吉などの日本人作家が台湾を描いた作品も取り上げる予定である。	
			国際理解 日韓比較文化論	本講義のテーマは国や文化、言語が違う人同士のコミュニケーションをより円滑にするためにはどうすればよいのかを考えることである。具体的には、日本語という「言語」を取り上げ、そこに垣間見える日本の文化や日本人の考え方を学び、さらに韓国語・韓国文化と比較していく。授業の中では、両国の言語行動の比較をテーマとする研究を取り上げ、ディスカッションを通して、新たな気づきを得る。また、そこから生まれた疑問については、グループワークによって調査を行い、両国への理解をより深めていく。	
			国際理解 日本語をめぐる国際交流史	開港後の横浜では、日本語の「変種」が飛び交う中、来日外国人の手によって日本語の文法書や学習書が作成された。日本語は、どのような人々によって、どのような目的で学ばれてきたのか、欧米諸国を中心に日本語学習・日本語研究の歴史について学ぶ。史実から得た知識に基づき、言語教育をめぐる現代の課題について議論する。授業では、DVDの視聴を通じて理解を深めるとともに、一次資料を用いたレポートの作成方法についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	色彩論	色彩を単なる知識として学習するだけではなく、体験を通して体験学習として自己に活用されるよう指導する。テキストにより、色の本質・色の体系・色の見え方・混色・配色等の各項目の演習を完成して、色彩を体系的に学習する。色彩学や自然界における「美しい色彩」のスライド映像等による視覚教材を活用し、色彩への興味と理解を深める。各自が自由に設定し分析した研究課題「色彩の対比効果」等の課題を課して、自主的な作品制作による色彩の研究に取り組みながら色彩表現力を高める。	
			社会科学概論A	本講義では、経済学、社会学、政治学、宗教学、社会人類学等の総称である「社会科学」における基本的な概念、方法論と思想・哲学の基礎を学び、「社会科学」の基礎的な知識を身につけてもらうことを目的としている。社会科学概論Aでは、主として「社会科学」の基本的な概念、方法論について学習する。 初めに、「科学」とは何なのかについて考える。また、「科学」と「技術」の違いについても言及し、「社会科学」の特性を踏まえたうえで、「社会科学」の方法について説明する。 まずは、「社会科学」一般で共有されているものを中心に、「社会科学」の方法について説明する。また、方法論関連する「社会科学」の哲学についても触れる。「社会科学」全体を概観した後、経済学や社会学等、「社会科学」の個々の分野における方法について具体的に紹介する。	
			社会科学概論B	本講義では、経済学、社会学、政治学、宗教学、社会人類学等の総称である「社会科学」における基本的な概念、方法論と思想・哲学の基礎を学び、「社会科学」の基礎的な知識を身につけてもらうことを目的としている。社会科学概論Bでは、主として「社会科学」の歴史について学習する。 初めに、「社会科学」成立以前の思想的潮流を説明する。次に、啓蒙思想について紹介し、最後に、現代の「社会科学」についても言及する。 まずは、古代、中世、ルネサンス期における思想的潮流について、「社会科学」と関連の強いものを中心に紹介する。続いて、啓蒙思想を概観することにより、「社会科学」がどのような変遷を経て成立したのかを説明する。また、経済学や社会学等、個々の分野についても言及する。最後に、現代の経済学や社会学等、「社会科学」の個々の分野の現状について概観する。	
			社会科学の方法	社会科学の方法的特質として、客観的で自律した世界の認識および価値論からの脱却による純粋科学化がある。しかし18世紀に成立した社会科学的なるものは倫理や道徳と分ちがたく結びついてきたものでもある。この講義では、経済と倫理という軸から企業活動の社会的責任や、競争の是非、「格差」やグローバル化の問題などを、社会科学的な観点と共に、歴史的な知見を用いつつ取り上げ、そのトピックに関する論争などを通して、多面的に経済と倫理の問題を検討する。	
			社会科学の歴史	近代において成立した社会科学の中で、最も科学的であることを自負する経済学の歴史を、福祉をキーワードに、市場と反市場の経済学の系譜をたどりながら、その特質を明らかにする。18世紀イギリス、フランス、イタリアを中心とした欧州における社会科学的な知の成立の諸状況・文脈を理解し、21世紀に至るその言説の変容と政治・経済・社会の状況変化を講義する。また法学、社会学などの隣接社会科学分野の動向にも言及しつつ、経済学を中心とした社会科学的な知の多面的な様相を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	社会生活と法	「社会あるところに法あり (ubi societas ibi ius)」という言葉があるように、私たちは、様々な社会・部分社会に属し、生活のあらゆる場面において法と関わっており、法と無関係に生きていくことは出来ない。従って、教養として法を学ぶことは、とりわけ、近い将来、社会人となる大学生にとって必要不可欠といっても過言ではない。そこで本講義では、日常の社会生活での具体的問題を素材に、法的なものの考え方への理解を深め、基本的な法知識を身につけることを目指す。
			宗教学	およそ人間の営みについて考察しようとするとき、「宗教」に関する知識や、事象の宗教的背景についての理解が不可欠である。ここでの「宗教」とは、特定の教団のみを指す用語ではなく、より広い文化現象を指す用語である。本授業では、19世紀に成立した科学的な宗教研究の流れを紹介しつつ、信仰・共同体・神話・儀礼という四つの観点から、古今東西の宗教事象について考察する。それによって「《宗教》を信じる」でも「《宗教》を自分には関係のないものとして遠ざける」でもない、「《宗教》について知る」という立場を追い求める。
			生涯発達論	発達とは、未熟な子どもが成熟した大人にたどり着く過程のみを指すのではなく、生涯にわたる環境との相互作用や、それに伴う変化を取り扱うものである。本講義では、胎生期から老年期までの人間の一生涯の発達に関する基本的な理解を通して、発達のメカニズムや発達を取りまく社会的、文化的条件について考察していく。①発達段階とは②生涯発達の視点③胎生期の発達④新生児期の特徴⑤乳児期の認知⑥乳児期の対人関係⑦幼児期の認知⑧幼児期の対人関係⑨幼児期の認知⑩児童期の発達⑪児童期の対人関係⑫青年期の自己意識⑬青年期の対人関係⑭成人期の発達⑮老年期の発達
			職業と教育	従来日本の学校教育は、多くの場合、将来多くの生徒たちが職業に就くにもかかわらず、そのことを意識せずに教育が行われてきたことは否定できない。「進路指導」といっても、点数や偏差値による「輪切り」になっていたことは否定できない。しかし今日「フリーター」「ニート」という言葉に象徴される「学校から仕事へ」の移行問題の深刻化や若者の雇用問題の深刻化に伴い、教育学のみならず労働問題、労働経済学などさまざまな分野の研究者から、職業教育の必要性が改めて提起されている。この授業では、1) 今日の若者の雇用問題、2) 職業教育の歴史的展開、3) 諸外国における職業教育の動向などの点から、職業教育の必要性について検討する。
			心理学B	我々の日常の身近な世界には心理学を学ぶための素材が溢れている。特に映画は人間心理の宝庫であり、映画という大衆文化から教養としての心理学を学ぶことの意義は大きい。本授業では、映画を取り上げながら、人はどのような心の悩みをもつのか、心の悩みはなぜ生じるのか、苦悩する人間をいかに援助するのか、といった心理的諸課題に対する理解を深める。さらには人間が生きていくことの意味や人間的成長についても心理学的視点から深く探求する機会を与える。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	心理学史入門	心理学がどのように生まれ、どのように発展したかを知る学問が心理学史である。心理学は、はじめから現代の心理学のような形で存在したのではない。社会や文化との相互作用の中で、心理学は歴史的に形づくられてきた学問といえる。本講義では、心理学とは何か、科学とは何か、歴史を研究する意義は何かを学ぶことを通して、自分自身の研究の意義や社会とのかかわりを考えてもらうことを目的としている。講義は、パワーポイント、動画、映画を利用しながら進める。	
			水彩画基礎技術	透明水彩画技法は、白色絵の具を混ぜせずに紙の白さを利用して事で描くのが基本であり、まず、この事を理解し、与えられた図版を転写素描した後、陰影と固有色とを分けて制作する事で制作する。色彩と形の基礎的造形感覚を身に付けるための基礎的造形修練とする。	
			地域課題実習Ⅰ	多様な地域課題解決に対し地域のさまざまな主体が連携・協働しながら取り組んでいる現代社会の実状について、できる限り現場に出ながら知見を深めるとともに、自治体、NPO、専門家、企業等と協働しながら課題解決や新たな価値創造に向けた取組・方策を体験し、地域課題解決に向けての学問分野を超えた基礎的かつ実践的な素養を身につける。各プロジェクトは学部・学年を超えた横断的なチーム構成を推奨しており、自分の専門分野に限らない新たな視点の広がりを目指すことができる。	
			地域課題実習Ⅱ	「地域課題実習Ⅰ」で習得した多様な地域課題解決に対する知見や、自治体、NPO、専門家、企業等と協働しながら、課題解決や新たな価値創造に向けた取組・方策の体験を元に、地域課題解決に向けて自らが協働しながら新たな視点での方策案等を提案し実践を行う。また、提案や実践を踏まえながら、他のプロジェクトとの連携やネットワーク形成による更なる活動の拡がりを考え、各地域における課題解決に向けた取組みの展開を検討する。	
			地誌学概論	地誌学とは、人文・社会現象の地域性を総合的に解明する地理学の一分野である。本講義の前半では東南アジアおよび太平洋島嶼を対象として、地域の自然環境および環境利用を捉える視点を議論する。続いて各地域にみられる生活文化の多様性を、環境利用を軸としてとらえ、地誌学の方法を学ぶ。1. 地誌学の位置づけ、2. 東南アジアの気候と地形、3. 東南アジアの民族と言語、4. 東南アジアの人口と農業、5. ホンデルタの自然と村落、6. ホンデルタの都市と農村、7. メコンデルタの自然と村落、8. メコンデルタの農漁業と国際市場、9. コラート平原の自然と生業、10. コラート平原の人口と労働、11. 大陸山地の自然と生業、12. 大陸山地の開発と社会変化、13. 泥炭湿地の自然と生業、14. 高島／低島の自然と生業 15. まとめ	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	中国の古典文学	中国の古典文学を学ぶことは外国文化の学習であるとともに、日本文化を学ぶことでもある。日本文化の担い手たちは中国古典の世界を学び吸収して、その上で日本独自の文化をも創造してきており、また故事成語や漢語として現代日本の日常にも深く関わっている。本講義では毎回異なるテーマを取り上げ、地理的にも経済的にも近い存在である中国の文化を、文学、思想、歴史など様々な角度から学び知識の引き出しを増やすとともに、日本の文化、言語をより深く理解することを目的とする。	
			哲学	急速に拡大し変化し続ける、現代社会と科学。個別の知識や思考、技術とは別に、全体的で包括的な知的営み、あるいは個別のものから本質的にはみ出る営みが要求される。これらこそ、過去の人名と結び付いた静的な「哲学」ではなく、自らの持続的行為としての「哲学する」ことである。 授業では2500年の歴史以上に、最新の状況と不変の論理、数学を踏まえ、具体的に哲学する例を提示。それを通じて、学生自身が新たに哲学することを促す。基礎的作法として、適切な資料の探し方（本・ネット等）、引用の仕方も簡単に指導する。	
			東洋思想史	本講義は具体的な歴史、政治背景を説明しながら、覇権争いが極めて激しい春秋戦国時代の孔子・孟子・老子・荘子・韓非子などの諸子百家、六朝の清談、唐の玄奘三蔵法師と唯識論、宋の朱子学から明の陽明学、李贄の童心説まで中国二千余年の思想史を概観する。中国思想の起源、変遷、継承を通史的に把握してもらおうことを目的とする。	
			都市と建築	都市や建築は誰でもが日常的に経験し利用するものである。その都市や建築を建築学の領域ではどのように評価しているのか、またどのような問題をかかえているのかについてわかりやすく概説する。また、自習演習として建築・都市の各分野から出されたテーマのいずれかを選択して、自分で体験したり調査を行って考えをまとめ、レポートを作成する。①オリエンテーション②③建築史と歴史的建造物の保存活用（52 大野敏、67 守田正志）④⑤都市計画とまちづくりについて（56 高見澤実63 野原卓）⑥⑦都市のデザインについて（54 小嶋一浩、58 西澤立衛、51 乾久美、65 藤原徹平）⑧⑨建築の計画と環境行動について（【マル51】大原一興、【マル53】 藤岡泰寛）⑩-⑮自主演習	オムニバス
			日本近現代史	古くから現代に至るまで、「都市」は洋の東西を問わず普遍的に存在し、モノや貨幣の集中するセンターとして、また文化や情報の結節点として、社会全体に大きな影響を与え続けてきた。本授業では日本前近代における都市社会の具体相をできるだけ細かくたどりながら、前近代社会全体の特質に迫ることを目指す。その際とくに、古代の代表的都市類型である都城が変容して中世の「町」が生成した過程と、中世の在地領主の「館」が拡大して近世の代表的都市類型である城下町が成立した過程を重視する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	日本前近代史	古くから現代に至るまで、「都市」は洋の東西を問わず普遍的に存在し、モノや貨幣の集中するセンターとして、また文化や情報の結節点として、社会全体に大きな影響を与え続けてきた。本授業では日本前近代における都市社会の具体相をできるだけ細かくとりながら、前近代社会全体の特質に迫ることを目指す。その際とくに、古代の代表的都市類型である都城が変容して中世の「町」が生成した過程と、中世の在地領主の「館」が拡大して近世の代表的都市類型である城下町が成立した過程を重視する。	
			日本国憲法	日本法は、憲法を頂点とした構造をもっています。その中で現行憲法である日本国憲法は、私たちのもつ人権を保障し、国のあり方を規定しています。したがって、私たちの生活と密接につながっていると言えます。この講義では、私たちと現行憲法が関係する様々な論点について、条文の規定する内容やそこから導かれる解釈について紹介したうえで、具体的な判例を題材にしながらか解していきま。条文を理解したうえで実際の事例を検討することによって現行憲法に対する理解を深め、そして、実際の生活の中で現行憲法がどのように反映しているかを知ることによって憲法そのものの考え方を身につけることが主な目的です。	
			日本の近代文学	近代になって新たに編成された「文学」というジャンルは、近世までの小説ジャンルとの差異を強調することによって、逆に近代以前の文化との断絶面を浮上させ、日本における独自の「近代」のありようを刻み込むこととなった。本講義では、このような近代日本文化の独自性を明らかにするために「心霊」「妖怪」などをキーワードにして、近代以降の文学テキストに刻印された屈折の様態を明らかにし、現代に続く日本的感性のありようについて考察を深める。	
			日本の言語	現代日本の言語生活は激動の中にある。その渦中で言語の本質を見極め、変化すべき事と変化してはいけない事を区別し、より良い言語生活をしていくためには、言語に関する深い知識と、それを基に考える力が必要である。本講義では、毎回印刷資料を使いながら、適宜、音声・映像・写真・影印資料等なるべく生に近い形で古今の言語を示す事によって、言語への客観的な観察力を養成し、科学的に考える方法を学び、自分なりに新しい言語生活力を指向し改良していくために必要な力を習得する。	
			美術の見かた	小学校、中学校、高等学校で使われている美術科の教科書に掲載されている作品を中心に、さまざまな美術作品を画像等で鑑賞し、美術作品を見ること、美術作品との関わり方について関心をもてるようにする。また、ほぼ毎回簡単な実技課題を出題する。実技の活動をしながら鑑賞をより深いものとし美術を身近なものと感じられるようにする。美術作品について根拠を持って解釈すること、実習課題を通して鑑賞を能動的行為として行えること、美術鑑賞を通して批判的な思考力を身に付けること、基礎的な知識を基に美術について創造的に思考することを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	人と自然のかかわり	世界各地で私たちが直面している自然環境に関する諸課題を解決するためには、地域の多様で複雑な「人と自然とのかかわり」を多面的かつ総合的に理解する地理的なものの見方・考え方が必要不可欠です。この授業では、いくつかの具体的な事例を取り上げて人間と自然との関係についての理解を深め、身近な地域から地球全体におよぶ環境問題の解決に向けた地理学的なアプローチを学びます。	
			人と動物の関係学	たくさんの犬や猫、あるいは他の動物が私たちとともに生活するようになり、そのような動物たちに対する呼び方も、ここ10数年で、「ペット（愛玩動物）」から家族の大切な一員である「コンパニオン・アニマル（伴侶動物）」へと変化してきている。この授業では、人間と動物の関係を多面的に捉え、動物とのかかわりが人間の生活の質にどのような影響を及ぼすのかを深く理解し、人間と動物の望ましい関係について構想できるようになることを目標に、注目すべき最新的话题を取り上げて講義する。	
			文化人類学の考え方	文化人類学は、世界の様々な民族の文化を比較研究する学問である。それによって、異文化に対する理解を深めるとともに、自文化を省みることが目的とする。この授業では、結婚や家族など、我々の身近な社会関係をテーマとし、文化人類学的思考方法の基礎を解説する。そして、我々が当たり前だと思っている文化的前提の脆弱性を知り、一見すると奇異に見える文化と我々の文化の間にある共通性について論じる。それによって、異文化理解の助けとなる文化人類学的なもの見方／考え方を身につけることを目指す。	
			ベンチャーから学ぶマネジメント	起業家、経営者に講演いただき、ベンチャー精神に触れ、「今」のビジネス・起業に対する関心を喚起し、それらへの志を養う。また、身近な地域企業の経営を学ぶことを通じて、働くことの価値と自らのキャリアデザイン、ライフデザインを考える契機を提供する。①ガイダンス②経営者講演1③経営者講演2④経営者講演3⑤大学発ベンチャー講演⑥経営者講演4⑦中間まとめ⑧ベンチャー支援者講演1⑨ベンチャー支援者講演2⑩経営者講演5⑪経営者講演6⑫経営者講演7⑬経営者講演8⑭経営者講演9⑮パネルディスカッション⑯総括	
			法と人間	法は人間社会のルールであるとともに、法自身も人間によって制定され解釈され執行される。この授業科目では、裁判所組織、法曹三者(裁判官、検察官、弁護士)、法の形式(憲法、法律、命令、条例など)、刑法と刑事訴訟法の本原則(刑罰の種類、罪刑法定主義、起訴独占主義、検察審査会、告訴と告発、自白など)、民法と民事訴訟法の基本原則(過失責任主義とその変容、契約の効力、公序良俗、権利濫用、自白など)、判例の拘束力などについて説明する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	人文 社会 系	民族音楽学入門	民族音楽学は20世紀に西洋で異文化の音楽を対象として生まれた学問である。世界の音楽文化をそれ自体で理解しようとする文化相対主義の考え方をベースに、フィールドワークを通して音楽を当該文化の一部として理解する一方、口頭伝承の音楽を楽譜にする音楽分析（採譜）も積み重ねてきた。この講義では、民族音楽学がどのように誕生し、どのような研究を行ってきたか、その歴史・対象・方法を学ぶことで、多様な音楽文化の存在とそれらを相対的に評価する視点を学ぶ。	
			木材と人間	近年、各方面で自然材料として木材が注目を浴びている。本講義では、木材に関する知識を習得するとともに木材産業や教育現場における「木のものづくり」などの理解を通して、人間がよりよく生活するためにどのように木材を活用していくべきかを考えることを目的とする。親環境材料としての木材、自然材料としての木材、木材・木質材料の種類などの木材の基礎科学を学びながら、木材産業の現状について考えます。また、木材と視覚、木材と触覚、木質空間の温熱環境、木質環境の空気環境といった木材と人間の関係の科学を学びながら、木造校舎の教育環境などの最新研究についても考えます。	
			ヨーロッパ近現代史	1989年の東欧革命により、ヨーロッパは分裂と統合の変動のなかに投げ込まれ、その変動は現在でも帰結に至っていない。このような変動のただ中にあるヨーロッパを象徴するのが、近代以降、自身が分裂と統一を繰り返し経験し、第二次世界大戦後はヨーロッパ統合の旗手となったドイツである。本講義は、こうしたドイツの歴史的特質をヨーロッパ近現代史の大きな流れのなかで理解することを目的とする。そのために、各時代を特徴づける個別的テーマや歴史上の問題を取り上げ、解説を進める。	
			ヨーロッパ文学	19世紀から現代にいたるまでのフランスおよびドイツ語圏の小説を抜粋で読みながら、時代背景ならびに主要な文学思潮への理解を深めるとともに、それぞれの作品に対する多様な読解の可能性・批評の歴史を学ぶ。文学作品とジャーナリズムの関係や、音楽や舞台芸術など他ジャンルの芸術と小説の関連について作品を鑑賞しつつ考察する。ヨーロッパ各国の文学の影響関係、翻訳・創作を介した日本文学との相互関係にも目をむける。	
			横浜学--地域の再発見--	みなとみらい21、横浜中華街、横浜ランドマークタワー、横浜ベイブリッジ——日本のみならず世界でも有名な都市である港町・横浜。この国際都市・横浜に立地する横浜国立大学で学ぶ私たちは、ここから何を学び、将来に活かしていくべきであろうか？本授業では、横浜について経済、観光、都市づくり、人材支援の側面から理解を深めることを通して、新しい視点から地域について問題意識を持ち、課題解決に結び付ける力を養うことを目的とします。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	基礎 科目	倫理学	YNUの学生として十分な倫理観・責任感を養うために、先ず、日本、世界で何が起きているか、現代社会がどのように成立して現在の社会構造があるのか、正確な知識を養えるようにしたい。本授業では、最初に哲学・倫理学の歴史(ギリシア、ソクラテス、キリスト教中世、近代自然科学、カント、ヘーゲル、マルクス、日本の思想)を振り返り、近代以降何が問題となってきたかを根本的に考える。科学技術の問題を近代以前の思考と対照して考え、科学的思考を十分に相対化できるようにする。経済成長の犠牲を過去・現在に考え、未来を展望する(日本の経済、世界の経済と国家経営、地球環境倫理)。	
		音声言語学概論	グローバルキャリアにおける話者のコミュニケーション特性は、異文化理解に大きく影響を与えるため、話者の言語特性に応じた異文化コミュニケーションスキルの違いは、異文化理解の深さにも大きな影響を与える。この講義では、音声言語を中心に、文化やコミュニケーション形態の特徴について学習し、これからのグローバル社会におけるコミュニケーション・ファシリテーターに必要な知識と技能を修得することを目的としている。	英語
		記述言語学概論	グローバルキャリアにおける話者のコミュニケーション特性は、異文化理解に大きく影響を与えるため、話者の言語特性に応じた異文化コミュニケーションスキルの違いは、異文化理解の深さにも大きな影響を与える。この講義では、表記言語を中心に、文化やコミュニケーション形態の特徴について学習し、これからのグローバル社会におけるコミュニケーション・ファシリテーターに必要な知識と技能を修得することを目的としている。	英語
		ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	「コンピュータ・サイエンスのための数学」に関する動画コンテンツを日英相互参照可能な学修コンテンツに再構成するプロジェクトに参加することを通じて、コンピュータ・サイエンスに利用される基礎的な数学に対する知識、チーム内での効率的作業を行う能力、主体的能動的に学ぶ能力、プロジェクト管理の基礎的知識とスキルを獲得することを目的とする。なお、授業成果物としての学修コンテンツは、MOOC(大規模オープンオンライン講座)教材として実際に活用される。	
		Webページ作成入門	本授業では実習を通じて、コンピュータおよびネットワークのしくみの理解を深めながら、Webページ作成を行う。日常的に利用しているWebサイトのしくみやセキュリティに関する話題、情報発信における倫理と著作権およびWeb制作会社での実務などの知識と、ファイル操作や画像の編集などの実技も向上するように計画されている。全くの初心者であっても指定した教科書に従って実習を進めることで、基礎的な技術が身につくようになっている。	
	自然科学系			

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目  基礎 科目  自然 科学 系	衣生活の科学	衣服はファッションを表現する代表的な手段である。しばしば時代の風潮に左右されやすく、生理的に快適で、文化的、個性的な衣生活を経営・維持するには、衣服や衣生活行動に関する科学的知識と考察を必要とする。この科目では、衣服・衣生活に関わる諸事象について、科学的基礎に立って理解を深める。主に以下の内容について講義する。 1. 被服の働き、2. 衣服の熱・水分移動性能と温熱的快適性、3. 衣服の身体適合性・運動機能性、4. スポーツウェア、5. 衣服素材の種類と基本的性能および仕上げ加工と新素材開発の動向、6. 衣生活とファッションビジネス、7. 衣服の管理と機能保持、8. 衣生活と環境保全、9. 衣生活と福祉	
	エネルギー工学序論	私達の生活や産業を支えているエネルギーの基礎から応用までを多角的、総合的にとらえることを目標としている。そこで、熱力学に基づいたエネルギーの利用や問題点を学ぶ。さらに最新のエネルギー変換技術、エネルギー利用技術についても言及する。①序論②私たちの生活とエネルギー③エネルギーとは何か④使いやすいエネルギーに変換する⑤エネルギー変換の原理や仕組み⑥電力生産の方法とシステム⑦電力生産が環境に与える影響⑧ハードバスとソフトバス（①～⑧：奥山）⑨資源エネルギーと環境問題⑩エネルギーの貯蔵⑪エネルギー輸送⑫化学熱力学の基礎⑬燃料電池・二次電池⑭新しいエネルギーの開発⑮エクセルギー・エネルギーの有効利用と全体のまとめ（⑨～⑮：光島）⑯定期試験（奥山，光島）	共同
	エネルギーと環境	人類の活動はエネルギーなしでは営むことはできない。しかし、エネルギーを使えば自然環境に影響を与えることになる。環境問題を無視してエネルギー問題を語ることはできない。ここでは、人類とエネルギーとの関わりについて環境に与える影響も考慮しながら考えていくことにする。さらに、電気エネルギーの利用に的を絞って、環境に与えるインパクトを考慮した新しい考え方について解説する。また、環境問題を考えるディベートを行うことにより、それぞれの理解を深める。	
	海洋工学と社会	海洋空間は古くから、漁業や海上交通などを通じて人間生活と深いかわりを持ってきた。昨今、広大な空間利用は、海洋の表面だけではなく、大気圏や宇宙空間さらには、深海にまでその領域をひろげてきており、各領域においてさまざまな開発が進行している。本講義では、各教員がそれぞれの専門分野のトピックス（下記）を紹介することを通じて、海洋工学にかかわる技術が、社会および自然に及ぼす影響・効果、さらに海洋工学を学んだ技術者が社会に対して負っている責任（技術者倫理）について、平易に解説する： 人による海洋空間利用と海洋環境と社会の関わり 造船・開運を支える社会と未来 船舶の運航とその自律化について CAE (Computer Aided Engineering) と社会 航空機に対する社会的要求と空力技術の関係 輸送システムの省エネ・エコと流体力学の役割 実海域の波と実験室の波 航空宇宙環境利用の現状と将来 海上輸送と地球環境 船舶海洋における構造損傷・事故の歴史と技術者の役割 地球上最後のフロンティア—深海と極域における開発の現状とこれから—	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	環境化学概論	我々が生存する場である地球環境は物質により構成される系であることから、その本質的な理解には化学の原理を適用することが不可欠である。また、現在、社会的に取り上げられている環境における諸問題の対策の検討にも化学の原理による理解が必須である。そこで本講義では、地球環境の起源と進化、そして、エネルギー・廃棄物・資源・汚染といった人間関わる諸問題を化学の法則、特に化学熱力学の基礎を適用することで現象の本質を理解し、同時に、環境問題の現象の理解だけでは解決の方策は決まらず、科学・倫理・生態といった側面から複合的に考えることが不可欠であることを理解することを目的とする。	
			環境リスクとつきあうⅠ	環境は常に私たちの暮らしに一定のリスクを与えている。また、環境問題の多くは、私たち個人や社会のあり方に大きな影響を与えている。環境問題を解決するにはリスクの大きさと問題の重大さを判断し、対策の順序や方法を考える必要がある。この授業では福島第一原子力発電所事故による生態系の放射能汚染（154 金子／2回）や、生物多様性と生態系サービスを損なう生態リスクの評価と管理（【マル153】 松田／3回）、遺伝子組み換え生物などを対象に環境リスク（167 中村／3回）の大きさを判断し、解決を考える方法について解説する。	オムニバス
			環境リスクとつきあうⅡ	環境は常に私たちの暮らしに一定のリスクを与えている。また、環境問題の多くは、私たち個人や社会のあり方に大きな影響を与えている。環境問題を解決するにはリスクの大きさと問題の重大さを判断し、対策の順序や方法を考える必要がある。そこで、これまでの公害問題と対比しつつ（益永）、現在の環境問題の特徴や地球環境問題との関係について解説する（中井）。さらには身近な環境問題へのアプローチ法を考える（本藤）。	オムニバス
			環境をめぐる諸問題Ⅰ	現代のさまざまな環境問題を紹介する。環境問題を解決し、人間と自然の共生を通じて社会の持続的な発展を目指すことは、各専門分野の垣根を越えて一般市民たる我々すべてに問われているといえる。本科目では、多様な分野の専門家による講義を通じ、学際的に環境問題を考えたい。具体的には、国連ミレニアム生態系アセスメントが示す地球環境の現状（164 酒井／2回）、カビ・キノコと環境問題（168 中森／1回）、海洋における環境問題と生物の応（166 下出／2回）、海洋の環境と生態系（155 菊池／2回）、環境問題と複雑系（雨宮／1回）について解説する。	オムニバス
			環境をめぐる諸問題Ⅱ	現代のさまざまな環境問題を紹介する。人間と自然の共生を通じて社会の持続的な発展を目指すことは、各専門分野の垣根を越えて一般市民たる我々すべてに問われているといえる。本科目では、多様な分野の専門家による講義を通じ、学際的に環境問題を考えたい。具体的には、気候変動と持続可能性（【マル153】 松田／2回）、外来種問題と環境（156 小池／2回）、都市エネルギーと環境問題（169 鳴海／2回）、化学物質と環境問題（163 小林／1回）、自然公園管理（171 森／1回）に見る資源管理の不確実性について解説する。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	健康の科学 人が生活を営むのにおいて、健康であることは非常に重要な要素であるが、得てして健康である間は、それを意識しないものである。本講義では、健康に関する諸問題を、身体的、精神のおよび社会的側面から理解し、また科学的に捉えることを目標とする。具体的には、人体の構造や疾病の成り立ちといった個体レベルの基礎的な知識や身近な健康リスクに関する知識を修得し、疾病の原因や疾病の予防法を科学的に探り出す手法、高齢社会において地域が抱える医療の問題、健康な社会を構築するための取り組み、などを学習する。	
			建築の環境と防災 建築物を構成する材料・構法と社会との関わり、建築に作用する自然災害などの外乱と建築に要求される性能、建築を取り囲む環境および建築が創り出す周囲の環境との関係、建築が集まっている都市の環境を持続可能で安全・安心な物とするための基本的な考え方を学ぶ。①講義の概要説明、ガイダンス②～④建築材料構法（建築の特性・構成、建築に使われる材料、構造・構法の変遷、構造の種類、木造構造の構法概要など、（60 河端昌也、59 江口亨）⑤～⑦建築構造学（建築構造と法律、建築構造と性能、建築構造の限界状態、各種の荷重・外力、積雪による崩壊、地震による崩壊鉄骨構造の特徴、鉄骨造の特徴、鉄骨造に拘わる業種の構図など、（66 松本由香）⑧～⑩建築構造力学（鉄筋コンクリート造建物の特徴と現状、新しい地震対策技術—制振・免震、建築構造の未来と夢など、（61 杉本訓祥）⑪～⑫建築環境工学（建築環境工学の概要および屋外気候と建築、建築と音・光環境など、（57 張晴原、62 田中稲子）⑬～⑭環境管理計画学（都市の環境：エネルギー供給のあり方、都市の防災：都市化と災害危険、地震災害事例、対策など、（【マル52】 佐土原 聡、68 吉田 聡）⑮復習	オムニバス
			国土学とグローバル社会Ⅰ 「土木工学」は人間が豊かで文化的な生活を送る上で必要な国土保全・立地・ライフライン・交通運輸を支えるための物造りの学問を指す。今後は、地球規模での視点を踏まえ、人間の文化的生活の土台を豊かにするという重い課題を担うが、これらの課題が具体的に何であり、何のためにどのようにそれを解決していく必要があるのかを具体的な事例を挙げながら解説する。具体的には①社会基盤の歴史の変遷と今後（椿龍哉）、②地盤防災の概要（【マル103】 早野公敏）③都市空間と交通施設に着目し、その成り立ち、近代以降の歴史、現代の問題点（102 中村文彦）④道路構造物、特に橋梁に着目し、橋の成り立ちと歴史の変遷（【マル101】 勝地弘）⑤津波・高潮・洪水への対策といった水災害への備え（【マル102】 中村由行）などを学ぶ。	オムニバス
			国土学とグローバル社会Ⅱ 「土木工学」は人間が豊かで文化的な生活を送る上で必要な国土保全・立地・ライフライン・交通運輸を支えるための物造りの学問を指す。今後は、地球規模での視点を踏まえ、人間の文化的生活の土台を豊かにするという重い課題を担うが、これらの課題が具体的に何であり、何のためにどのようにそれを解決していく必要があるのかを具体的な事例を挙げながら解説する。具体的には①構造物の耐震性の観点から設計方法の移り変わり、また、構造物の耐久性の観点から材料と環境の関係（椿龍哉）②地盤施工（基礎、擁壁、トンネル、地盤改良など）、地盤環境工学（土壌汚染、廃棄物処分など）の概要（【マル103】 早野公敏）③都市交通施設について、開発途上国での課題、地球的環境問題との関係性（102 中村文彦）④道路構造物、特に橋梁に着目し、計画から建設、維持管理における技術と問題、環境との調和やランドマークとしての橋の意義などについて、国内・海外での具体的な事例（【マル101】 勝地弘）⑤水不足への対策としての水資源の総合的管理、および閉鎖性水域における水環境の保全（【マル102】 中村由行）などについて学ぶ。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	古生物の科学Ⅰ	私たち人類は過去の地球の生物の子孫である。また、過去の生物のたどった運命は、私たちあるいは私たちの子孫の運命でもある。この意味で、人類は過去の生物に無関心ではいられない。授業では、化石の持つ意味を理解し、その研究法を以下の授業内容で習得する。1 北米大陸の地層と化石、2 化石と地層から見た地球環境の変遷（1）、3 化石と地層から見た地球環境の変遷（2）、4 古生物学の方法：自然史科学と古生物学、5 化石の保存、6 過去の生物の復元、7 化石を扱う際の種の問題（生物学的種概念との関連）、8 化石はどのように進化論に貢献できるのか（分断平衡論）。	
			古生物の科学Ⅱ	大型化石として最も多産する腹足類、頭足類、二枚貝類、掘足類、吻殻類、単板類からなる軟体動物有殻類の分類と進化を現生物の知識と化石記録を統合して以下の順で解説する。1 軟体動物化石の世界（美しい貝、食べられる貝、化石の貝）、2 巻貝の世界（1：ねじれ、貝殻、多様性）、3 巻貝の世界（2：右巻と左巻、二枚貝を背負った巻貝、殻のない巻貝）、4 頭足類の世界（イカ、タコ、アンモナイト、オームガイ）、5 二枚貝類の世界（頭がない、死んだ殻は何故開かない、変な二枚貝）、6 ツノ貝類と吻殻類（古生代に絶命した吻殻類は二枚の殻を持ったツノ貝？）、7 単板類（化石記録と生きた化石の発見）、8 有殻類全体の化石記録に基づく進化の道筋。	
			材料学入門	社会環境を構成する機器やインフラ、身の回りの品々では、どのように適切な材料の選択を行っているのだろうか。本講義では、機能を生み出す材料科学と社会が求める材料工学の役割について学ぶ入門編である。そして、更なる学びのための授業科目のつながりや、金属、セラミックス、半導体、ポリマーなどの様々な材料の姿について紹介する。①顕微鏡でのぞいてみる（竹田）②周期表と金属元素（廣澤）③光半導体の世界（向井）④ソフトマテリアル（鈴木）⑤加工で形をつくる（前野）⑥超高温に耐えるには（長谷川）⑦熱を電気に換える（中津川）⑧ソフトマテリアルの力学（田中）⑨どうして破壊するのだろうか（梅澤）	オムニバス
			実験で学ぶ物理学B	現代社会においては、様々な分野で物理学が本質的に関わっている。文系・理系に関係なく、物理学の基礎を学んでおくことが重要である。この授業では、主に「電磁気学」に関わる内容を取り上げ、私たちが日常生活で使っている道具や家電製品などの動作原理や科学的な仕組みを学んでいく。高等学校で物理を履修していない学生であっても、物理学の基礎的知識を無理なく理解できるように、実験（ものづくりも含む）と討論を主体とした参加型の授業を行う。	
			情報工学概論	高度情報化社会におけるヒト・モノ・コトの“情報”の取り扱い方を学ぶことは今後ますます必要になると考えられる。本講義では、情報学及び情報工学の初学者（学部1年生レベル）を対象として、情報学・情報工学の基礎理念や考え方、代表的なアプローチ方法、計算機による情報の基礎的な取り扱い、情報の発生・蓄積・伝送・処理・解析・認識・理解などの基礎手法、および具体的な応用例について講義を行なう。受講生の情報学・情報工学を学ぶ意欲を高めるとともに、より専門性の高い科目の履修と修得を促すことが本講義の目的である。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	情報セキュリティ入門	情報セキュリティとは、様々な脅威や脆弱性から情報資産の漏洩・改竄・破壊を防ぎ、かつ、認められた者だけが情報資産を利用できる環境を作るために行う持続的対策の総称である。 本授業では、情報セキュリティに関係する基礎的な知識を幅広く学ぶことをその目的とする。授業で扱う内容は、マルウェア・サイバー攻撃の種類とその対策、暗号の基礎、認証の基礎、ウェブ・電子メール・無線LANの仕組みとそのセキュリティ対策、情報セキュリティマネジメントの基礎といった一般的なものとする。	
			情報と社会	「情報」という言葉をキーワードにして、現代社会や現代文化のさまざまな側面について理論的に考察していく。J・F・リオタールのポストモダニズム論、J・ボードリヤールの消費社会論、A. トフラーの「第三の波」論、インターネット文化論などを話題として取り上げ、文明の大きな転換期としての現在の見取り図を作成していく。また、それと共にこのような変化を作り出したおおもとしての人間の欲望の暴走がなぜ生じるかということについて、S・フロイトの欲望論についても概説する。	
			情報ネットワークシステム入門	情報ネットワークシステムは、情報化社会を支える最も基本的なインフラである。情報ネットワークシステムの基礎といえば、インターネットを支えているTCP/IP技術、セキュリティ技術、情報化社会の活動を円滑に行えるための法律やルールなどがある。これらの知識とノウハウの習得は、情報ネットワークシステムの利活用において極めて重要である。本授業では、情報ネットワークシステムについて、幾つかの角度から基礎知識や関連する新技術と動向などを紹介し、情報ネットワークシステムの全体像について理解を深めていく。	
			食環境論	現代社会には食や健康に関する様々な情報が氾濫しており、食や健康について科学的根拠に基づいた知識と考え方を身に付けることが必要である。この科目では、適正な食事摂取量、生活習慣病発症のメカニズム、食品表示、及び食環境などについて基礎知識と最新の知見を学び、人の健康に関わる食生活について科学的な理解を深める。	
			数理科学 I	高校までに積み上げてきた数学とは異なる、数学の世界を味わう。「グラフ理論入門」、「曲面の性質（トポロジー入門）」の2つが題材である。 第1回～第8回：グラフ理論入門 いくつかの点を線で結んだ図形をグラフという。これは、「関数のグラフ」というときに用いるグラフという言葉とはまったく異なる。例えば、パーティーに集まった人のそれぞれに対応する点を紙に書き、お互いに知り合いどうしを線で結んだ図形はグラフである。いくつかの対象の関係をグラフとして表現することによって何が見えてくるか調べる。 第9回～第14回：曲面の性質 曲面をゴム膜でできていると考え、伸ばしたり縮めたりしても変わらない性質を調べる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	数理科学Ⅱ	高校までに積み上げてきた数学とは異なる、数学の世界を味わう。 「整数の話」と「方程式」の2つが題材である。 第1回～第9回：整数の話 ガウスは、数学は科学の女王であり、整数論は数学の女王であると言った。整数についての初等的な話を通じて、整数の世界の美しさや神秘に触れる。 第10回～第15回：複素数の範囲まで数を拡張すると全ての2次方程式は解を持つことを高校で学んだ。3次以上ではどのようなようになるだろうかということについて、複素数を複素平面と対応させながら考えていく。	
			数理科学概論	本講義は、主として学部1年生を対象として、数理科学の最先端のトピックスについて複数の教員がオムニバス形式で講義を行う。毎回の講義において非常に幅広いトピックスを取上げるものの、基礎的な内容から専門的、応用的な内容までを概説することにより、数理科学的な物事の見方、考え方を身に付けるとともに、その後の基礎科目、専門科目を学ぶ意義を理解する。最終的に、数理科学分野に対する興味と関連科目を学ぶ意欲を高めることを目的とする。	オムニバス
			生物地理学入門	地球上の生物はランダムに分布しているのではなく、さまざまな要因によって生育範囲が決められている。その大きな要因として、気候と地史的背景が挙げられる。この2つの要因が絡み合って、それぞれの土地で進化を遂げた結果、多様な生物が生まれた。生物の進化や地理的分布を、この2つの要因から探る学問を生物地理学という。本講義では、世界各地の事例を元に地球全体の生物分布を俯瞰し、生物の生存戦略と形態的・機能的変化について理解し、生物多様性と生物保全を考える。	
			生物の世界Ⅰ	地球には多種多様な生命が分布し、その営みはヒトの生活のみならず、地球生態系、地球環境の存続にも大きな影響を与えている、本講では地球に分布する生命の枠組みとその歴史を概観し(155 菊池)、地球の誕生から生命の誕生(172 山本)から原核生物の細菌(155 菊池)、真核生物の原生生物(155 菊池)、菌類の世界(168 中森)、植物の世界(164 酒井)までの姿を概観する。	オムニバス
			生物の世界Ⅱ	地球には分布する生命について、動物の世界(155 菊池)、土壌中の生物世界(154 金子)、海洋の生物世界(166 下出)、そして絶滅した太古の生物世界(【マル157】 和仁)を見た上で、こうした生物の世界を我々はどうやって理解し、保護・管理したら良いのかを考え、生物の世界の探り方を学び(171 森、156 小池)、人類が如何に生命豊かな地球を守り育てて行く必要があるのかを考える(【マル151】 及川)。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育科目	基礎科目 自然科学系	生命科学	現代社会が直面する医療・健康、食料および環境等の諸問題を理解するためには生命科学の素養が必要である。一方、遺伝子解析技術や遺伝子組換え技術をはじめとする様々な新興技術は、我々の生活ともはや切り離せない。この授業では日々新展開を迎えている現代生物学の諸問題を解説し、生命科学が関連する最近の話題について採りあげ、様々な角度から議論する。	
		線形代数Ⅰ	線形代数学は、現代数学におけるあらゆる分野の基礎である。さらに、工学、経済学、統計学など、理工系、文科系を問わず多くの分野に応用されている。本講義では、線形代数学の基礎である行列、連立1次方程式、行列式を主に扱う。	
		線形代数Ⅱ	現代数学におけるあらゆる分野の基礎である線形代数はコンピュータの出現によって、工学はもちろん、他の学問にも必要になってきている。一次式ないしは一次同次式の理論と計算である線形代数の中で、行列式、線形写像、内積空間、行列の対角化などを扱う。	
		線形代数学入門	線形代数学は文系・理系にかかわらず多くの学問分野に必要な基礎数学の一分野である。その内容は大きく分けて「行列」と「線形空間」の2つで構成される。本講義の前半では「行列」を扱い、行列の定義と演算、逆行列、行列式、連立方程式等を具体的に計算できる2次や3次の場合を中心に学ぶ。後半は「線形空間」を扱い、線形空間・線形写像の定義と性質、基底、表現行列等を扱い、前半で学んだ行列の内容で学習できる範囲を中心に学ぶ。講義を通して線形代数学の概要を理解し、基本的な計算ができることを目標とする。	
		体験物理科学A	自然科学の本質は、日常的な諸自然現象を理解することである。本講義では、講義、実験、観察、及び討論を有機的に組み合わせた体験の中で、日常的に観測できる様々な物理現象について学習するとともに、「なぜ」という疑問を感じる、「理解したい」と思う感性を涵養する。積極的な姿勢で授業に臨むことにより、高校で物理を選択しなかった学生にも十分理解できる授業である。教育人間科学部、経済学部、経営学部および都市科学部・都市社会共生学科の学生を対象とし、履修学年次は問わない。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	体験物理科学B	自然科学の本質は、日常的な諸自然現象を理解することである。本講義では、講義、実験、観察、及び討論を有機的に組み合わせた体験の中で、日常的に観測できる様々な物理現象について学習するとともに、「なぜ」という疑問を感じる、「理解したい」と思う感性を涵養する。積極的な姿勢で授業に臨むことにより、高校で物理を選択しなかった学生にも十分理解できる授業である。教育人間科学部、経済学部、経営学部および都市科学部・都市社会共生学科の学生を対象とし、履修学年次は問わない。わずか15回の講義で話せる内容には限りがあるので、ぜひ、体験物理科学Aと合わせて授業して頂きたい。
			地球環境と情報	今後益々深刻化していく環境問題に対して、「情報」をキーワードとした対策を展開していくことを目標に設定し、そこに求められる情報リテラシーをパソコンを用いた実習を通して身につける。具体的には環境・安全に関連する情報を対象として、情報の収集整理方法、「専門—一般」の尺度や不良情報の識別などの観点からの情報の評価方法、情報を基にした論理的思考方法、環境・安全情報を読み取るための基礎的統計知識や検定方法などについて、実習型授業を通して学ぶ。
			地球と惑星の科学 I	太陽系の中で地球が現在のような姿になった歴史と、その結果として生まれた自分たち人間の存在をつなげて理解する。項目は、太陽系と地球、太陽系の構成と形成、地球の構造と構成物質、地球の形成、地球と金星、地球大気と生命の共進化、マグマと火成活動である。
			地球と惑星の科学 II	太陽系の中で地球が現在のような姿になった歴史と、その結果として生まれた自分たち人間の存在をつなげて理解する。項目は、堆積作用と地表の物質循環、生命と生物の歴史、大陸と海洋、プレートテクトニクス、地球の歴史を測る～年代測定、日本列島の形成史、気候変動と地表環境である。
			地質リスクマネジメント I	自然災害時の社会基盤システムの被害はそれを支える地盤に左右される。地形・地質から読み取れる情報への解説力を身につけ、様々な地質・地盤環境下での災害の事例からの教訓を一つ一つ読み解いていく。具体的には、地質が関わる平野部での自然災害とその対応、プレートテクトニクスと地質構造、平野の成因と地質構造（縄文の海進と海成粘土層）、地盤沈下と地下水、地震と液状化、火山噴火と洪水、平野の変遷などについて学習する。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	地質リスクマネジメントⅡ	工学の実用に向けた地質学の基本を学び、併せて社会基盤システムの損失の回避あるいは低減を図る方策を考える。具体的には、地質が関わる台地・山岳での自然災害とその対応（世紀を超える対応）、日本列島の成因（火山とその課題）、日本列島の成因（付加体とその課題）、活終局地帯の地質と工学的課題、台地での課題（逆転地形と風化泥岩、新幹線のトンネルと東名高速道路）、風化と粘土の膨潤、困難な工事例などについて学習する。
			統計学Ⅰ-A	統計学はファイナンス、マーケティング、生産システムをはじめとした経営学の多くの分野で用いられている。本講義では経営学部での学習に必要な不可欠となっている統計学の基礎について学ぶ。具体的には記述統計（データの整理・要約方法）と現代の統計学の非常に重要な基盤となっている確率論の考え方について学ぶ。また、実際にデータ分析ができるように、統計ソフトを用いた基本的なデータ分析方法について学ぶ。
			統計学Ⅰ-C	自然科学や社会科学を学ぶ上で統計的な手法や考え方は非常に重要である。近代統計学は、大量のデータを整理・分析してその特徴や傾向を明らかにする記述統計と、得られたデータを標本として捉え、その背後にある母集団の特徴や傾向を推定する推測統計という2つの柱を持っている。本講では、これら双方の基本的な考え方を理解することを目的としており、記述統計におけるデータの整理・要約の方法を修得するとともに、推測統計の基礎をなす確率分布とこれに基づく統計的な推定・検定の方法を理解し、これらを簡単な事例に適用できるようにすることを旨とする。
			統計学Ⅱ-A	ビッグデータ時代が到来し、自然科学、社会科学を問わず、様々な分野において統計学の重要性が高まっている。本講義では、統計学Ⅰ-Aの内容をベースとして、推測統計の理論と基本的な統計分析の方法について学ぶ。本講義の特長は、統計ソフトウェアRを用いて、乱数シミュレーションや確率分布の確率計算などを積極的に行うことにより、統計学について、経験的かつ実践的に理解を深めることである。Rとは、統計分析のために世界で最も使われているフリーソフトウェアである。
			統計学Ⅱ-C	近代統計学の一つの柱である推測統計学では確率分布に基づく考え方が不可欠であり、標本分布を手がかりに母集団分布を推測する統計的推定や仮説検定を理解・修得する必要がある。本講では、確率分布に関する基本的な事項を学んだ後、統計学Ⅰ-Cに続くより高度な統計分析手法として、複数の母集団の間で平均や分散が異なるかどうかを調べる分散分析法を理解することを目標とする。さらに、近年注目を集めている統計的機械学習への応用を視野に入れて、多変数の確率分布、統計的推定法などについて学んだ後、機械学習の典型的な事例である回帰や分類の問題への入門的な解説を試みる。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	微分積分Ⅰ	解析学の基礎となっている微分積分学に関し、微分法および積分法の基本事項を1変数関数に関して講義する。この講義では、種々の初等関数の微分や積分の計算を習得することを目的とする。	
			微分積分Ⅱ	微分積分Ⅰに続いて、主として二つの変数をもつ関数についての微分法・積分法の基礎事項を述べ、偏微分法、陰関数、多重積分、級数を中心に議論する。	
			理工学概論	担当教員が進める先端的物理工学研究の内容と成果に触れ、先端研究の社会的背景や位置づけを学ぶ。本講義は現代科学の幾つかの分野について、その分野を専門とする教員がその先端的物理工学関連分野の研究をオムニバス式に講義することによって科学的思考を養うことがねらいである。 低温科学(梅原)、ナノ物質科学(大野か)、レーザー分光学(洪)、量子科学、量子テクノロジー(小坂)、結晶科学(関谷)、光科学・ナノフォトニクス(武田)、磁気科学(山本)、非線形科学(石渡)、ナノ物理学(一柳)、超伝導科学(上原)、表面科学(大野真)、テラヘルツ科学(片山)、宇宙線物理学(片寄)、量子スピン系(蔵本)、量子効果デバイス(島津)、表面科学：古典力学と量子力学(首藤)、金属・半導体の電子論(白崎)、プラズマ理工学(津嶋)、宇宙・素粒子(中村)、物性と分子理論(レービガー)、量子情報・量子光学(堀切)	オムニバス
			文系のための数学入門	身近な話題に関連する数学について文系の学生向けに解説する。例えば、普段の何気ない会話を例に出し、そこに潜む論理学について解説する。具体的には、一見正しいように思えても、よくよく考えてみると実は間違いであるような会話(命題)について、論理学に基づいて解説する。 また、普段良く目にするバーコードには、整数の性質が応用されている。このことを念頭におきつつ、バーコードの数字の意味、白黒のパターンの配列の仕方などを解説する。	
			身近な電気と機械	快適で合理的な家庭生活を営むため、家庭内では多くの機器が使用されている。また情報化の進展も著しく、さまざまな知識を必要とする。本講義では、「機械の基礎」および「電気の基礎」について学び、生活の中で利用する家庭電化製品を「衣」・「食」・「住」の категорияに分類して説明する。また、それらの機器の仕組みと利用方法について理解する。さらに、家庭電化製品・機器類などの保守点検についても学び、安全に取り扱う知識や態度を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	基礎 科目	自然 科学 系	ICTプロジェクト	この演習では、情報メディアやインターネットに関連したデジタルメディアやデバイスアプリケーションの作成実習で必要となる知識や技術の修得を通じて、高度に発展して行くこれからのサイバー社会における情報発信への関わり方を修得することを目的としている。	英語
			ICTリテラシー	この演習では、ウェブページの構築に必要な最低限の知識や技術の修得を通じて、これからのサイバー社会の根幹に関わる仕組みとセキュリティならびに知的財産に関する理解とマナーを修得することを目的としている。	英語
	イノ ベー ション 教育 科目	社会 実装 戦略	知的財産権	技術者、研究者として知っておくべき知的財産権に関する知識の取得を目指す。特許の取得の方法、特許の審査・審判、特許権の行使についての実用的知識を修得する。あわせて特許法の体系を理解する。具体的には、知的財産権の概要、特許制度の歴史、特許になる発明、特許の取り方（出願、明細書）、特許要件（新規性、進歩性、その他）、発明者、職務発明、特許制度（審査、公開制度など）、審査に関する手続き、審判制度、特許権、侵害事件、ライセンス、特許に関する国際的枠組み、その他の知的財産権について学ぶ。	
			知的財産法	特許権・意匠権・商標権・著作権等の知的財産権とはどのような権利なのか、それらの効力、権利化、活用例等を説明する。知的財産権の基礎知識を身につけることにより、将来において、仕事等に知的財産権を活用できることを目標とする。	
		技術 革新 思考	システム・エンジニアリング	システム・エンジニアリングとは、コンピュータやそれに接続される周辺機器を構成して、目的とするシステムを企画、設計したうえで、完成後はそれを安定に運用する技術を意味します。システム・エンジニア(SE)は、クライアントの要求に基づきこれらを行う技術者です。この講義では、神奈川県情報サービス産業協会の協力のもと、講義担当者のコーディネートにより企業の最前線で活躍している専門家、IT関連企業を立ち上げた起業家も交え、システム・エンジニアリングの一連の工程について講義する他、IT業界の話、起業に関わるトピックなどについて、受講学生も交え、討論を行います。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学教育科目 イノベーション教育科目	技術革新思考	数理統計	微積分と線形代数の知識に基づき、確率論と統計学の講義おこなう。確率論についてはまず標本空間と確率を導入し、根元事象、独立性、条件付き確率、ベイズの定理といった初等確率論の基礎を学ぶ。次に確率変数の分布、期待値、分散、積率母関数を学び、具体的な離散型確率変数と連続型確率変数を使って理解を深める。その上でチェビシェフの不等式を学び、独立で同一な分布に従う確率変数数列の標本平均に対する大数の弱法則を理解する。つぎに正規分布を導入し、積率母関数を利用して中心極限定理を理解する。大数の法則と中心極限定理の応用として、未知母数に関する点推定・区間推定・検定の手法を理解する。最後に回帰分析の手法を学び、正規誤差を持つ古典的回帰モデルに対して、正規分布の派生分布であるカイ二乗分布、t分布、F分布を導入した後、応用上きわめて重要な推定と検定の手法を習得する。	
	キャリア	Wake up! プロジェクト	自ら課題を見つけ、探求し、自分が納得する答えを見つける場が大学であり、そうした学びのスタートに当たり、新入生を目覚めさせる。正解のない課題に挑みチームで解を求める活動を通じて、大学で「主体的」に学ぶとはどのようなことか、を自己発見的に修得させるのが目的である。 授業手法は課題解決型PBLで、産業界の協力のもと、2つの企業の現実的なテーマに履修生がチームで取り組み、解決策や企画案を提案する。授業外のプロジェクト活動が中心になり、週2回程度グループで議論したり、役割を分担してリサーチしたりする。授業外学修時間を週6時間程度要する。	
		キャリア・ケーススタディ	40年に及ぶ社会人人生の過程では、世代により、職種・役職により、性別により、さまざまなキャリアの転機が訪れる。それらを疑似体験させ、自律的キャリア形成の下地を作る、言い換えるとキャリア課題に立ち向かう免疫をつけるのが目的である。 転職によりキャリアを拓いた人、結婚生活との両立に悩む人、メンタル疾患からの再起に挑む人など、多様な現役社会人をゲストに招く。直面したキャリア課題とその対処について、担当教員との対談による事例研究の手法で掘り下げる。毎回レポートを課し、考察の定着を図る。	
		キャリアデザイン	終身雇用・年功序列という日本型雇用システムが崩壊しつつある今、自律的なキャリア形成が求められている。キャリアに関わる既知領域を拡げ、卒業後の進路選択場面、さらには就職後の人生設計において、自分らしい思考と行動がとれる素地を作ることを目的に以下の4テーマを取り上げる。 ・自己理解 ・現代社会および就労環境の理解 ・職業理解 ・職業と人生 授業は講義→個人ワークやディスカッションの流れで進める。5名前後のチームに分かれ、職業に関してリサーチし発表するプロジェクト活動も課す。	
		グローバルビジネス・コミュニケーション	企業活動のグローバル化の進展に伴い、異なるビジネス環境への適応、多様な人々との協業による成果の最大化が課題となっている。グローバル社会に生きる自覚を高め、グローバル環境で貢献するための下地をつくるのがこの科目の目的になる。 《海外に行かなくてもグローバル人材になれる》をコンセプトに、異文化理解のためのワークやケーススタディをふんだんに取り入れる。外国人と協業を疑似体験的に学び、効果的に情報発信したり、信頼関係を構築するための基礎力を養成する。自分らしい海外対応の考えかたやスタイルを身に付けることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	イノ ベー ション 教育 科目	キ ャ リ ア	ビジネス・コミュニケーション	産業界から、若手人材のコミュニケーション能力の欠如が指摘されているが、コミュニケーション力とは表現技法ではなく、誰に何を伝えるか、構造理解力の問題である。SNSやEメール、企画書から上司・顧客との交渉など、ビジネス上のコミュニケーションのありかたを学ぶのが本科目の目的である。 表面的な表現テクニックではなく、汎用可能で、コミュニケーションの根幹を成す考えかたの焦点を当てる。さまざまなバックグラウンドをもち、年齢も役割も異なる人々との協業のありかたについて、具体的な事例や実践的なワークにより考える。	
			まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	入学段階で新入生はさまざまな戸惑いを抱く。主体性が求められる大学にどう適応し、将来をいかに構想するか。自分らしい答えを導く糸口を探ることを目的とし、3つのテーマを取り上げる。 ・大学での主体的な学びかた ・学業と進路との係わり ・働くとはどんなことか 横浜国立大学校友会の協力のもと、在学の上級生や卒業生をゲストに迎え、いわば車座になって語り合う。各回の授業では、①グループワーク、または上級生やOB/OGの体験談、②ディスカッション、③授業後に「まなびレポート」をまとめる。	
			まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	本科目は「まなび座Ⅰ」と合同授業で進める。履修生はまなび座Ⅰの新入生に自分の体験を語ったり、ディスカッションを運営する。後輩たちと係るプロセスで、リーダーシップのありかたを体験的に学び、履修生自身が大学で学ぶ目標を再確認し、残りの大学生活を有益なものにするのが目的になる。 まなび座Ⅰとの合同授業において、履修生はグループワークやディスカッションをリードすることが期待されている。合同授業後、1時間程度、授業の反省会を実施し、自分のリーダーシップについて内省したレポートを毎回提出する。	
			ライフキャリアを考える	本授業では、受講者が性別にかかわらず一人ひとりの個性を發揮しながら活躍できるようになるため、自分の将来の方向性を考える際の視点を提示する。ライフキャリア（仕事と仕事以外の個人生活を含む生涯にわたるキャリア）について様々な角度から学び、男女共同参画社会の意味を考えながら自分の将来の見通し（ライフプラン）を意識できるようになることが、講義の目的である。全15回の授業は講義とグループワーク（グループごとの討議）で構成され、このうち9回は学内外の講師が担当するオムニバス形式で進める。	
			生涯設計とグローバルキャリアデザイン	グローバルキャリアにおいては、在職中の職種や収入の適正だけでなく、生活基盤の移動に伴い、日常そして退職後の生活基盤、社会福祉、両親や子供等を含めた3代にわたる家族の日常生活、教育、福祉にも影響及ぼすため、キャリアデザインは慎重に考える必要がある。 この授業では、生涯目標から職業希望、生活設計の幅広い視野から、生涯生活設計とキャリアデザインに関する講義と、就職活動対策や将来設計のデザイン演習を通して、グローバル時代における生涯設計とキャリア設計に関する知識と教養を身につけることを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	グ ロ ー バ ル 教 育 科 目	国 際 交 流	アカデミック・プレゼンテーションスキル	この講義は、学術活動に必要となる、目的と意義・新規性の明確化の方法、トピックセンテンスと論理の構築法、説得力、引用文献の使い方などを中心に、英語による効果的なプレゼンテーションに関する知識と技術を修得することを目的としている。	英語
			アラブの言語と文化	この講義は、これから始まるアラブ・イスラム文化圏とのグローバルな交流やダイナミックな社会で異文化間理解と協働コミュニケーションに必要となる知識や技術を修得することを目的としている。	英語
			英語による異文化間理解	この講義は、英語を第2言語とする話者の協働異文化間コミュニケーションに焦点をあて、話者のそれぞれの言語や文化の背景に注視しながら異文化コミュニケーションを行うために必要な知識の習得を目的としている。	英語
			グローバルキャリア向け英文読解と要約	この講義は、グローバルキャリアを目指す学生に対して、リクルートビジネスや人材派遣、経営人事に必要な読み書きの知識と技術を修得することにより、多くの人材と触れ合うための基礎作りを提供することを目的としている。	英語
			グローバルワーク向け英文読解と要約	この講義は、グローバルキャリアを目指す学生に対して、英語による読み書きを中心とした実用的なビジネスコミュニケーションと会議ノートテークスキル等を修得することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育科目	国際 交流	グローバル 教育科目	多言語・多文化運用演習A	異文化教育の最重要点は、異なる環境や変化に対応する免疫教育にある。この演習では、チーム構成員の出身国や文化・言語の相違点を中心に学習し、チーム構成員の当該国同士の共同ビジネスプロジェクトの創成の演習を通じて、これからのグローバル社会で必要となる円滑なコミュニケーション力と協働能力を修得することを目的としている。	英語
			多言語・多文化運用演習B	異文化教育の最重要点は、異なる環境や変化に対応する免疫教育にある。この演習では、チーム構成員の出身国や文化・言語について、出身の異なるチームメンバーが当該国のメンバーから事前指導を受けて学習し、最終的には、当該国の代表者として、その国や文化・言語を紹介するロールプレイを行う。これからのグローバル社会において円滑なコミュニケーションに必要なファシリテーションに関する知識と技能を修得することを目的としている。	英語
			ビジネス・プレゼンテーションスキル	この講義は、ビジネス・産業等の目的別により要求・注視される内容の変化に基づき、効果的なプレゼンテーションの分類と構築方法に関する知識と技術を修得することを目的としている。	英語
			海外演習A	イギリス、アメリカ、フィリピンあるいは香港等における本学協定大学にて設定されている短期間英語研修プログラムに参加し、あわせて当該地域における地域の文化等を学ぶ英語集中キャンプを実施する。	英語
			各国事情	インドネシア事情	日本と外交的、経済的に関係が深く、国際社会で存在感を高めつつあるASEAN(東南アジア諸国連合)の中核、インドネシアについて初歩的な知識や言語に触れ、両国の国情についてさらなる理解を促すことを目的とする。インドネシア語を主体に、近似したマレーシア語の基礎と日常会話を学んだ後、インドネシアの国情を踏まえた経済、インフラ、農業開発などについて概観。合わせてマレーシアの政治、経済、社会などの基礎にも触れる。日系企業のビジネス面だけでなく、世界情勢を理解する上でも貴重な機会となる。

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	グローバル教育科目 各国事情	日本事情	日本の企業の発展史を概観し、商社、銀行、製造業、建設業、サービス産業などへの動向、企業のグローバル化の動向を踏まえ、現在の日本の経済社会の状況と課題を考察するとともに、今後の人材育成のあり方を議論する。
		パラグアイ事情	近年、途上国から新興国への大きな変化を遂げている南米パラグアイについて包括的に学ぶ。1)パラグアイの公用語であるスペイン語ならびにグアラニー語をサバイバルレベルで話すことができるようになる。2)自然環境や政治経済状況、開発実践などをマイクロからマクロまで概観することから途上国や新興国の発展のプロセスを理解し、他者に説明できるようになる。3)フィールド調査や小規模開発プロジェクトを企画・立案する能力を身に付ける。4)途上国や新興国で活躍するためのグローバル人材として複眼的思考を身に付ける。
		ブラジル事情	本講義は現代ブラジルについての一般的基本的情報と個別分野の具体的情報を、ポルトガル語、経済、社会、開発課題などにわたって提供する。言語については基本の挨拶表現など初歩から学ぶ。開発課題については、都市交通、海岸工学、自然地理、船舶海洋の分野が同国との協力事業への参加経験のある本学の教員によってカバーされる。社会については、在東京ブラジル大手企業に勤める日系ブラジル人から直接実体験をうかがう。受講生は、基本と専門の両面からブラジルの今の事情に触れて、初訪伯時に驚かない心構えを養うことができる。
		ベトナム事情	新興国の中でも将来性の高い「ベトナム社会主義共和国」の事情について、言語、歴史、文化、経済、ビジネス、開発政策などの観点からその概観を理解し、ベトナムの民間企業、政府機関、NPO法人、あるいはグローバル展開する企業や組織の現地法人での実務遂行に必要とされる知見を獲得することを目的とする。特に言語については、日常生活に必要な会話やPCによるベトナム語の入力など、毎回の授業で練習することで、入門レベルの実用に耐える語学スキルを身につけることを目的とする。
健康スポーツ科目	健康スポーツ演習B	現代社会において、健康寿命の延長は重要な課題とされている。健康寿命の延長のために、スポーツについて理解し、どのようにライフスタイルを構築していくかを考えることが必要なことである。本授業では、多様な種目の演習を通して、その楽しみ方を学ぶとともに、スポーツについての考え方を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	外国 語 科 目	英 語	英語プレゼンテーション	大学生としてふさわしいレベルの英語を用いて、考えていることをクラス内で発表する能力の養成を目指す。英語による発表に際し、自らの考えを聞き手に分かりやすく準備し、口頭発表として適切な非言語および言語上のコミュニケーションを行い、即時的に聞き手と対話し応答するスキルを学習する。個人的な生活やものの見方から社会全般に関する話題まで、各自のレベルと興味に応じてトピックを選択し、聞き手が理解し納得できるように全体の流れを組み立てる。
			英語ライティング	大学生としてふさわしいレベルの英語を用いて作文を行う技術と発信能力の養成を目指す。英語による作文に際し、基礎的な活動としては、関連する英文法を理解した上で作文中において主体的に使用し、エッセイに求められるパラグラフの基本構造を理解し、読み手を意識して日常生活の記述や個人の主張を行う。さらに、発展的な活動としては、英文レポートへとつながるように、情報について解説や説明を行ったり、具体的な根拠に基づく説得を行ったりする。
			英語LR	大学生としてふさわしいレベルの英語について、聞き取りと読解の能力の養成を目指す。日常生活、個人的な意見、導入的な大学での講義、等に関する会話やスピーチについて音声を聞き取り、文法や語法、語彙や表現を理解し、やや発展的な学術内容を持つ文章について読んで理解する。学期末の統一試験（TOEFL ITP Level 1）において430点以上の得点を達成できるよう、テスト受験時に求められるスキルについても理解する。
			自立英語	大学生としてふさわしいレベルの英語について、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく自立的に学習する能力の養成を目指す。主体的に立案した学習計画に基づき、自身の興味に応じ大量の読解と聴解の情報を選択し、誤りを恐れず大量の発信を行い、自己の学習についてレポートを定期的に作成し、e-learningも活用し学習を振り返る。教室においては、自己の学習活動について、英語で作文としてまとめ、討論やプレゼンテーションを行う。多くの留学生をTAとして雇用し、異文化理解や共通語の英語体験を経験してもらう。
			英語演習1a	TOEFL ITP Level 1, 520点以上の長期、短期の海外留学、研修も相応な学習努力により実現可能な学生を対象とし、特定の英語スキルに焦点を当てた選択科目の中から、より内容中心の教材を用いて、各自の興味とニーズに応じて科目を選択して受講する。焦点の当てられた英語スキル以外にも、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。各自の興味に応じて、アカデミック系とビジネス系の科目群の中から、クラスを選択して発展的な英語学習を行う。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	英語	英語演習 1 b	TOEFL ITP Level 1, 500点以上, 520点未満の長期, 短期の海外留学, 研修を実現するレベルには到達していないものの, 動機づけを維持しつつ学習を継続することで, 可能となりうる学生を対象とし, 特定の英語スキルに焦点を当てた選択科目の中から, より内容中心の教材を用いて, 各自の興味とニーズに応じて科目を選択して受講する。焦点の当てられた英語スキル以外にも, リスニング, スピーキング, リーディング, ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。各自の興味に応じて, アカデミック系とビジネス系の科目群の中から, クラスを選択して発展的な英語学習を行う。	
		英語演習 1 c	TOEFL ITP Level 1, 450点以上, 500点未満の1年次の英語学習を標準的に終了した学生を対象とし, 特定の英語スキルに焦点を当てた選択科目の中から, より内容中心の教材を用いて, 各自の興味とニーズに応じて科目を選択して受講する。焦点の当てられた英語スキル以外にも, リスニング, スピーキング, リーディング, ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。各自の興味に応じて, アカデミック系とビジネス系の科目群の中から, クラスを選択して発展的な英語学習を行う。		
		英語演習 2 a	TOEFL ITP Level 1, 520点以上, 549点未満の学生を対象とし, 特定の英語スキルに焦点を当てた選択科目の中から, より内容中心の教材を用いて, 各自の興味とニーズに応じて科目を選択して受講する。焦点の当てられた英語スキル以外にも, リスニング, スピーキング, リーディング, ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。各自の興味に応じて, アカデミック系とビジネス系の科目群の中から, クラスを選択して発展的な英語学習を行う。		
		英語演習 2 b	TOEFL ITP Level 1, 550点以上の学生を対象とし, 特定の英語スキルに焦点を当てた選択科目の中から, より内容中心の教材を用いて, 各自の興味とニーズに応じて科目を選択して受講する。焦点の当てられた英語スキル以外にも, リスニング, スピーキング, リーディング, ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。各自の興味に応じて, アカデミック系とビジネス系の科目群の中から, クラスを選択して発展的な英語学習を行う。		
	初修 外国 語	ドイツ語実習 1 a	初級者対象の現代ドイツ語コース。目標は、①言語としてのドイツ語の体系性・文法構造を理解すること、②ドイツ語およびドイツ語圏の文化・歴史・現在に関する情報を得ること、の2点。グローバル化に対応した③実用的に運用できる語学力のために「実習1b」の授業を併せて受講することが望ましい。		

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	ドイツ語実習2 a	現代ドイツ語入門の「発展編」。①ドイツ語圏事情 ②文法理解 ③実用的運用力、という3つの目標を深め、ドイツ語検定3級から2級レベルの力を養成する。「実習2a」は文法規則が実際の文章ではどのように表れるか。規則の定常性と実際の表現の躍動性を味わえるようにしたい。	
			ドイツ語実習1 b	初級者対象の現代ドイツ語コース。目標は、①実用的な場面に即した表現の反復練習を通じて語学習得の訓練を積むこと、②ドイツ語およびドイツ語圏の文化・歴史・現在に関する情報を得ること、の2点。バラバラになりがちな場面表現を統一的に理解できるよう、③体系性・文法構造を習得する「実習1a」の授業を併せて受講することが望ましい。	
			ドイツ語実習2 b	現代ドイツ語入門の「発展編」。①ドイツ語圏事情 ②文法理解 ③実用的運用力、という3つの目標を深め、ドイツ語検定3級から2級レベルの力を養成する。「実習2b」は定型的表現を機械的に再生するレベルを超え、ネイティブスピーカー教員等とのやり取りを通じて、臨場感にあふれたパフォーマンス力を身につけることをめざす。	
			ドイツ語演習	ネット時代の多言語環境を活用して、①自らの関心に基づいて多様な文章を発見発掘し、メール等の文章を自ら作成し仲間に発信するなど、初級ドイツ語運用力を実際に用いる中で、語彙・文法理解を定着させるとともに、ドイツ語圏文化・歴史についての理解を養う。	
			ドイツ語発展演習	ドイツ語演習で培った運用力を基礎としながら、交換留学や海外語学研修を視野に入れ、ネイティブスピーカー教員等とともにドイツ語でのプレゼン、スピーチ実習などの実際の訓練を積み重ね、受容・発信のバランスの取れた高度な言語力を養成する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	フランス語実習 1 a	フランス語はフランスだけではなく、その他のヨーロッパやアフリカ・中東、カナダでも使われているし、南欧や中南米などのラテン文化圏、ベトナムやカンボジアなどの旧植民地でも学習されている。フランス語を学ぶことは単にフランスやヨーロッパだけではなく、英語圏から見たのはまた違う世界を知ることである。「実習」は基本的な文法事項を学ぶが、その前にまずはフランス語とはどのような言語か知ってもらいたい。	
			フランス語実習 1 b	本講義において、履修者はフランス語とその会話の初歩を学ぶ。	
			フランス語実習 2 a	フランス語はフランスだけではなく、その他のヨーロッパやアフリカ・中東、カナダでも使われているし、南欧や中南米などのラテン文化圏、ベトナムやカンボジアなどの旧植民地でも学習されている。フランス語を学ぶことは単にフランスやヨーロッパだけではなく、英語圏から見たのはまた違う世界を知ることである。「実習」は基本的な文法事項を学ぶが、その前にまずはフランス語とはどのような言語か知ってもらいたい。	
			フランス語実習 2 b	本講義において、履修者はフランス語とその会話の初歩を学ぶ。	
			フランス語演習	実習1・2で身につけた初級文法を基に、フランス語を実際に運用してみる。具体的には、「読む」「話す」を中心にフランス語能力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目  外国 語 科 目  初修 外国 語	フランス語発展演習	本講義において履修者はさらにフランス語による表現を継続して学習する。日常的な短い表現が可能となるレベルを目標とする。	
	中国語実習1 a	中国語検定準4級レベル・HSK1級レベルの文法を主体とした中国語の基礎を身につけることを目的とする。授業では、文法だけでなく発音や会話も扱うが、その中でも主として文法に比重をおく。中国語実習1bとセットで勉強すると中国語学習上効果的である。中国語実習1a, 1b, 2a, 2bをセットで単位を取得して中国語演習に進むことができる。	
	中国語実習2 a	中国語実習1 aの基礎の上に、中国語検定4級レベル・HSK2級レベルの中国語の文法的能力を身につけることを目的とする。授業では、発音や会話も扱うが、その中でも主として文法に比重をおく。中国語実習1aで学んだ文法事項に加え、さらに多くの文法事項を学び、基礎的な中国語による文レベルの作文能力・読解能力を修得することを目指す。中国語実習2bとセットで勉強すると中国語学習上効果的である。中国語実習1a, 1b, 2a, 2bをセットで単位を取得して中国語演習に進むことができる。	
	中国語実習1 b	中国語検定準4級レベル・HSK1級レベルの会話・発音を主体とした中国語の基礎を身につけることを目的とする。授業では、会話や発音だけでなく文法も扱うが、その中でも主として会話・発音に比重をおく。中国語実習1bとセットで勉強すると中国語学習上効果的である。中国語実習1a, 1b, 2a, 2bをセットで単位を取得して中国語演習に進むことができる。	
	中国語実習2 b	中国語実習1bの基礎の上に、中国語検定4級レベル・HSK2級レベルの中国語による会話の能力を身につけることを目的とする。授業では、会話だけでなく文法も扱うが、その中でも主として会話に比重をおく。中国語実習1bで学んだ表現に加え、さらに、場面や状況に合わせた多くの表現を学び、基礎的な中国語によるコミュニケーション能力を修得することを目指す。中国語実習2aとセットで勉強すると中国語学習上効果的である。中国語実習1a, 1b, 2a, 2bをセットで単位を取得して中国語演習に進むことができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	中国語実習1a, 1b, 2a, 2bの単位を取得、あるいは中国語検定4級・HSK2級を取得済みか取得に準ずるレベルの学生を対象とし、特定の中国語スキルに焦点を当てた演習の中から、より内容中心の教材を用いて、各自の興味とニーズに応じて選択し受講する。焦点の当てられた中国語スキル以外にも、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。中国語検定3級・HSK3級取得レベルへの到達を目指す。	
			中国語発展演習	中国語演習の単位を取得、あるいは中国語検定3級・HSK3級を取得済みか取得に準ずるレベルの学生を対象とし、特定の中国語スキルに焦点を当てた演習の中から、より内容中心の教材を用いて、各自の興味とニーズに応じて選択し受講する。焦点の当てられた中国語スキル以外にも、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を総合的に駆使した学習が求められる。中国語検定2級・HSK4級取得レベル及び中国語圏への留学に支障がないレベルへの到達を目指す。
			ロシア語実習1 a	ロシア語は国連公用語の1つであり、現在のロシアだけでなく、旧ソ連圏に属す多くの国々で使われている言語です。また、ヨーロッパ東部の諸国では、ロシア語と同じスラヴ語系の言語が多く使われています。これらの言語は語彙や文法などでの共通性も高いことから、中央ヨーロッパから北東アジアにかけての広い地域で使われている言語について知る上でも重要な手がかりとなります。このような特徴を持つロシア語を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。多様化する国際社会についての理解を深めるためにも、新しい言語に触れて世界を見る視野を広げて下さい。
			ロシア語実習1 b	ロシア語は国連公用語の1つであり、現在のロシアだけでなく、旧ソ連圏に属す多くの国々で使われている言語です。また、ヨーロッパ東部の諸国では、ロシア語と同じスラヴ語系の言語が多く使われています。これらの言語は語彙や文法などでの共通性も高いことから、中央ヨーロッパから北東アジアにかけての広い地域で使われている言語について知る上でも重要な手がかりとなります。このような特徴を持つロシア語を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。多様化する国際社会についての理解を深めるためにも、新しい言語に触れて世界を見る視野を広げて下さい。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	ロシア語実習 2 a	ロシア語は国連公用語の2つであり、現在のロシアだけでなく、旧ソ連圏に属す多くの国々で使われている言語です。また、ヨーロッパ東部の諸国では、ロシア語と同じスラヴ語系の言語が多く使われています。これらの言語は語彙や文法などでの共通性も高いことから、中央ヨーロッパから北東アジアにかけての広い地域で使われている言語について知る上でも重要な手がかりとなります。このような特徴を持つロシア語を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。多様化する国際社会についての理解を深めるためにも、新しい言語に触れて世界を見る視野を広げて下さい。
			ロシア語実習 2 b	ロシア語は国連公用語の2つであり、現在のロシアだけでなく、旧ソ連圏に属す多くの国々で使われている言語です。また、ヨーロッパ東部の諸国では、ロシア語と同じスラヴ語系の言語が多く使われています。これらの言語は語彙や文法などでの共通性も高いことから、中央ヨーロッパから北東アジアにかけての広い地域で使われている言語について知る上でも重要な手がかりとなります。このような特徴を持つロシア語を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。多様化する国際社会についての理解を深めるためにも、新しい言語に触れて世界を見る視野を広げて下さい。
			ロシア語演習	ロシア語の文章読解ならびに会話・作文の基礎的能力を養います。ネイティブ・スピーカーによる授業ですので、発音や聴解力、作文力の向上を主な目的とします。
			ロシア語発展演習	ロシア語の文章読解ならびに会話・作文の基礎的能力を養います。ネイティブ・スピーカーによる授業ですので、発音や聴解力、作文力の向上を主な目的とします。「ロシア語演習」に引き続いて授業を進めます。
			朝鮮語実習 1	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音、挨拶、基本的な文法事項、基本的な表現と語彙を身につける。また、言葉を学ぶことによって韓国の文化や社会などにも関心を高めてほしい。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	朝鮮語実習 2	朝鮮語 1 に続き、韓国語のいろいろな表現、語彙を身につけます。数詞、敬語表現、過去形、不規則変化の用言などを含みます。	
			朝鮮語演習	韓国語の会話文・文章を丹念に読むことを通じて、重要表現や語彙に関する知識を深める。それと同時に、できるだけ多くの韓国語の会話文・文章に触れることによって、韓国語という言語に慣れる。	
			朝鮮語発展演習	朝鮮語実習1.3を修了していることを前提として、現代韓国語のさまざまな文献を読むことができる読解能力、言葉の背景を理解して適切な訳語を選択できる文化的社会的知識、という二つの能力を身につけることを目的にします。必要な文法的事項はその都度説明します。	
			イスパニア語実習 1	イスパニア語（スペイン語）の基礎文法をひと通り習得する。本講義を完璧にマスターすれば、将来本格的に（もちろん本講義も初級レベルの講義としては相当に本格的なものである）イスパニア語を勉強する必要が生じた場合にも強固な基礎とすることができる。	
			イスパニア語実習 2	イスパニア語（スペイン語）の基礎文法をひと通り習得する。本講義を完璧にマスターすれば、将来本格的に（もちろん本講義も初級レベルの講義としては相当に本格的なものである）イスパニア語を勉強する必要が生じた場合にも強固な基礎とすることができる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	初修 外国 語	イスパニア語演習	まとまった量のテキストを詳細に読みこなすことで確かな読解力を養成し、同時に重要表現や文法事項の一步進んだ解説と練習をおこなって「イスパニア語実習1・2」で学んだ文法知識全般の整理・定着と応用を図る。	
			イスパニア語発展演習	「イスパニア語演習」に引き続き、より高度なイスパニア語の運用能力の獲得を目指す。	
			ギリシャ語	古代ギリシャ人の著わした膨大な量の文献は（エジプトプトレマイオス王朝下のアレクサンドリア大図書館には数十万巻の蔵書があったと伝えられる）、長い時が経過する間に不幸にもその大部分が失われたが、それでもなお数多くのすぐれた作品が現在に伝わっている。文学、歴史、哲学、美術、法律、科学など広汎なジャンルにわたるそれら一流の古典作品群に直接アクセスするためには、当然のことながら複雑難解な古典ギリシャ語をマスターする必要がある。その古典ギリシャ語の文法を基礎から学び修得するのが本講座の目的である。	
			ラテン語	ラテン語は古代ローマの言語であり、後のロマンス諸語（イタリア語、フランス語、スペイン語など）の基となった言語である。ローマ帝国滅亡後もキリスト教会やヨーロッパ知識人の公用語として長きにわたって使用され続けた。したがってラテン語の文献はローマ時代にとどまらず、ヨーロッパ中世、ルネッサンス期、更にはヨーロッパ近世にまで及んでいる（哲学者デカルトや植物学者リンネなどの著作にもラテン語のものが多く含まれている）。我々がラテン語の文法を学ぶのは、それによってはじめてヨーロッパ文明の根幹をなす古典作品群に直接アクセスすることが可能となるからである。ヨーロッパの歴史や文化に関心をお持ちの方、ヨーロッパの言語を他にも学んでおられる方には是非この授業を受講していただきたい。決して楽な道程ではないが、これをマスターすれば諸君らに新たな知的展望が開けることは明らかである。	
			海外演習B	各初修外国語発展演習の単位を取得、もしくは取得に準ずるレベルの学生を対象とし、各初修外国語圏で短期語学研修に参加させる。語学力の向上と、その国の文化や社会について理解を深め国際的な視野を広げる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	日 本 語	日本語初級 I	この授業は、日本語の入門クラスであり、初級前半の文法や表現を学び、日常生活やキャンパスで必要な基本的なコミュニケーション力を養う。	
			日本語初級 II	この授業では、日本語の初級後半の文法や表現を学び、日常生活やキャンパスで必要なコミュニケーション力、言語行動に関する知識を養う。	
			日本語初中級	初級 II につづく語彙や文法の知識を用い、まとまりのある文章を読んで、理解できることをめざす。また、スピーチに配慮したコミュニケーションがスムーズにすすめられることをめざす。	
			日本語初級漢字・語彙 I	この授業では、漢字160字とそれを使った語彙を学び、日常生活やキャンパスで必要な基本的な漢字語彙を身に付ける。	
			日本語初級漢字・語彙 II	この授業では、すでに習った漢字160字とあらたに160字、合計320字とそれを使った語彙を学び、日常生活やキャンパスで必要な基本的な漢字語彙を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	日 本 語	日本語初級漢字・語彙Ⅲ	この授業では、すでに習った320字に加えあらたに230字の漢字、合計550字の漢字とそれを使った語彙を学び、日本語の表現力を高める。	
			日本語中級A	この授業では、理解できる漢字や語彙の数を増やし、中級レベルに合った読み・書きの力をつける。予習、復習を通して繰り返し漢字に触れることで語彙や使い方を習得していく。	
			日本語中級B	この授業では、ランキング、スクリプト、ゲームなどの様々なテーマを使って話し合うことで聴く力を高めるとともに、映像に関連した資料を読むことで読む力を高めることを目的としている。	
			日本語中級C	この授業では、書き言葉と話ことば、論理的な文章の構成や展開、資料収集・調査の方法、情報の引用のしかた、内容・表現・形式の検討など、大学での学修に必要な日本語によるレポート・論文を書く力や、プレゼンテーションをする力をつける。	
			日本語中級D	この授業では、短時間で正確に文章の内容を読み取るためのコツを身につけ、読んだ内容をもとに口頭で発信できるようになることを目的とする。文章をつかむために「対比」「言い換え」「比喩」「疑問提示文」について学んだり、理解した内容を紹介し意見を効果的に述べるスピーチのスキルを身につける。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	日 本 語	日本語中級E	この授業では、様々なテーマの話の聞いたり書いたりすることで、自分自身のテーマを見つけ、自分の考えをまとめ、議論し、書くことができるようになることをめざす。前半はテーマごとにライティングのスキルアップ練習を行う。その後、自分でテーマを決めてインタビューを行う。後半はデジタル・ストーリー・テリングを各自で制作し、作品を上映して学生間で相互評価を行う。	
			日本語中級F	この授業では、芥川龍之介、夏目漱石、三島由紀夫といった作家の小説を通じて日本文学を味わうとともに、選んだ小説について、感じとった魅力をプレゼンテーションにまとめ発表する。また、詩、短歌、俳句についても学び、実際に短歌を創作する。	
			日本語中級G	この授業は、自国や自分自身のことについて、他国との比較を通して捉え直し、自分の考えを日本語で発信できるようになることを目的とする。トピックとしては、食文化、仕事、ジェンダーを取り扱う。学生は、授業外にも各トピックの文法練習、読解語彙、読解精読や、担当グループでの質問項目の作成、インタビューの実施、結果の分析と考察、レジユメの作成等が求められる。	
			日本語上級A	この授業は、レポート作成や口頭発表のための原稿作成等、大学生活において必要なアカデミックスキルの基礎的な能力の習得を目的とする。構成や主題の決め方、修正方法や執筆の際の注意点および調査の方法などについて学ぶ。	
			日本語上級B	この授業では、村上春樹や川上弘美などの、現代日本の作家による短編小説や、それについての評論を読み、感想を議論する。授業の前に作品を読み、クラスで話したことを授業後に作文としてまとめる。以上を通じて、日本語の読解力、会話力、文章作成能力の向上を図る。優れた言語感覚を持った書き手の小説を読み、感想を語り合うことで日本語能力をさらに高めることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目  外国 語 科 目  日 本 語	日本語上級C	この授業では、フィールドワークを通じて日常の中から研究テーマをみつけ、文献講読やインタビューを通し議論を重ねることで様々な日本語に触れ、上級者としての幅広い日本語能力を身につけることをねらいとする。学生は授業時間以外にフィールドワークをし、写真を撮り、自分の考えをまとめて発表する準備が求められる。また、テーマを決め、それについて文献を講読したりアンケートをとり、理解を深めた上で発表を準備する必要がある。	
	日本語上級D	この授業では、日本国内・海外において「外国」に住む人々の状況や、教育、防災、労働、難民等、彼らが直面する問題についての知識を深める。また、日本国内の地域で日本語を学ぶ人々の実態を調査し、日本語学習者の多様な状況を知る。学生は、各トピックに関する文献や資料を事前に読み、予習シートへ記入をする。	
	日本語上級E	この授業では、多文化共生、社会起業家、日本文化等に関する生の視聴覚教材で取り上げるトピックの周辺の知識や社会背景を学ぶ中で日本語の抽象語彙、慣用語句について理解を深める。取り上げられた課題について考えや意見をのべ、ディスカッションする日本語力を身につけることを目的とする。学生は、授業前にテーマ映像の内容把握の質問に応え、概略をつかんだり、あるいは、授業後にもう一度見て、自分の国の場合と比べたり、発展的問題を考え、レポートすることが求められる。	
	日本語上級F	本講義では言語の本質、ことばの多様性、言語の変遷、ジェンダなど、ことばにかかわるさまざまなテーマを取り上げる。そこから新たな課題を見つけ、議論することにより日本語に対する知識を深めていく。	
	日本語上級G	この授業は、抽象度の高い話題の文章や、論理がやや複雑な資料を読むために、内容予測等のストラテジーに関する知識と技能を修得すること、自分の専門について専門外の人にわかりやすく説明するためのノウハウを身につけることの2点を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学 教育 科目	外国 語 科 目	日 本 語	日本語上級H	この授業では、身近な商品やサービスを提供する企業や、関心がある業界について情報を収集し、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてそれらを交換、共有、分析する。これらの活動を通じて、経済分野のニュースを理解するための「基礎力」を身につけることを目的とする。	
			日本語上級I	この授業では、自分たちが学び生活する「横浜」を含む「神奈川」という地域について知識・理解を深め、地域社会とのつながりの中で学ぶ力を養うことを目的とする。授業で紹介される文献や映像資料を参考に、自分の興味に応じて担当するテーマを決め、情報を集め、記事を書き、クラス全体で小冊子『留学生の“かながわ”発見!』（仮題）を作成する。小冊子の完成後、地域の方々をゲストに招いて発表会を開催し、コメントをもらって対話を発展させる。	
			日本語上級J	この授業では、「自分史」を書くことを通して、自分の「考えていること」を表現し、相手の「考えていること」を理解し、それによって、自分の考えを深めていくコミュニケーション能力を育成していく。お互いの「自分史」を読み合い、お互いにコメントしあうことで、自分自身の考えを広めたり、深めたりすることを目指す。	
			日本語上級K	この授業は、メディア・リテラシー（メディアから発信される情報を分析的に理解する能力）の観点から、メディアが提供する情報やデータ、メディアの制約について、テレビコマーシャルをはじめとする様々なメディア表現にふれながら学び、自分自身のメディアとの接し方について考えることができるようになることを目的とする。	
			日本語演習A	この演習では、話し言葉と書き言葉の違い、目標規定文の書き方、事実と意見の使い分け、構成のしかた、引用および要約のしかた、論文・レポートにふさわしい表現など、大学で必要となるレポートの書き方について学ぶ。学生は、ワークシートや論文作成のための資料読み、資料収集、アウトライン作成、など、論文作成のための準備のかなりの部分を授業外で行うことが求められる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	外国語科目 日本語	日本語演習B	この演習では、2011年3月11日に起きた東日本大震災の発生時とそれ以後、どんなことが起きたのか、主に人に焦点をあてて見ていく。関連する記事、書籍の購読、ビデオの視聴を行い、ディスカッションや発表を行うことで、超級レベルの日本語を目指す。東日本大震災でどんなことが起きたかや、被災地・被災者について知ること、震災から学ぶこと、復興や原発問題について考えることなどを通して、東北の被災地や世界各地の災害被災地の現状や将来、自分たちが今後すべきことについて考えていく。
		日本語演習C	この演習では、対人コミュニケーションに必要な待遇表現に関する知識を学ぶ。また、グループで実態調査を行い、日本語と母語の語用論的相違についての知識を深める。日本語と受講生の母語の待遇規則や公の場面での言語行動の相違点について調査し発表することで、異言語・異文化間の言語行動の相違を客観的にとらえられるようになることをめざす。
学部教育科目	基礎演習科目	人文社会科学基礎演習	「人文社会科学基礎演習」では、高校までの学びと大学における学習・研究活動の橋渡しを行うために、まず、YNUリテラシーとして掲げる以下の三つのリテラシーの基礎を学ぶ。①研究活動に関する基本的スキルと研究倫理に関わる「アカデミック・リテラシー」、②自律的なキャリア形成と市民としての倫理に関わる「シビック・リテラシー」、③情報社会におけるリテラシーと倫理に関わる「情報リテラシー」。加えて、本学科が立脚する人文社会科学の入門的素養についても、関連する部分で取り上げる。
		クリエイティブシティー基礎演習	この演習は、これからのグローバル社会において経済活動の根幹となすクリエイティブシティーに関する学習を通じて、これから一番注視される①オリジナリティ、②商品化の切り口と差別化、③商品化への確かな技術と信頼、④商品情報の魅力と発信力に関するコンセプトの設計と発展のさせ方について学ぶことを目的としている。

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目 学部共通科目 都市科学の基礎	都市科学A（グローバル・ローカル）	<p>横浜国立大学の都市科学の根幹である「グローバルとローカルの接点としての都市」の実態を理解する。人類の活動の場としてのウェイトがますます高まる都市は、都市域での活動が多様で高密度になるとともに、都市活動を成り立たせる基盤やその活動の影響、関わりが、都市域やその周辺地域のみならず、広域、地球規模にまで広がっている。本講義ではこの都市の実態を、都市域のローカルな視点、および広域、地球規模のグローバルな視点でとらえる。具体的には都市の経済・社会活動とグローバル化、都市の活動に起因する地球環境問題や都市災害の広域への影響、これらの自然・都市・社会の要因も複雑に関連していると考えられる格差や貧困、紛争の深刻化などの実態について、ローカル・グローバルの関係性も含めて、多面的、総合的に理解する。</p> <p>1 イントロダクション（都市科学の体系、グローバル新時代の到来）〔⑤ 齊籐〕、2 グローバル新時代の都市の役割と課題〔⑤ 齊籐〕、3 グローバル新時代の都市の役割と課題2〔⑤ 齊籐〕、4 グローバルとローカルの接点としての都市① 人の視点〔⑤ 齊籐〕、5 グローバルとローカルの接点としての都市② 建築の視点〔【マル52】 佐土原〕、6 グローバルとローカルの設定としての都市③ 基盤システムの視点〔【マル102】 中村〕、7 地球環境史と都市〔160 間嶋〕、8 生物圏環境と都市〔160 間嶋〕、9 地球温暖化、気候変動と都市環境〔160 間嶋〕、10 ローカルとグローバルでとらえる都市の経済活動〔⑤ 齊籐〕、11 ローカルとグローバルでとらえる都市文化〔⑤ 齊籐〕、12 ローカルとグローバルでとらえる都市社会、格差・貧困、紛争問題〔⑤ 齊籐〕、13 事例1）横浜・神奈川地域のグローバル・ローカル〔【マル52】 佐土原〕、14 事例2）アジアの都市のグローバル・ローカル〔【マル102】 中村〕、15 事例3）中南米の都市のグローバル・ローカル〔⑤ 齊籐〕、16 まとめ〔⑤ 齊籐、【マル52】 佐土原、【マル102】 中村、160 間嶋〕</p>	オムニバス
	都市科学B（リスク共生）	<p>横浜国立大学の都市科学の根幹である「リスク共生」の入門を学ぶ。人類の活動の場としてのウェイトがますます高まる都市では、豊かさを求める営みと表裏一体で、さまざまなリスクが生じている。このリスクをしっかりと受け止め、リスクの本質を理解し、リスクの特定、分析、評価に基づき科学的に扱い、リスクを選択するマネジメントが重要である。これらの基本的考え方、扱う対象について学ぶことで、豊かさとリスクのバランスを適切にマネジメントし、新しい価値の創造につなげるイノベーションを創出する、これからの都市づくりを考える基盤となる「リスク共生」の知識体系の概要を理解する。</p> <p>1 リスク共生とは〔【マル152】 野口〕、2 リスクコミュニケーション〔【マル152】 野口〕、3 リスクマネジメント〔【マル152】 野口〕、4 自然環境リスクとの共生〔【マル52】 佐土原〕、5 社会環境リスクとの共生〔【マル152】 野口〕、6 都市システムリスクとの共生〔【マル52】 佐土原〕、7 環境リスク共生の都市像〔【マル52】 佐土原〕、8 まとめ〔【マル152】 野口、【マル52】 佐土原〕</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	学部共通科目	グローバル・ローカル関連科目	都市科学の基礎	<p>横浜国立大学の都市科学の根幹である「イノベーションの創出」を、分野横断的に概括する。現代の都市において求められているイノベーションは、単なる科学技術そのもののイノベーションを超えて社会への実装を前提としている。その意味で科学技術のイノベーションは社会制度やシステムのイノベーションと不可分のものであり、またこのようなイノベーションは新しい価値観や文化の可能性の探究というイノベーションの契機にもなりうる。本科目ではこのような多面的な観点から「イノベーションの創出」を総合的に理解する。</p> <p>1 イノベーションとは [③ 樽沼]、2 科学技術のイノベーション (第1層) [【マル104】 山田]、3 制度・社会システムのイノベーション (第2層) [⑦ 彦江]、4 価値観・パラダイムのイノベーション (第3層) [③ 樽沼]、5 リスク共生とイノベーション [【マル52】 佐土原]、6 都市とイノベーション [【マル52】 佐土原]、7 イノベーションに関する最新の社会動向 [⑦ 彦江]、8 まとめ・試験 [⑦ 彦江]、③ 樽沼、【マル52】 佐土原、【マル104】 山田]</p>	オムニバス
			地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	<p>21世紀初頭の我が国の大きな課題となっている地域活性化や都市再生を、地域のさまざまな主体が連携・協働することを通して実現するにはどうしたらよいかについて、まちづくりの最前線で活躍する専門家から学ぶとともに、自ら授業に参画し、学問分野を超えた基礎的素養を身につける。</p> <p>授業では主に横浜市を対象地としてとりあげ、ヨコハマの地理・歴史をはじめ、都心・中間・郊外エリアの特徴、そしてクリエイティブシティ、農地再生、商店街等の各事例や取組みについて学べる地域学である。</p>	
			地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	<p>大都市・地方都市を含む都市再生のあり方について、「地域経済のなかの都市」、「行財政システムに枠づけられた都市」という視点から考える。その際、都市・街を取り巻く環境との関係を重視し、広域的視点から検討していく。事例研究を中心に、自治体・企業・NPO・専門家などを講師として招くとともに、市民の聴講も呼びかけ、講義自体を通じて地域交流を推進する。</p> <p>授業では主に神奈川県を対象地としてとりあげ、地方自治や地方権の基礎的知識の修得から、かながわの高齢者政策、地域環境政策、およびNPOによる活動を紹介する。</p>	
			都市社会基礎論	<p>都市社会学とは都市生活の実態をふまえて、社会の構造や機能、またそれらの変遷を多角的に分析、解明しようとする社会学の一領域である。講義は大きく3つの部分、産業化/都市化による社会変動の古典理論、政治経済学的視点から現代都市社会の変動について扱うグローバル都市論、そして文化のあらわれる場所としての都市を社会学的に考察する文化の社会学、から構成される。社会階級やアイデンティティなど社会学の基本テーマを扱うが、同時に地理学や政治学などの知見も取り入れ、総合的な都市研究入門を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	学部共通科目	グローバル・ローカル関連科目	社会調査法A	本講義では、社会調査の方法について学ぶ。主に、調査計画の設計からデータ収集、分析、評価の手法について学び、客観的な研究・調査を行うためのスキル習得を目的とする。Aでは、社会調査の手法にかかわる基礎的な知識の習得に焦点を当てる。	
			社会調査法B	本講義では、社会調査の方法について学ぶ。主に、調査計画の設計からデータ収集、分析、評価の手法について学び、客観的な研究・調査を行うためのスキル習得を目的とする。Bでは、実際の事例・データを活用しながら、実践的な学習を中心とする。	
			GISによる地域解析概論	GIS（地理情報システム）とは「地上の存在する事物、地上で発生する現象を地図化し解析するためのツール」である。つまり、現実世界の現象や事物のもつ様々な情報をコンピュータ上で空間的に管理することにより、合理的・客観的に現象を理解し、人の意思決定を支援するツールである。本講義では、GISの基本的概念を理解するとともに、都市・地域の計画・デザインに実践的に活用するために必要な、GISを用いた地域特性把握のための空間分析の手法を理解し、その実践例について学び、基本的な操作技術を習得する。	
			メタデータ分析とリスク予測	この講義は、これからのグローバル社会が生み出す様々な種類のメタデータとその分析評価をするために必要となる、基本的な知識と技術と洞察力を修得することを目的としている。	英語
			組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント	社会や生活のグローバル化やダイナミック化が進むにつれて、ビジネスリーダーやコミュニケーション・ファシリテーターの役割が益々重要となっていく。この講義では、これからのグローバルビジネスにおいて必要となるチームのバイタリティーと組織風土作りの効果的なファシリテーションに関する学習を通じて、個性とメンタリティーの関係に注視しながら生産的な協働ビジネスワークの形態について学習することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目 学部共通科目 グローバル・ローカル関連科目	都市リスクの空間分析とマネジメントA	持続可能な都市環境づくりには、災害など様々なリスクの空間的な把握と、それに基づく評価・対策が重要である。自然由来のハザードが存在する場所に人の暮らしがあり、それらがハザードに耐えられないときに災害になることから、自然環境と人間社会との空間的位置関係を把握することが基本となる。本講義では、「防災」をテーマに空間的視点から都市環境を捉え、自然災害の特徴と対策の概要を理解する。あわせて、被害想定における地理空間情報の活用や空間分析の手法を学ぶ。	
	建築芸術史論A	都市における建築は、技術と芸術を高度に融合した創作活動で、古来より各地の文化と風土に根ざし、人間の精神や社会制度と深い関わりを持ち続けてきた。そのため、世界の東西を問わず、建築に関連する著作類は数多く生み出されてきた。そこには、建築に関わる技術や意匠の問題のみならず、社会のあり方や人間の精神、あるいは理想の社会を表象する媒体としての建築が数多く記述されている。この総合技芸というべき建築に託されてきた理念の歴史を、建築書・美術理論書・日記等の史料と遺構を基に考究し、「建築芸術史」の視点から建築史を読み解く。これによって建築に携わる人材として高度な洞察力を習得する。建築芸術史論Aでは特に、西洋やイスラーム世界を対象とする。	共同
	建築芸術史論B	都市における建築は、技術と芸術を高度に融合した創作活動で、古来より各地の文化と風土に根ざし、人間の精神や社会制度と深い関わりを持ち続けてきた。そのため、世界の東西を問わず、建築に関連する著作類は数多く生み出されてきた。そこには、建築に関わる技術や意匠の問題のみならず、社会のあり方や人間の精神、あるいは理想の社会を表象する媒体としての建築が数多く記述されている。この総合技芸というべき建築に託されてきた理念の歴史を、建築書・美術理論書・日記等の史料と遺構を基に考究し、「建築芸術史」の視点から建築史を読み解く。これによって建築に携わる人材として高度な洞察力を習得する。建築芸術史論Bでは特に、日本を中心としたアジア地域を対象とする。	共同
	都市基盤構造力学	橋梁など都市を支える基盤的な施設については、安全であり、景観にも配慮され、建設や維持の費用にも配慮されなければならない。実際にそのような基盤的な施設について、構造物としての設計の基本となる考え方を、材料の力学的な性質を含めて学ぶことは、都市空間をローカルな視点から科学的にとらえるうえで重要な素養のひとつである。そこで、本講義では、都市をささえる基盤的な構造物について、力学的な視点を中心課題として、静力学の考え方を学び、梁やトラスの構造の力学的な基礎的事項を習得することを目標とする。	
	都市基盤材料複合力学	都市をかたちづくる基盤施設である道路や鉄道の橋梁の多くは、鉄筋コンクリートのように、鉄とコンクリートというふたつの材料が複合している部材でつくられていることが多い。ローカルな視点から都市を科学的に学ぶうえで、このような構造物は、地震など自然災害に対する安全面の課題などを抱えており、都市を支える重要なインフラストラクチャーのひとつとしてその材料の基本的な特性、特に地震のような外力が加わったときの力学的影響を理解することは、文系・理系を問わず重要な素養のひとつである。そこで本講義では、材料が複合した構造物の基本的な力学原理、特に曲げ応力に着目して、都市における複合構造物の力学的な特性と解析方法を学ぶことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	学部共通科目	リスク共生関連科目	生態リスク学入門	生態リスクについての基本的な考え方を学び、不確実性の対処方法、自然保護の根拠としての持続可能性を理解する。生物多様性と生態系サービスを損なう生態リスクの評価と管理の基礎理論を学ぶ。絶滅危惧種の判定基準、野生動物管理、水産資源管理などの諸問題を取り上げる。	
			リスク分析のための情報処理A	現代社会の各種活動により蓄積されたログデータなど、とくに構造化されていない多種・多量な非構造化のログデータがある。これらのデータの収集、蓄積、整理に関する背景と環境、リスク分析に関するデータ処理技術、及び利活用に関する情報処理の全体像について勉強する。	
			高齢社会とリスクA	この授業では、寿命の伸展による個人の高齢化と長命の高齢者が数でも割合でも多くなる（超）高齢社会への移行に際して生起する社会的な現象や事象について講義し、近未来の高齢者のためにどのような社会のあり方が求められているかを、「リスク」という視点から考察する。本授業では、そのための基礎的な知識を習得する。	
			都市環境リスク共生論A	人類の活動の場としてのウェイトがますます大きくなる都市が、その機能を高める一方で生じている自然環境、社会環境に関わるリスクに関する知識、およびリスクと共生する都市づくりに必要な知識を学ぶ。ヒューマンスケールに近い建築周りから地域・都市、地球環境までをつなげたシステムとしてとらえ、都市環境を構成している地圏、水圏、気圏、生物圏と、エネルギーや資源を消費し、情報を駆使しながら活動が営まれている人間圏との関わりを、主体である人間の視点、リスク共生の視点から総合的に学ぶ。	
			社会リスク学A	本講座は、社会に潜在している多様な社会のリスクについて体系的に理解することを目的とする。まず、自然災害、事故等の安全に関するリスクや高齢化等の社会問題を含め社会の多様なリスクの状況を知る。次に、そのリスクを生み出す社会の状況変化を学ぶことにより、リスクと社会との関係を理解することにより、今後の社会におけるリスクの動向を考える。さらに、本講座では、科学技術がもたらす豊かさと社会リスクとの関係について具体的な事例に基づき講義を行い、豊かさをもたらすリスクについて考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目 学部共通科目 リスク共生関連科目	社会リスク学B	本講座は、社会に潜在するリスクの本質を理解し、望ましい社会構築のためのリスクアプローチの考え方を学ぶことを目的としている。リスクは、顕在化のタイミングや周辺の環境により、社会に対して好ましい影響を与えたり好ましくない影響を与えたりするために、問題となっているリスクのみを対象とした対応が社会として最適な対応とはならない場合もある。本講座では、このようなリスクの本質を理解し、現状のリスク対応の制度を学びつつその課題を検討し、社会の目的に沿ったリスク対応の在り方を理解する。	
	居住空間の計画 I	都市において建築を創る上での「計画」的な視点を養うために、居住空間を題材にし、身近な空間や現象からものごとの成り立ちを捉える方法を身につけ、ユーザーの視点から見た居住空間とその計画方法について学ぶ。具体的には、現代住居の多様さ・分化の理解、地域に根ざす住まい、民家の見方、現代住宅の原型と変容、モダンリビング、モダニズム運動と戦後レジュームなどを主題とする。	
	居住空間の計画 II	都市において建築を創る上での「計画」的な視点を養うために、居住空間を題材にし、身近な空間や現象からものごとの成り立ちを捉える方法を身につけ、ユーザーの視点から見た居住空間とその計画方法について学ぶ。具体的には、住居集合計画原論、住居集合の計画視点、プライベートとコミュニティ、マスのハウジングとその後、共生型ハウジングのかたち、環境との共生、などを主題とする。	
	都市基盤水理学	河川や海岸は都市の中の憩いの場として重要なオープンスペースであるとともに、河川氾濫や高潮などの自然災害のリスクとの関係でも重要な要素である。都市における施設計画やリスクとの共生を学ぶ上で、河川や海岸について学ぶことは文系・理系を問わず重要な素養のひとつであり、そこでは、その前提となる水の流れ方についての、流体の物理的特性としての力学的理解が欠かせない。そこで講義では、このような水の流れの基本理論である水理学を取り上げ、流体の力学の基本的な考え方と応用例を学習する。都市の水環境や、河川、海岸に関する学びを深めるうえでも、同じ流体である大気の影響を踏まえた、構造物の耐風設計を学ぶ上での重要な基礎理論を学ぶ。	
	都市基盤土質力学	都市の建物や道路そして鉄道などは、すべて、地盤の表層にある土によって支えられている。地震対策など都市におけるリスクとの共生を考えるうえでは、都市を支える基本構造である土について文系・理系を問わず学ぶことの意義は大きい。地滑りや液状化など地震によるさまざまな地盤災害、地下水くみ上げ等による地盤沈下の問題を考える場合にも、そもそも建築物や橋梁など基盤構造物を設計する場合にも、土の力学的特性を学ぶことはとても重要である。そこで、この講義では、土の基礎理論や土に対して行う各種室内実験を学ぶ中で、土の分類、基本的物性、透水性に関する必須事項を修得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育科目	学部 共通科目	イノ ベー ション 関連 科目	企業経営とオペレーション	どのようなビジネスでも、理事会・評議会あるいは株主総会などの決定機関に相当するものが存在し、そのほかに、庶務、人事、労務管理、人材育成、福利厚生、各種保険、財務、会計、税務、調達、施設そして各事業部運営などの経営業務が必ず存在している。この講義では、就労経験の無い学生向けに会社の運営、経営とこれらのオペレーションの概論を用意し、その後、コーポレート文化における業務プロセスや事業プロセスのモデル化とその効率化に関する知識と技術の修得を目的としている。	英語
			都市基盤計画論	道路や鉄道をはじめとする地域の都市基盤および社会基盤の計画の考え方について学び、土木工学の中の土木計画学分野の基本的な部分を網羅的に学習する。また、土木計画策定過程における課題解決能力を培う。都市基盤の計画と関連する環境問題、福祉問題、地方都市問題、そして新興国問題についても具体的な事例検討を通して学びを深める。	
			グローバルビジネスとイノベーションA	今日、企業のグローバルな事業展開がどれだけ進行しているのか、そうした企業を取り巻くグローバル社会の企業に対する要請がどのように変化しているのか、企業側の対応はどのように進展してきているのかについて、講義する。その中で、グローバルに事業展開を行う現代企業が、今日では環境問題や貧困問題などの社会問題の解決のためにイノベーションの創発を通じた貢献まで期待されるようになってきた経緯と現状について、理解を深めることを目的とする。	
			建築と都市のメディア・デザイン I	「建築」や「都市」に着目し、どのようなメッセージをいかに他者に伝えていくのか。世界では「建築」や「都市」に関わる、どのような批評性のあるテーマや論点が重要視されているのか。本講義では、都市・建築を扱う様々なメディア（主に雑誌や書籍、ウェブなど）の実践例に関する講義を通じて、建築・都市を題材にメディアで表現することを学ぶ。演習では、自身の「都市の見方・読み方」を言語化することを目的とし、都市を観察することからプレゼンテーションを試みる。	講義 10時間 演習 6時間
			建築と都市のメディア・デザイン II	「建築」や「都市」に着目し、どのようなメッセージをいかに他者に伝えていくのか。世界では「建築」や「都市」に関わる、どのような批評性のあるテーマや論点が重要視されているのか。本講義では、都市・建築を扱う様々なメディア（主に展覧会やワークショップなど）の実践例に関する講義を通じて建築・都市を題材にメディアで表現することを学ぶ。演習では、「都市を表現する」ことを目的として、建築や都市に対する自身の問題意識や着眼点を起点に、メディアを通して批判的にプレゼンテーションを試みる。	講義 10時間 演習 6時間

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	学部共通科目	イノベーション関連科目	社会デザイン・フューチャーセッション	地方自治体の職員やNPOのスタッフ、あるいは社会構築に関わる企業、など地域課題の解決に取り組んでいるステークホルダーと複数の教員で協働して進められる新しいスタイルの授業。過去の経験や知識を伝達するのではなく、今まさに起きている課題についてディスカッション形式、ワールドカフェ形式などで議論をかわし、能動的な知性・態度を育む。また本講義を通じて地域課題に関わるステークホルダーとの接点や連携を強め、大学の地域貢献・共同研究を活性化する。 建築学科全教員のうち2～3名の教員で交代し、それぞれの専門分野に関する内容を各教員2～3回程度実施する。	オムニバス
			都市生態学	近年の都市人口の増加および都市化の影響の増大を受けて、都市における生物多様性保全や生態系サービス（人間が生態系から得る恵み）の向上を考える学問として、都市生態学が注目されている。本講義ではまず、都市生態学の手法、都市環境の特性およびその変容について学ぶ。そして、都市および都市近郊における生物多様性や生態系サービスの概要、これらの適切な管理および利用に向けた都市計画・設計について理解を深めることを目的とする。	
			ジェンダーと共生（開発）	先進国・新興国・途上国における開発実践（ポリシー・プログラム・プロジェクト）にジェンダーや多様性に配慮した視点は不可欠であるものの、その取り組みにはまだ多くの課題がある。授業では、地域に固有のジェンダー課題について歴史や宗教などもふまえて学ぶとともに、近代の権利言説としての普遍的人権の枠組みの限界と可能性について学ぶ。国連の動きや条約のみならず途上国・新興国における具体的なジェンダー配慮の事例も紹介し、文化相対主義的思考と普遍的人権の交差の可能性について検討する。	
			ジェンダーと共生（文化）	ポピュラー文化におけるジェンダー表象を分析し、視覚芸術におけるジェンダー・イメージの変化や問題点を学ぶ。国際比較をすることによって、多様性の表現のメカニズムや共生社会を実現させるための方法を学ぶ。	英語
			建築と社会のデザイン	建築をデザインすることは未来をデザインすることである。建築を媒介に考えることで、身の丈の尺度をこえて、歴史的身体のスケール、社会的身体のスケールから思考する能力を養う。社会がパラダイムシフトしていく中で、来るべき時代の価値観にどのように向き合っていくべきなのか、経済、歴史、環境、科学、美術、デザイン、演劇、日常に散らばる多様な事象から建築と社会のデザインに結びつけて考察していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目 専門基礎科目	海外研究基礎論	欧州、東アジア、ラテンアメリカなどの諸事情および移民・難民問題や宗教紛争、貧困と抑圧、グローバル化の進展に伴う文化・価値観の変容や、地域的連携や統合の動きなどの 이슈について、資料(映像含む)や指定文献、あるいは専門家の招聘などの多様な形態により学習する。	共同
	社会文化批評基礎論	現代社会においては様々な社会的・文化的事象がそれらをめぐる大量の批評的言説と共に流通しており、私たちの言動に少なからぬ影響を与えている。その一方で、これらの批評的言説を相対化しつつ適切に読解することが、社会的・文化的事象の理解に対して不可欠となっている。本講義では、複数の教員が社会と文化・芸術のフィールドにおいて取り上げる批評的言説の分析を通して、現代社会における批評的言説のあり方の基礎を学んでいく。	共同
	社会分析基礎論	複雑な現代社会の実態を正確に捉え、知るための有力な方法のひとつとして社会調査がある。この講義では、社会調査に関する導入科目として、その意義や分類など基本的な事項を学ぶ。社会調査の歴史と目的、さまざまな調査方法（量的調査と質的調査）、調査をめぐる倫理などを解説するとともに、具体的な社会調査の実例を通して、データの収集からその分析に至る社会調査の全プロセスに関わる基礎的な事項を概括することが目的である。	共同
	文化創成基礎論	現代の世界では惑星規模・局所規模で様々な人間的・非人間的な事象が大量・多層の記号・情報として移動・混交・創発しており、私たちの芸術・文化的な生活・環境・言動にも大きな影響を与えていると考えられる。ならば、これらの記号・情報を感じとり、その論理・様態を思考・表象・展開することが、これからの芸術・文化の理解・創成のために不可欠と言えるだろう。本講義では、複数の教員が先鋭的な芸術・文化事象や関連する批評的・創造的言説の分析を通して、「都市・文化の未来」を切り開く思考の基礎を学んでいく。	共同
	グローバルビジネス創成基礎論	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、そのコンセプト設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営は様々なことを考慮する必要がある。この講義は、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスのクリエイティブでイノベティブなコンセプトと応用の設計に関する知識と理解を修得することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部教育科目	専門基礎科目	グローバルビジネス分析評価基礎論	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、そのコンセプト設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営は様々なことを考慮する必要がある。この講義は、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの市場性の調査と評価分析に関する知識と理解を修得することを目的としている。	英語
		グローバルビジネス管理・運営基礎論	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、そのコンセプト設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営は様々なことを考慮する必要がある。この授業は、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの管理・運営に関する知識と理解を修得することを目的としている。	英語
	専門科目	国際開発学講義	本講義では「世界の貧困は何故存在し、どう解消し得るか」を大きな問いとする。授業では世界の貧困・格差について現状をレビューした後、「関連諸学（経済学・政治学・法学・社会学・人類学・心理学）は貧困の要因をどう分析し解決策を提案してきたのか」「現状に対して実際にどんな解決策が講じられて来たのか。」「解決策の成否を分ける要因は何か。」「果たして学問は貧困削減の一助となるか?」について、文献および事例分析より深めることを通じ「開発を見る複眼的視点」を身に付ける。	
		都市社会学講義	都市社会学の方法と対象について、現代社会における都市の存立構造とそこを生きる人びとの立ち位置（ポジション）に焦点を据えて解明する。併せて、都市社会学がアーバン・スタディーズにおいて占める位置について、都市論、空間論（とりわけ空間論的転回以降のもの）、社会史研究等の成果を踏まえながら検討する。こうして、本講義では、都市社会学の全体像と固有の立ち位置を、都市社会学が関連諸領域と交差する理論地平および経験地平で浮き彫りにすることをめざす。その際、ハーヴェイ、カステル、ルフェーヴル、アーリ等の都市／空間言説に触れながら、都市社会学の理論的革新の方向をさぐる。	
		社会共生論講義	講義形式で行う。共生社会形成の意義を理解することを目標とする。まず、人びとの間には、身体的・文化的・地理的等様々な多様性があることを理解する。この多様性は過去において様々な対立や社会問題を生みだしてきた。現代社会においても多様性は差別や格差拡大を生んでいる。けれども、安全で安心な社会、持続可能な社会を形成するためには、共生社会の形成が不可欠である。多様性を超えて相互に尊重し平等に社会に参加できる共生社会の実現のために必要な課題を論じる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ バ ー シ ン ク	格差社会と社会的包摂講義	本講義では、都市の社会的不平等とそれに対する国家や市民社会の対応を学ぶ。まず、近代初頭の資本主義都市における貧困の原初的な存在形態と古典的リベラリズムの下での慈善的な恤救について、続いて、20世紀の福祉国家の建設とそれに伴う国家の社会介入の拡大について概説する。そのうえで、こんにちのネオリベラリズムの下での新たな社会的不平等の存在形態と国家・市民社会の役割について論じ、現代大都市における社会的排除と包摂の今日的諸相を、具体的な事例をまじえながら考える。
			都市哲学講義	21世紀に入り、都市は人間の居住にとってますます重要な場所になる一方で、様々な問題をかかえている。この講義では、21世紀における都市のあり方を根本的に考えるために、人間の思考の根源として蓄積されてきた哲学や倫理学における考え方を批判的に検討しつつ適用することで、これからの都市社会のあり方の根本的設計を目指す。受講者には単に哲学や倫理学についての知識を吸収するだけでなく、世界の理解の仕方や議論の仕方を学び、柔軟で深い思考のために活かすことが求められる。授業形式は単なる講義形式にとどまらず、ディスカッションやレポート作成を通じた主体的、積極的な学修を取り入れていく。
			都市日本文化史講義	都市で生まれ、都市で育まれてきた日本文化の諸相を、江戸時代から近現代までの四百年の歴史的パースペクティブのなかで学ぶ。なかでも、江戸・東京に焦点を当て、都市大衆とともに発展した文化——歌舞伎、落語、見世物、浮世絵、下町風俗、寺社詣、浅草ほかの盛り場、日本映画等——をとりあげて、近現代の変遷を含めた都市的日本文化の特徴を、内外の学生たちに理解してもらおう。日本の内側からだけの視点にとどまらず、外国からどう見え、どう異なるのかといった国際日本学の視点から本講義を行う。
			都市文化マネジメント講義	現在の都市における文化の意義、文化活動の可能性とは何か？美術館やコレクションの歴史、さらには芸術祭や文化イベント等の現状についての知識を身につけることによって、都市における芸術文化活動の特徴やそれらを生み出すマネジメントの仕組みを、ローカルとグローバルの双方の視点から探ってゆく。文化運営の単なる実践的ガイドではなく、歴史学・社会学・観光学・芸術理論などによる学際的アプローチに基づいて、都市文化マネジメントの基本知識を身につけてゆく。
			文化人類学講義	グローバル化が進む今日、異なる文化と文化が出会う機会が急速に増加しており、時には異文化間の摩擦や対立が生じている。その様な状況のなかで、「他者」や「異文化」という概念に対する理解を深めるとともに、それらの対象とどう向き合うかを考えていくことが、我々一人一人にとって重要な課題となっている。この授業では、現代社会と関わるいくつかのトピックについて、文化人類学的なアプローチを解説する。それによって、現代の都市生活をめぐる様々な現象について理解を深め、それら問題群に対する人類学的な視点を身につける。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ バ ー シ ッ ク	EQによるファシリテーションとマネジメント	この講義では、これからのグローバルビジネスにおいて必要となるファシリテーションとマネジメントに関する知識と技術のほかに、感情マネジメントと組織風土作りのダイナミズムに関わる学習を通じて、言葉と感情の関係に注視しながら生産的な協働ビジネスコミュニケーションの形態について学習することを目的としている。	英語
			広告芸術A	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この講義では、効果的なプレゼンテーションの基礎として、広告対象層へ瞬時に情報発信する広告芸術の基本を視覚的效果と文字表現効果的な2面からの取組みにより学習することを目的としている。	英語
			広告芸術B	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この講義では、専門職の広告クリエイターの指導の下、聴衆対象を共感させる効果的なプレゼンテーションの実践技法を目的として、①独自性、②差別化の切り口、③裏打ちされた技術と信頼、そしてなによりも④共感性に関する基本的な概念の設計と応用原理を修得することを目的としている。	英語
			コミュニケーションとエモーショナル・リテラシー	この講義では、これからのグローバルビジネスのコミュニケーションにおいて必要となる知識背景やコミュニケーションテクニック、また、感情のダイナミズムに関わる学習を通じて、言葉と感情の関係に注視しながら協働ビジネスコミュニケーションの形態について理解を深めることを目的としている。	英語
			コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	映像社会論講義	我々現代人は、映画、テレビ、ネットなどを通して間近な存在としての「映像」に日常的に触れる機会が多くなっているのだが、「映像」というのは構築された「表象」のレベルのものでしかないという意識は薄いと思われる。本授業は、「映像」は社会によって制作されていくと同時に、社会を形成する媒体でもあるという密接な絡み合いを念頭に入れながら、19世紀末のシネマトグラフ発明から2015年パリに起きたシャルリエブド襲撃事件まで、「ネイション」、「コミュニティー」、「民族性」などの「表象」を脱構築し、映像の限界、そしてその可能性を論じることを目的としている。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	国際社会学講義	「1989年以降の世界」を対象とし、グローバリゼーション(世界化・地球化)の現象が国際社会、国民社会、あるいは地域社会・コミュニティに何をもたらしているのか。国際政治経済学の枠組みでは捉えきれない現象について、いくつかの事例をピックアップし、履修学生が基本的な国際社会学の理論的枠組みを構築した上で分析・考察できるようにする。
			東アジア都市社会論講義	この講義では、①日本、朝鮮、中国に成立した近世都市について、その成立事情と都市計画の相違を、歴史的・社会的さらに文化的な脈絡から解明する。②そのような前近代都市が、産業化の進められる近代社会において、どのように変貌していくのかを論ずる。③都市を手掛かりとした考察を通じて、日本と韓国の歴史的・文化的な相違点と共通性を明らかにする。これらの考察により、日本近世社会の特質を浮き彫りにする。
			都市政策論講義	この講義では公共政策の一部としての都市政策をとりあげ、政策の背景としての都市における社会的問題、政策目標、政策過程、政策効果などについて論じる。特に、経済のグローバル化や新自由主義的な思想状況におかれている、大都市圏における政策を中心に講義する。対象となる分野は経済と福祉の観点から、地域産業、観光、雇用、住宅などをカバーし、それらの総合された分野として財政や地方自治、住民参加の問題を扱う。さらに、アジアや欧米との比較の中で現代日本の都市政策の特徴を考える。
			地域社会と公共性講義	社会にさまざまなディバイド（裂け目）をきざむ価値の相克状況が深刻になるなかで、そうした状況に合わせた公共性の形成がいかにして可能になるかを検討する。具体的にはリベラリズムとコミュニティアニズムの間の論争をとりあげながら、社会の中間領域を縁由した、公共性の志向性を持つ集合性が「共的な自治」（＝ガヴァナンス）＝「公的」業務を介して公共性として立ち上がっている状況を示す。なお講義では、コミュニティに照準し「住まうこと」に根ざす共同性に準拠して、以上の公共性形成のメカニズムを明らかにする。
			ジェンダー社会論講義	講義形式で行う。ジェンダーの視点で現代社会を分析することの意義を理解することを目標とする。ジェンダーとは、社会的性別を意味し、ジェンダー社会論とは、社会現象をジェンダーの視点で分析する社会理論を言う。まず近代社会における政治的・社会的なジェンダー問題の歴史を概観し、1970年代以降のジェンダー社会理論を整理する。その上で、「ジェンダー秩序」論の枠組みで、家族・職場・学校・福祉・メディア等のジェンダー体制の構造構成と構造変容の方向性を概観し、国民国家を超えたジェンダー社会理論の可能性を検討する。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	社会運動論講義	社会運動研究は、道徳的・価値的あるいは政治実践的な議論としてではなく、社会運動はなぜ、そしてどのように起こり、それは社会をどのように変えてきたのかを科学的に解明するべく、研究を積み重ねてきた。本講義では、社会運動研究の基本的な視点、考え方、代表的な理論と分析装置、主要な研究例、今日の展開と研究の最前線を講じる。とくに、今日の大都市における社会運動のありようを、できる限り具体的に紹介することで、都市の市民社会や変化の契機を理解する機会としてもらう。
			音響文化論講義	音響文化論とは音響的側面からアプローチする文化論であり、哲学、音楽学、人類学、歴史学、科学技術史などの知見を活用する学際的領域である。この授業では音響文化論の基礎的な知識として、19世紀後半以降の音響再生産技術の発展史——レコード、磁気テープ、CD、MP3と展開する音響メディア史——と、それらの技術の社会的受容の諸相を学ぶ。
			開発人類学講義	グローバル化が深化し、格差が拡大する今日において地球上の全ての人々が「豊かで幸せ」になれる方策はあるのだろうか。本授業では、文化人類学のアプローチを持つ開発人類学と開発の人類学の系譜を学んだ上で、復興現場や新興国、途上国などで展開される社会開発や企業のBOPビジネスなどを開発人類学/開発の人類学の視点から分析することから、よりよい社会の構築のための複眼的視野と方法論を獲得することを目指す。
			空間芸術論講義	「空間が生きている」とはどういうことか。「生きている空間」を創発していく「空間の論理」「空間の条件」は何か。われわれが生きる「空間の未来」に直結するこうした実践的問いに応えるためには、空間を空虚な枠組としてではなく、多様な実在を共在・連結・分岐・連結させながら刻々と変容・生成していく「生きもの」として把握する必要がある。本講義では美術館・映画館・劇場等の場所を考察するにとどまらず、音響空間・映像空間・美術空間・舞台空間・建築空間から都市空間・生活空間・生態空間までを連続するものとして把握し、「空間の論理」「空間の条件」を探求・講義していく。
			現代芸術論講義	都市を中心に展開してきた現代の芸術表現は、その内容においても形式においても多様化である。この講義では、20世紀後半から21世紀における芸術表現においていったい何が問題とされてきたのか、「抽象」・「ミニマル」・「コンセプチュアル」・「ポップ」・「エンタロピー」・「ボディ」・「制度」・「知覚」・「メディア」・「参加」・「土地のアイデンティティ」・「エコロジー」等のキーワードを通して歴史的かつ理論的に学ぶ。授業は概要についての講義と、具体的な作品の観察・記述・分析を往復しながら行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部教育科目	専門科目 commons・アドバンス	現代都市文化論講義	「現代都市文化論」とは、特に70年代以降の「現代」の都市に関わるあらゆる文化に関する理論的考察を行う講義であり、「後期資本主義」「ポストモダン」「消費社会」「若者文化」「サブカルチャー」「リスク社会」「メンヘル文化」「ネットカルチャー」等々が含まれる研究である。この授業では、社会学、哲学、心理学、文学理論、ジェンダー研究、記号学、等の理論的観点を踏まえながら、実践的に、すなわち受講者自身がその当事者として「リアル」に生きる日々の出来事の総体としての「文化とは何か？」を探求していく。	
		現代ポピュラー文化論講義	アニメ、マンガ、ゲームに代表される現代ポピュラー文化のメディアテクストにおける表象（イメージ）を分析する方法を学ぶ。本講義では、ジェンダー、人種、エスニシティ、経済格差など、私たちが自明と思っているイメージがどのように構築されているかを批評し、政治的、社会文化的意味がどのように作られるかを考察することを通じて、メディアリテラシーの力を培う。	
		現代メディア論講義	現代社会が抱える様々な問題を掘り下げ、その解決策を提示することがメディアに科せられた使命である。しかし、近年、そのメディアの危機が叫ばれている。実際のニュースを題材に、社会に寄与するメディアのあり方を探る。関係者や専門家を招聘し、学生と意見交換する機会も持ちたい。	
		公共政策論講義	現代社会の諸問題を解決するための公共政策はいかんしてつくられ、実施されているのか。講義では、公共政策の種類や政策過程に関する基礎理論を学ぶとともに、国や地方公共団体の代表的な政策イシューを取り上げ、政策決定過程や実施過程の特徴と問題点、政策内容の合理性や有効性の評価、政策過程への市民参加やガバナンスの問題などについて検討する。	
		国際協力論講義	本講義では、国家間の協力のなかでも特に、途上国の開発のために行われる政府開発援助（ODA）および、中国やインドといった新興国による「南南協力」を中心に扱う。協力の実態や仕組みを紹介した上で、こうした協力が成り立つ要因や動機、更にはその効果やインパクトについて掘り下げ、協力の意義を自ら判断できるための最小限の評価技法についても伝授する。日本（JICA）が実施している具体的な具体的な援助プロジェクトを事例としたケース学習やロールプレイと、協力の現場における最新のトピックを議題としたディスカッションを取り入れたクラス構成を予定している。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	国際政治学講義	「国際政治学」は、日本も含む各国から構成される社会における政治現象を扱う学問であり、グローバル人材の育成に必須の科目である。この講義では、国際政治を理解するために各国の行動原理などを知る必要があるため、リアリズムやリベラリズムといった基本的な「国際政治理論」を学ぶ。また、国際社会における「国家間戦争」や「内戦」、「経済成長・貧困」、「テロ」といった様々な政治現象の原因と結果を理論的に学ぶ。講義形式で行い、国際社会を本質的に理解するために必要な知識を習得する。	
			国際政治経済論講義	本講義では、グローバル化と国民国家システムとの関係をどのように理解すべきかを問い、それに関わる知識と理論的視角を学修し、諸論点について議論できる素地をつくることを目的とする。政治の論理を国家の論理に限定するのではなく、グローバル新時代に台頭してきている様々な非国家アクターの政治の論理や市場における政治の介入にも着目することによって、現代国際社会をより詳細に見る眼を養うことが期待される。	
			都市文芸文化論講義	文学作品は都市といかなる関係を取り結んできたのか。文学作品は都市にいかなる可能性を見てきたのか。本講義では、これらの問いに歴史的にアプローチする。そのために以下の二つの課題に取り組む。①欧米と近代日本における文学の発展の概略を学ぶ。②これを踏まえ、都市という観点から文学作品を捉え返した際にキーとなる作品や理論をピックアップして分析を行う。ラブレー、ボードレー、ジョイス、シュルレアリスム、永井荷風などを取り上げる予定。	
			東アジア近現代史講義	19世紀から現在までの東アジアの歴史を、歴代政権、国際情勢、国内社会状況の3つの視点を織り交ぜながら概観する。東アジア史を語るには、近代化過程、植民地政策、終戦、解放、冷戦、南北分断といった、当地域の諸情勢に対する理解は不可欠である。この講義では、さらに、米ソなどの列強諸国との関係までを含めた多角的観点から、東アジアの歴史を学習する。	
			多民族都市文化共生講義	社会のグローバル化やダイナミック化は、伝統的に形成されてきた都市や生活体系とは異なる発展がある。この科目では、グローバル社会に都市で生活していくコミュニティーや構成員の民族や歴史的背景が、どのように、新しい時代の生活・文化・習慣を作っていくかについて、インタビューや施設訪問を通じて学習することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 部 教 育 科 目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	都市社会マネジメント（アジアグローバル経営基礎）	この講義では、アジアに根ざしたグローバル経営に求められる国際理解と英語コミュニケーションに加えて、都市社会におけるマネジメント概念についての基礎的な専門知識・能力の獲得を目的とする。都市社会を舞台とするアジアグローバルビジネスの重要課題・戦略における会計上の諸課題、事例とその特徴を理解し、英語によるプレゼンテーションを行う。	英語
			都市社会マネジメント（企業会計）	この講義では、都市社会での企業会計を念頭に基本的な簿記、財務会計、管理会計、財務諸表の解析と分析、税や連結決算など、企業会計とそれに関連するトピックスについて説明と事例を用いて学ぶ。	英語
			都市社会マネジメント（経済学）	この講義では、都市社会における経済理論の入門として、経済理論の主要な概念や原則を学修し、それらが日常生活においてどのように適用できるかを学ぶ。学生は、都市社会の経済構造面を理解できるようになるために、経済学の基礎的な用語、主な経済政策、および経済分析の基礎を学ぶ。	英語
			都市社会マネジメント（日本型経営）	この講義では、都市社会における企業戦略、組織構造とプロセス、人的資源管理、生産システムに焦点を当て、日本的経営の様々な側面を紹介する。それにより、日本経済や都市社会における日本的経営の影響力や特徴について理解する。	英語
			都市社会マネジメント（ミクロ経済学）	この講義では、都市社会における経済活動を自らの個人的な利益を追求する個々の経済主体同士の相互作用としてモデル化することで、競争市場がどのように機能するかを理解することを目指す。議論のトピックとしては、都市社会における生産者と消費者の理論、競争市場、不確実性下の市場均衡、厚生経済学などが含まれる。	英語

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 部 教 育 科 目	専 門 科 目	コ モ ン ズ ・ ア ド バ ン ス	都市文化共創（映像学）	この講義は、都市文化の中の映像学に着目して、人類学や民族学研究の基本的な理解を得ること、ドキュメンタリー映画の撮影と、それに関する主要な見解について理解を深めること、および、グループでドキュメンタリー映画を実際に撮影、編集、上映することを目的とする。	英語
			都市文化共創（外交政策学）	戦後70年、日本は未だに第二次世界大戦の遺産から解放されていない。この講義では、都市文化の中の外交政策学に着目して、日本と東南アジアを中心に、1930年代から戦後までの歴史を概説し、その後、1950年代の賠償交渉、戦後の平和条約、慰安婦問題および教科書論争などの主要な問題を取り上げ、検討する。	英語
			都市文化共創（サブカルチャー学）	この講義は、明治以前から現在までの日本社会における都市文化の中で重要な役割を担ってきたサブカルチャーの進化と形成について検討する。クラスでは、まず、ポップカルチャー作品やそれを取り巻く社会問題に焦点を当て、その後、日本の都市社会におけるサブカルチャーの海外の論考や、それを取り巻く態度や視点にフォーカスを拡大していく。それにより「オタク」「ロリコン」「文化の盗用（Cultural Appropriation）」などの現象について深く理解することができる。	英語
			都市文化共創（メディア芸術学）	この講義は、日本の都市文化の理解にとって重要な位置を占める日本映画を文脈化し、その社会的、政治的な意味合いを強調することによって、学生に、従来とは異なる新しい日本映画の見方を提供することを目的とする。	英語
			都市文化共創（歴史学）	この講義では、近代国家としての日本の歴史的発展について、特に都市文化との関連を踏まえ、国家成立のプロセス、帝国主義列強との勢力闘争、グローバル社会における国境を越えた影響などを通じて、多角的に学んでいく。	英語

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部教育科目	専門科目	コモンズ・アドバンス 横浜都市文化共生講義	社会のグローバル化やダイナミック化は、伝統的に形成されてきた都市や生活体系とは異なる発展がある。この講義では、アジアのゲートウェイとして発展してきた横浜を例に都市科学のダイナミズムとクリエイティブシティ形成に関する理解と実習をすることにより、グローバル・ローカル時代の都市社会共生について学習することを目的としている。	英語
		映像社会論演習Ⅰ	本授業の主な対象は海外における日本映画の受容である。欧米において、不可解でエキゾチックな「他者」として「本質化」されがちな日本映画であるが、その背景に芸術的な理由ばかりでなく、経済的・イデオロギエ的・精神分析的な理由なども存在することを、具体的な事例を採りあげながら論じていく。	
		映像社会論演習Ⅱ	「映像社会論演習Ⅰ」で論じたことを踏まえた上で、戦前から戦後にかけて、作品をめぐる環境のコンテクスト化によって、日本映画の様々な「現代性」を語っていく。1920年代後半の社会派「時代劇映画」や80年代のアイドル映画の一部が主な対象となる。	
		エスニシティと共生	都市社会のダイバーシティと関わるエスニシティや移動・移民をめぐる議論を、特に文化人類学の視点から概括する。授業では、英語テキストを用いて、人の移動をめぐる近年の研究を学ぶ。その上で、受講生の興味関心にあわせたテーマを設定し、日本に暮らす外国人を対象としたグループ研究を課題として課す。移民・移動が社会問題として論じられる現状において、多種多様な文化的背景を持つ人々が共に生きる社会の可能性について、討論を行う。	
		音響文化論演習Ⅰ	音響文化論演習Ⅰでは音響文化論講義で学習したことを踏まえ、とりわけ芸術学的観点から、音響文化の諸相を分析する。現代音楽と西洋芸術音楽、レコード音楽とポピュラー音楽、サウンド・アートと現代美術、電子音楽と電気音楽、サウンドスケープの思想と芸術的環境化、といったトピックを中心に音響文化の諸相を具体的に概観する。音響文化論的な観点からそれらの事象を語るための基礎的な知識を得ることが、学生にとってのこの授業における目的である。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	専門科目	コア ローカル／グローバル	音響文化論演習Ⅱ	音響文化論演習Ⅱでは音響文化論演習Ⅰで言及したトピックを、関連英文テキストを用いてさらに詳細に検討する。音響文化論演習Ⅱで言及された事例に関わる様々なテキスト——マニフェスト、批評、理論、学術論文など——を綿密に検討する。テキストの精読と受講者同士の議論を通じて、音響文化論的な観点からそれらの事例について語れるようになることが、学生にとってのこの授業における目的である。	
			開発人類学演習	ラテンアメリカやアジア、アフリカなどにおけるジェンダーや多様性に配慮した農村・都市における社会開発の事例から学べることはなにか。また、これまでのアプローチの限界とはなにか。これらを踏まえた上でこれからの社会開発に必要なものはなにかを検討する。ITやインフラ整備なども接合させた上でリスクやジェンダーなどに配慮した文理融合型住民参加型開発はできるのか。これからの社会開発について受講者との議論を通して検討したい。	
			空間芸術論演習Ⅰ	空間芸術論講義で学んだ音響空間・映像空間・美術空間・舞台空間・建築空間から都市空間・生活空間・生態空間までの具体的諸相を念頭に置きつつ、空間芸術論演習Ⅱでは「生きている空間」を創発していく「空間の論理」「空間の条件」、あるいは「停滞している空間」を解除していく「空間の論理」「空間の条件」を、言語によって探求するのみならず、とくに映像を活用して表象していく方法を検討していく。そして、履修者自身が具体的な空間の観察・思考・表象に向かうための強い指針を固めることに焦点をあてる。	
			空間芸術論演習Ⅱ	空間芸術論講義で学んだ空間の具体的諸相や、空間芸術論演習Ⅰで学んだ空間表象の方法を念頭に置きつつ、空間芸術論演習Ⅱでは「空間の論理」「空間の条件」を理論的に掘り下げるために必要な文献の講読・討議を行っていく。空間を空虚な枠組としてではなく、多様な実在を共在・連結・分岐・連結させながら刻々と変容・生成していく「生きもの」として理論化すること、そして芸術学・美学のみならず、哲学・都市学・生態学・人類学などを横断する先鋭的な理論を拓くことを目指す。	
			現代芸術論演習Ⅰ	「知覚」・「メディア」・「参加」・「土地のアイデンティティ」・「エコロジー」といった現代の芸術表現における諸問題から一つを取り上げ、理論的文献の講読と、具体的な作品の観察・記述・分析を行う。現代芸術論演習Ⅰでは特に、理論的思考の養成を重視し、芸術学のみならず、哲学・認知科学・人類学等の知見を横断的に参照しつつ、芸術について広く理論的に思考する力を磨く。学期末に、理論を応用した具体的な作品分析を各学生が発表する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ ア ー カ ル ／ グ ロ ー バ ル	現代芸術論演習Ⅱ	「知覚」・「メディア」・「参加」・「土地のアイデンティティ」・「エコロジー」といった現代の芸術表現における諸問題から一つを取り上げ、理論的文献の講読と、具体的な作品の観察・記述・分析を行う。現代芸術論演習Ⅱでは特に、現在の表現の現場で何が起きているのかについてのリサーチを重視し、いまだ十分に理論化されていない事例について各学生がフィールドを決めて観察・記述・分析を行う。学期末にリサーチの成果を各学生が発表する。	
			現代都市文化論演習Ⅰ	本演習Ⅰでは学生主体のゼミ形式で、現代都市文化論講義で学んだ、特に70年代以降の現代都市において象徴的・集中的にあらわれた都市文化的問題群の探求を進めていく。具体的には若者を中心とした文化等に関わる代表的な文献を選び、哲学、文学理論、都市論、ジェンダー研究、記号学等の理論と、フロイト精神分析を基盤として参照しながら、文献を読み込んでいく。と同時に、都市横浜で実際に学生生活を過ごし、現代都市文化の当事者である学生自身の「経験知」を、これら理論にかぶせていくことで、理論と実践（臨床）の二つの側面から、受講生各自の現代都市文化像を構築していく。	
			現代都市文化論演習Ⅱ	本演習Ⅱでは現代都市文化論講義、現代都市文化論演習Ⅰで学んだ、現代都市に象徴的・集中的にあらわれる都市文化的問題群や、学生自身が持つ現代都市文化像を踏まえて、英語の文献を用いながら、よりグローバルな文脈で、現代都市に生起する都市文化的問題群をゼミ形式でさらに検討していく。ここでいう「グローバル」とは、国境の垣根を超えて浸透する現象群のことだが、若者を中心とした文化等の問題群においては、世界の先進都市における同時性の傾向が顕著である。英語という「世界語」を通じて、当事者若者たちの「同期」が、学問としても、また学問を超えても求められ、そうしたプロセスを経ながら、受講生の現代都市文化像を再構築していく。	
			現代ポピュラー文化論演習	現代ポピュラー文化論講義で学んだ基礎を踏まえ、国内外のポピュラー文化の消費と利用の事例を調査、分析する。特に、2.5次元舞台、コスプレ、声優イベントなどの消費と利用の社会的、政治的意味を学ぶ。	
			現代メディア論演習	原則、「現代メディア論講義」を履修済みの学生が対象。危機が叫ばれるジャーナリズムの在り方を学生との意見交換や討論を通して考える。関係者や専門家の招聘講演、現地取材などを通じ、生々しい実社会の有り様に触れる機会を重視する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部教育科目	専門科目	コア ローカル／グローバル	国際社会学演習Ⅰ	1989年以降のヨーロッパおよびその周辺地域を事例に、EU統合やグローバリゼーションが引き起こした文化社会的諸現象・諸変容・諸問題について、日本との比較も交えながら考察する。履修学生個人ないしはグループ単位でテーマを選定し、教員の指導の下に資料収集、報告資料の作成、プレゼンを行う。	
			国際社会学演習Ⅱ	グローバリゼーションの進展により世界各地の「島嶼社会」がどのような変容を受けどのようなリスクを抱え、また国際社会学やNPO(ほどのような対策を講じているのか、フランス語圏の幾つかの島嶼地域(フランコネシア)を事例に、日本ではまだ未確立の比較島嶼学やボーダーオロジー、島嶼社会学の理論や概念を取り上げながら考察。履修者個人もしくはそのグループがテーマを設定し、教員の指導のもとプレゼン報告を行う。	
			コミュニティ開発演習Ⅰ	近年、先進国・途上国を問わず「当事者主体の地域・コミュニティづくり」が政策や事業のデフォルト設定となっている。しかし実際には、特に貧困層に属する当事者一人一人が「やる気(主体性)」を醸成し、自ら現状を分析し、課題対処していくこと自体が容易ではない。本演習では「やる気」にかかる諸説・諸事例・実体験の分析よりメカニズムを紐解いていく。	
			コミュニティ開発演習Ⅱ	「当事者主体の地域・コミュニティづくり」のもう一つのキーワードが「協力」である。コミュニティ開発は一人では出来ないからである。しかし人は自動的に協力するとは限らないことは周知である。本演習では「協力」にかかる諸学説・諸事例・実体験の分析よりそのメカニズムを紐解いていく。	
			政治学演習	我々の社会は、福祉政策や教育政策といった政策や、外交・安保、選挙といった政治と切り離すことはできない。「政治学演習」では、選挙や議会、外交といった政治に関する邦語・英語文献を毎回1, 2本輪読し、最終回で特定の政治現象について履修生に発表させる。また、学生の知識の習得度合いに合わせ、通常の講義形式によって補う。このことにより、現代政治の問題やその性格を学習し、その低減策を考えさせるとともに、学生が政治的に有徳な市民へと成長する一助になることが目的である。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ ア レ ー カ ル ／ グ ロ ー バ ル	都市社会学演習Ⅰ	本演習は、学部共通科目である地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】や地域連携と都市再生B【かながわ地域学】の学びをもとに、グローバル都市社会の直面する貧困や格差、社会的排除などの問題に接近する社会学的視点や方法を学ぶ。特に世界都市論や脱工業都市の階級論に関する文献の輪読や討論を通じて、現代の都市社会への批判的な視点を養うことを目的とする。授業は基本的に英語で行い、英語文献の講読や議論により、日本の都市社会を諸外国と比較し、その特質を理解するとともに、現地でのヒアリング調査、地域関係者のレクチャーをふまえて討議し成果をまとめる。
			都市社会学演習Ⅱ	本演習は、学部共通科目である地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】や地域連携と都市再生B【かながわ地域学】の学びをもとに、グローバル都市社会の直面する地域コミュニティの機能不全や体感治安の悪化、社会統制などの問題に接近する社会学的視点や方法を学ぶ。特に都市コミュニティ研究や都市空間の公共性に関する文献の輪読や討論を通じて現代の都市社会への批判的な視点を養うことを目的とする。授業は基本的に英語で行い、英語文献の講読や議論により、日本の都市社会を諸外国と比較し、その特質を比較するとともに、現地でのヒアリング調査、地域関係者のレクチャーをふまえて討議し成果をまとめる。
			都市人類学演習	この講義では、都市社会に対する文化人類学からのアプローチを取り上げる。いわゆる周縁社会を主たる対象とする人類学は、それら社会の近代化や人口の流動化とともに、都市を射中に入れた多様な研究を行ってきた。近年では、西欧諸国の都市をフィールドとした研究も多く行われている。講義では、アーバンエスニシティや移動・移民論、都市・ストリート文化など、都市人類学における主要なトピックを、テキストの輪読と討論を通して解説する。
			都市哲学演習Ⅰ	この演習では、都市哲学講義の内容を踏まえて、現代の様々な諸課題が集中する都市の諸問題を根本的に考えるために、人間の思考の根源として蓄積されてきた哲学や倫理学における各種の議論を具体的に取り上げ、検討することで、都市社会のあり方の根本の設計を考える。演習Ⅰでは、人間や社会という存在はどのような本質を持つものであるのか、また世界や人間についての知識や理解はどのようにして獲得することができるのかというテーマを中心的に取り上げる。進め方としては、各種の文献の講読とそれに基づく討論、さらにレポート作成などを通じて、読解力、討議力、表現力などの知的スキルの向上も目指す。
			都市哲学演習Ⅱ	この演習では、都市哲学演習Ⅰの内容を踏まえて、現代の様々な諸課題が集中する都市の諸問題を根本的に考えるために、人間の思考の根源として蓄積されてきた哲学や倫理学における各種の議論を具体的に取り上げ、検討することで、都市社会のあり方の根本の設計を考える。演習Ⅱでは、社会性や公共性はどのような形で構想されてきたのか、またそこで重要な役割を果たす言語を中心としたコミュニケーションによって何を伝えることができるのかという問題について検討していきます。進め方としては、各種の文献の講読とそれに基づく討論、さらにレポート作成などを通じて、読解力、討議力、表現力などの知的スキルの向上も目指します。

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目	専門科目 コア ローカル／グローバル	都市文芸文化論演習Ⅰ	文学テキストはたんに都市を客観的に描き出すだけでなく、それ自体ひとつの都市の解釈であり、往々にしてそこには何らかの問題提起が埋め込まれている。これを掘り起こすためには、精緻なテキストの読解が不可欠になる。本科目では、演習形式の授業を通して文学テキストの読解を実践的に学ぶ。そのための基礎となる本科目では、都市に関わる文学作品だけでなく、様々な文学作品とその先行研究を検討することで、テキスト読解のスキルを身につける。
		都市文芸文化論演習Ⅱ	文学テキストはたんに都市を客観的に描き出すだけでなく、それ自体ひとつの都市の解釈であり、往々にしてそこには何らかの問題提起が埋め込まれている。これを掘り起こすには、精緻なテキストの読解が不可欠になる。本科目では、演習形式の授業を通して文学テキストの読解を実践的に学ぶ。本科目は基礎に対する発展と位置づけ、より参加者の自発的読解に重きを置きながら、都市に関わる文学作品だけでなく、様々な文学作品とその先行研究を検討することで、テキスト読解のスキルを深める。
		東アジア都市社会論演習Ⅰ	この演習では、朝鮮時代の都市と農村の関係について、歴史的・社会的さらに文化的な脈絡から解明する。ことに中央集権的な官僚体制と物流システムを構築した朝鮮王朝において、都市とはどのような存在であったのかを歴史的に理解する。このような考察を通じて、前近代社会は、その自然環境や対外関係、さらに統治体制などの違いによって、異なる発展を辿ったことを理解する。そして、日本と韓国の歴史的・文化的な相違点と共通性を明らかにする。
		東アジア都市社会論演習Ⅱ	この演習では、演習Ⅰに続いて、前近代からの都市が、産業化の進められる近現代社会において、どのように変貌していったのかを論ずる。なかでも韓国の都市を事例として、前近代、日本統治期、さらに、高度経済成長期から現代における再開発までを考察対象とする。このような、都市を手掛かりとした考察を通じて、現代の日本と韓国の歴史的・文化的な相違点と共通性を明らかにする。
		紛争と共生	人が集まれば、そこに対立と紛争が生じる。国際社会であればその最も暴力的なものが戦争であり、国内社会であれば内戦であり、日常生活であれば意思決定における意見対立である。「紛争と共生」では、国家間戦争や内戦といった暴力的紛争やデモといった非暴力的紛争に関する邦語・英語文献を1、2本毎回輪読し、最終回で世界各国の紛争について履修生に発表させる。このことにより、現代社会における紛争の原因や結果、その性格を学習し、紛争の回避やその低減策を考えさせる。

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 教育 科目	専 門 科 目  コ ア ロ ー カ ル ／ グ ロ ー バ ル	メディアと共生	難民、外国人、性的マイノリティーなど社会の中の少数派とされる人々をメディアがどのような視点で取り上げているかに焦点を置き、その報道ぶりを検証。彼ら少数派との「共生」に実現に向け、メディアが果たすべき役割を考える。
		ヨーロッパ都市文化史演習 I	ヨーロッパの都市における文化の意義、文化活動の可能性とは何か？本演習では、「都市文化マネジメント講義」や「海外研究基礎論」等で得た知見を基に、「海外研究スタジオ」等との連動も図りながら、特にヨーロッパの様々な都市に見られる近世から近代にかけてのコレクションの諸相、さらには当時のヨーロッパが体験した「驚異」のあり方が、都市における美術館や展覧会を通じて発信されることでの文化的共生が図られていったかを、文献購読等も交えつつ詳細に学ぶ。また適宜日本との比較をおこなうことにより、グローバルとローカルの双方の視点の中に、都市文化史を捉える視座を涵養する。
		ヨーロッパ都市文化史演習 II	ヨーロッパの都市における文化の意義、文化活動の可能性とは何か？本演習では、「ヨーロッパ都市文化史演習 I」を踏まえつつ、都市文化マネジメント講義」や「海外研究基礎論」等で得た知見を基に、「海外研究スタジオ」等との連動も図りながら、特に音楽祭等のフェスティヴァルを具体的事例として引用しながら、近代から現代に至るまでのヨーロッパ諸都市に見られる文化発信の方法、グローバル性とローカル性の融合を通じた文化共生の諸相を、文献購読等も交えつつ詳細に学ぶ。また適宜日本との比較をおこなうことにより、都市文化史を捉える多角的視座を涵養する。
		横浜都市文化史演習 I	本演習は、学部共通科目である地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】や地域連携と都市再生B【かながわ地域学】の学びをもとに、国際港都・横浜の開港前後からの約160年の都市形成史を背景にしながら、横浜という都市の文化的特徴を歴史的視点から学ぶ。とくに、初期からの「異国性」「国際性」「先端性」の様相と、「居留地」や「伊勢佐木町」にはじまる繁華地形成の様相に焦点を当て、横浜の都市文化史の根幹にある特徴を学生たちに知ってもらう。加えて、例えば「伊勢佐木町」にかつてあった盛り場としての場所構造が失われて衰退した事例等によりながら、歴史的に変遷する都市の文化動態や文化資源の再評価、再活性化の問題を、現地の実態観察調査、関係者ヒアリングや地域関係者のレクチャーをふまえて解決策について討議し成果をまとめる。
		横浜都市文化史演習 II	本演習は、学部共通科目である地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】や地域連携と都市再生B【かながわ地域学】の学びをもとに、演習は、横浜都市文化史演習 I を踏まえ、横浜が歴史的に外国や異文化と接する先端であったことよって起こった「文化接触、文化摩擦、文化共生・文化変容」の問題をとりあげる。こうした都市横浜の歴史的な文化経験は、学生が今日のグローバル化の根幹を理解するためにも有効と考える。グローバルとローカル、インターナショナルとナショナル、対外意識と日本意識、異国形象と自国形象、西洋化と日本文化の再創造など、これらの並立、相克、共生・変容の問題を、現地でのヒアリング調査、地域関係者のレクチャーをふまえて討議し成果をまとめる。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	コ ア ー カ ル ／ グ ロ ー バ ル	コミュニティ論演習Ⅰ	古今東西のコミュニティ論者(マッキーバー、トクヴィル、ジェイコブズ、ベルク、デランティ等)の著作を輪読しながら、コミュニティをめぐる論点の抽出および基本的視角の醸成につとめる。同時に、コミュニティの把握が現代社会のトータルな認識において要となることを、上記の輪読から学び取る。またそうした点で、本演習では古典の「現在性」をさぐり、その応用可能性をみきわめることに力点が置かれている。
			コミュニティ論演習Ⅱ	現代日本のコミュニティをめぐるイシュー(争点)をテキストに準拠して明らかにする。具体的には、防災・防犯(安全安心)、多文化共生、自治・分権、まちづくり、ソーシャル・キャピタル等に関連してコミュニティの位相を解き明かしていく。そして各自のフィールド設定の際の基本的枠組み、作業手順、成果集約方法等について検討する。なお、本演習はコミュニティ論演習Ⅰとセットとなっている。
			ジェンダー社会論演習Ⅰ	演習形式で行う。ジェンダー社会論を、労働の観点から検討する。労働を、市場労働と家事労働(再生産労働)から成るものとし、各自の問題関心に従って、文献購読や生活時間調査などの資料収集・分析を行い、報告する。現代日本社会における、市場労働と家事労働の性別による分担の程度、それと女性の賃金や管理職比率、雇用形態との関わり、日本型雇用慣行の形成の経緯、女性労働運動の歴史等について議論し、日本社会における女性の働き方について、検討する。
			ジェンダー社会論演習Ⅱ	演習形式で行う。ジェンダー社会論を、身体論の観点から検討する。各自の問題意識に従い、性教育・避妊・妊娠・出産・生殖医療等の生殖に関わる問題、性暴力やセクシュアリティ・ポルノグラフィ等性に関わる問題、服装や化粧、美容整形等外見に関わる問題等に関し、文献購読やメディア分析等に基づいて、報告を行う。現代日本社会における、ジェンダーと身体をめぐるコミュニケーション齟齬について議論し、情報提供のあり方等について検討する。
			政治社会学演習Ⅰ	この演習では、政治社会学の基本的な考え方や基礎知識を身につけるために、基本文献を輪読し、そこでの理解を踏まえて、ディスカッションやディベートをおこない、現代の都市や社会の政治的諸現象に対するアプローチの方法を体得する。とりあげる文献は、狭義の政治社会学というよりは、政治を社会の中に位置づけて理解するという発想を大事にした古典的著作とする。テーマとしては、「都市とデモクラシー」、「ガバナンス」、「都市と社会運動」などが考えられる。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目  コ ア レ ー カ ル ／ グ ロ ー バ ル	政治社会学演習Ⅱ	「ガバメントからガバナンス」という標語が人口に膾炙するようになって久しいが、統治を政府（ガバメント）が一元的・独占的に担うのではなく、官民の諸セクターがネットワークを構築しながら協調して実現する（ガバナンス）という方向への社会改革が、この30年ほどの間に大きく進んだ。この演習では、日本の都市・地域におけるガバナンスに関する専門書の講読を通じて、その実態を知り、これからの課題を考える。受講者数その他の条件が許せば、現地見学や簡単な調査もおこなう。	
		グローバル情報発信演習Ⅰ	これからのグローバル社会では、これまでの経済学や社会学の概念では説明がつかないサイバー社会との融合の時代を迎える。この授業では、次世代におけるアイデンティティ情報の形成と発信の演習を通じて、サイバー技術を都市社会の基盤システムに取り込んだこれからの多次元型グローバル社会におけるリスク共生のために必要な知識と技術を習得することを目的とする。	英語
		グローバル情報発信演習Ⅱ	サイバー技術をインフラに取り込んだこれからの多次元型グローバル社会では、行きかい・蓄積されていく情報と実態を新たなメタ認知階層としてとらえ、プロアクティブに共生していくかが課題となる。この授業では、多次元型グローバル社会におけるメタ認知の情報処理演習を通じて、これからの社会に必要な知識と能力を習得することを目的とする。	英語
		広告芸術演習AⅠ	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この授業では、効果的なプレゼンテーションの基礎として、広告対象層へ瞬時に情報発信する広告芸術の基本を視覚的效果（主として写真）とキャッチコピーの2面からの取組みにより学習することを目的としている。	英語
		広告芸術演習AⅡ	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この授業では、効果的なプレゼンテーションの基礎として、広告対象層へ瞬時に情報発信する広告芸術の基本を視覚的效果（主としてイラスト）とキャッチコピーの2面からの取組みにより学習することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部教育科目	専門科目 コア ローカル／グローバル	広告芸術演習B I	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この授業では、専門職の広告クリエイターの指導の下、世界共通スタンダードの広告理論に基づき、聴衆対象を共感させる効果的なプレゼンテーションの実践技法を目的として、①独自性、②差別化の切り口、③裏打ちされた技術と信頼、そしてなによりも④共感性に関する基本的な概念の設計と応用原理を修得することを目的としている。	英語
		広告芸術演習B II	世界中のどこの国や地域においても広告は存在しており、グローバルビジネスにおいて広告は当該国・地域におけるコミュニケーションやプレゼンテーションの文化や習慣が反映・象徴されている。この授業では、専門職の広告クリエイターの指導の下、日本固有の広告文化を中心に、聴衆対象を共感させる効果的なプレゼンテーションの実践技法を目的として、①独自性、②差別化の切り口、③裏打ちされた技術と信頼、そしてなによりも④共感性に関する基本的な概念の設計と応用原理を修得することを目的としている。	英語
		多民族都市文化共生演習	社会のグローバル化やダイナミック化は、伝統的に形成されてきた都市や生活体系とは異なる発展がある。この授業では、グローバル社会に都市で生活していくコミュニティーや構成員の民族や歴史的背景が、どのように、新しい時代の生活・文化・習慣を作っていくかについて、インタビューや施設訪問を通じて学習することを目的としている。	英語
		横浜都市文化共生演習	社会のグローバル化やダイナミック化は、伝統的に形成されてきた都市や生活体系とは異なる発展がある。この授業では、アジアのゲートウェイとして発展してきた横浜を例に都市科学のダイナミズムとクリエイティブシティ形成に関する理解と実習をすることにより、グローバル・ローカル時代の都市社会共生について学習することを目的としている。	英語
		スタジオ	海外研究スタジオA I	海外研究スタジオA Iでは、ヨーロッパにおける都市およびその周辺部における文化問題や文化政策を取り上げ、研究のための基礎的な知見と技法（文献およびフィールド調査）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、関連文献調査を通して論点をまとめたレポートの作成を目指して活動を進める。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。関連文献調査を通して論点をまとめたレポートの達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	スタ ジ オ	海外研究スタジオA II 海外研究スタジオA IIでは、ヨーロッパにおける都市およびその周辺部における文化問題や文化政策を取り上げ、研究のための応用的な知見と技法（フィールド調査の実施）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画書に基づいたフィールドサーベイを実施（あるいは教員が引率するJASSOショートビジットプログラムに参加）し報告書の作成を目指して活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。フィールドサーベイもしくはショートビジットプログラムにおけるパフォーマンスと報告書の達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			海外研究スタジオA III 海外研究スタジオA IIIでは、ヨーロッパにおける都市およびその周辺部における文化問題や文化政策を取り上げ、フィールド調査から得られたデータその他結果の分析及びフィードバック技法を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、実施されたフィールド調査の結果を分析する手法を学び、再度のフィールド調査を実施するか、または得られた結果をフィードバックする活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			海外研究スタジオA IV 海外研究スタジオA IVでは、ヨーロッパにおける都市およびその周辺部における文化問題や文化政策を取り上げ、研究のための応用発展的な知見と技法（フィールド調査の総括と発信）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、フィールドサーベイ結果に基づいてさらに論点を掘り下げた課題の総括レポートの作成、もしくは関連テーマによる公開型の討論会の企画実施を目指して活動を進める。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。総括レポートの達成度もしくは討論会でのパフォーマンスにもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	スタ ジ オ	海外研究スタジオB I  海外研究スタジオB Iでは、日本を含む東アジアの歴史問題、ラテンアメリカの都市と農村部における社会・経済問題を取り上げ、研究のための基礎的な知見と技法（文献およびフィールド調査）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、関連文献調査を通して論点をまとめたレポートの作成を目指して活動を進める。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。関連文献調査を通して論点をまとめたレポートの達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			海外研究スタジオB II  海外研究スタジオB IIでは、日本を含む東アジアの歴史問題、ラテンアメリカの都市と農村部における社会・経済問題を取り上げ、研究のための応用的な知見と技法（フィールド調査の実施）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画書に基づいたフィールドサーベイを実施（あるいは教員が引率するJASSOショートビジットプログラムに参加）し報告書の作成を目指して活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。フィールドサーベイもしくはショートビジットプログラムにおけるパフォーマンスと報告書の達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			海外研究スタジオB III  海外研究スタジオB IIIでは、日本を含む東アジアの歴史問題、ラテンアメリカの都市と農村部における社会・経済問題を取り上げ、フィールド調査から得られたデータその他結果の分析及びフィールドバック技法を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、実施されたフィールド調査の結果を分析する手法を学び、再度のフィールド調査を実施するか、または得られた結果をフィールドバックする活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度にもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育科目	専門科目 スタジオ	海外研究スタジオB IV	海外研究スタジオB IVでは、日本を含む東アジアの歴史問題、ラテンアメリカの都市と農村部における社会・経済問題を取り上げ、研究のための応用発展的な知見と技法（フィールド調査の総括と発信）を身に付ける。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、フィールドサーベイ結果に基づいてさらに論点を掘り下げた課題の総括レポートの作成、もしくは関連テーマによる公開型の討論会の企画実施を目指して活動を進める。途中で2回ほどの中間講習会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、総括レポートの達成度もしくは討論会でのパフォーマンスにもとづき、担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
		社会文化批評スタジオA I	「社会文化批評分析スタジオA」では、社会的事象を取り上げる。横浜という都市をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なるルポルタージュなども含む「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。「社会文化批評スタジオA I」では、2年生を対象に、冊子の企画・編集の基礎的実践の試みとして、A4 1枚程度の紙面を2回作成する。初回に担当予定教員から課題提示を行い、班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講習会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講習会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
		社会文化批評スタジオA II	「社会文化批評分析スタジオA」では、社会的事象を取り上げる。横浜という都市をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なるルポルタージュなども含む「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身が横浜に関する一定のテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオA II」では、2年生を対象に、冊子の企画・編集の応用的実践の試みとして、A4見開きの紙面を2回作成する。初回に担当予定教員から課題提示を行い、班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講習会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講習会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	社会文化批評スタジオA III 「社会文化批評分析スタジオA」では、社会的事象を取り上げる。横浜という都市をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なるルポルタージュなども含む「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身が横浜に関する一定のテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオA III」は発展的段階と位置づけ、受講者が設定したテーマを冊子体でまとめることを目標とする。初回に担当予定教員から課題提示を行い、班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			社会文化批評スタジオA IV 「社会文化批評分析スタジオA」では、社会的事象を取り上げる。横浜という都市をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なるルポルタージュなども含む「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身が横浜に関する一定のテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオA IV」ではスタジオでの実践の総合段階と位置づけ、冊子体で受講者が設定したテーマをまとめることを目標とする。初回に担当予定教員から課題提示を行い、班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			社会文化批評スタジオB I 「社会文化批評分析スタジオB」では、文化・芸術上の事象を取り上げる。現代文化（主に文芸、音楽、映画）をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なる「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身がテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオB I」では、2年生を対象に冊子の企画・編集の基礎的実践の試みとして、A4 1枚程度の紙面を2回作成する。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	社会文化批評スタジオB II 「社会文化批評分析スタジオB」では、文化・芸術上の事象を取り上げる。現代文化（主に文芸、音楽、映画）をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なる「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身がテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオB II」では、2年生を対象に冊子の企画・編集の応用的実践の試みとして、A4見開きの紙面を2回作成する。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			社会文化批評スタジオB III 「社会文化批評分析スタジオB」では、文化・芸術上の事象を取り上げる。現代文化（主に文芸、音楽、映画）をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なる「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身がテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオB III」は発展的段階と位置づけ、受講者が設定したテーマを冊子体でまとめることを目標とする。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			社会文化批評スタジオB IV 「社会文化批評分析スタジオB」では、文化・芸術上の事象を取り上げる。現代文化（主に文芸、音楽、映画）をフィールドに、講義科目での学修と演習科目での発展・深化をもとに、これを従来の課題レポートとは異なる「批評」としてより実践的にアウトプットすることを目指して活動を進める。具体的には、参加者自身がテーマを決めて冊子の企画・編集を実践する。「社会文化批評スタジオB IV」ではスタジオでの実践の総合段階と位置づけ、受講者が設定したテーマをまとめることを目標とする。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。各班で、担当教員の指導のもと、企画・編集作業を実践する。途中で2回ほどの中間講評会を行い、最終回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。冊子製作の達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	スタ ジ オ	<p>社会分析スタジオA I</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。導入にあたる「I」では、他の社会調査関連の講義と連携しつつ、質的・量的調査の結果や報告書・学術書を理解するための基本的な知識を身につけることを目指す。そのため基本的な統計概念・分析方法、量的データ・質的データの解説・作成の仕方、報告書作成に必要なデータ整理などを身につけ、調査報告書・学術書を批判的に読むことを習得する。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>
			<p>社会分析スタジオA II</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。「II」では、量的調査と質的調査に分かれ、それぞれの方法について解説する。受講生が自身の興味関心をもとに、量的調査か質的調査のどちらかを選択し、それぞれの手法の基本的な考え方や実際の調査手順、データの読み方と解釈する際の留意点などについて理解し、受講生自身の手で量的あるいは質的調査を行うことができるようになることを目的とする。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>
			<p>社会分析スタジオA III</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。3年次を対象とした「III」と「IV」では、調査の立案からデータ分析、報告書の作成に至る社会調査の過程を、ひととおり実習形式の授業を通して実践的に学ぶ。前半部にあたる「III」では、履修学生各自が担当教員とともに調査テーマを設定し、調査計画の作成や調査・分析対象の選定、データベースの作成から分析の実施に至る過程を行う。なお、質的調査を選択する学生は、本スタジオ「A」を選択すること。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	<p>社会分析スタジオA IV</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。3年次を対象とした「Ⅲ」と「Ⅳ」では、調査の立案からデータ分析、報告書の作成に至る社会調査の過程を、ひととおり実習形式の授業を通して実践的に学ぶ。後半部にあたる「Ⅳ」では、「Ⅲ」で作成した調査計画に基づき、引き続き調査を進めるとともに、調査を通して得たデータの分析を行う。そして、学期末には調査成果に関する発表会を行うとともに、調査の結果をまとめて報告書を執筆する。なお、質的調査を選択する学生は、本スタジオ「A」を選択すること。</p>	共同 演習 30時間 実習 30時間
			<p>社会分析スタジオB I</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。導入にあたる「Ⅰ」では、他の社会調査関連の講義と連携しつつ、質的・量的調査の結果や報告書・学術書を理解するための基本的な知識を身につけることを目指す。そのため基本的な統計概念・分析方法、量的データ・質的データの解説・作成の仕方、報告書作成に必要なデータ整理などを身につけ、調査報告書・学術書を批判的に読むことを習得する。</p>	共同 演習 30時間 実習 30時間
			<p>社会分析スタジオB II</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。「Ⅱ」では、量的調査と質的調査に分かれ、それぞれの方法について解説する。受講生が自身の興味関心をもとに、量的調査か質的調査のどちらかを選択し、それぞれの手法の基本的な考え方や実際の調査手順、データの読み方と解釈する際の留意点などについて理解し、受講生自身の手で量的あるいは質的調査を行うことができるようになることを目的とする。</p>	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	スタ ジ オ	<p>社会分析スタジオB III</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。3年次を対象とした「Ⅲ」と「Ⅳ」では、調査の立案からデータ分析、報告書の作成に至る社会調査の過程を、ひととおり実習形式の授業を通して実践的に学ぶ。前半部にあたる「Ⅲ」では、履修学生各自が担当教員とともに調査テーマを設定し、調査計画の作成や調査・分析対象の選定、データベースの作成から分析の実施に至る過程を行う。なお、量的調査を選択する学生は、本スタジオ「B」を選択すること。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>
			<p>社会分析スタジオB IV</p> <p>社会分析スタジオでは、グローバル化の中で都市が内包する、貧困、多文化共生や対立、そしてそれらに関連する社会政策について、人々の意識の在り方や変化、対立の原因や政策の効果を調査する方法を学ぶ。特に、担当予定教員がそれぞれ専門とする質的調査（社会学・人類学、A科目に相当）や量的調査（社会学・政治学、B科目に相当）を幅広く取り上げることで、本スタジオを通じて、最終的に受講者が希望する調査方法のいずれかを選択し分析の成果を報告することを目的とするだけでなく、質的調査及び量的調査を用いた調査報告や研究成果の双方を、苦手意識なく理解できるようにすることを目的とする。3年次を対象とした「Ⅲ」と「Ⅳ」では、調査の立案からデータ分析、報告書の作成に至る社会調査の過程を、ひととおり実習形式の授業を通して実践的に学ぶ。後半部にあたる「Ⅳ」では、「Ⅲ」で作成した調査計画に基づき、引き続き調査・分析を進めるとともに、「Ⅲ」で行った簡単な分析の結果から得られた知見をもとに新たなデータの収集や分析手法の改善を適宜行う。そして、学期末には調査成果に関する発表会を行うとともに、調査の結果をまとめて報告書を執筆する。なお、量的調査を選択する学生は、本スタジオ「B」を選択すること。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>
			<p>文化創成スタジオA I</p> <p>文化創成スタジオAでは、先鋭的な芸術・文化活動や関連する批評的・創造的言説に精通し、制作・活動の講評経験も蓄積する担当教員の指導のもと、空間芸術・現代芸術・映像社会・現代ポピュラー文化の四領域から、芸術・文化の作品に内在する側面に焦点をあてたプロジェクトを取り上げ、自ら取り組む。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。この「文化創成スタジオA I」では各班で関連文献調査などを通し、自らの問いに応じて論点を編集したレポートの完成を目指して活動を進める。途中に2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。</p>	<p>共同 演習 30時間 実習 30時間</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	文化創成スタジオA II 「文化創成スタジオA II」では「A I」で提出した論点レポートをもとに、フィールド調査を企画し、関連する手法を学び企画書ないし作品・活動のプロトタイプを作成することを目指して活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			文化創成スタジオA III 「文化創成スタジオA III」では「A II」で提出した企画書ないしプロトタイプに基づいたフィールドサーベイを実施し、作品・活動の試作・試行を実践する。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			文化創成スタジオA IV 「文化創成スタジオA IV」では「A III」で提出したフィールドサーベイや作品・活動の試作・試行実践の上に立ち、さらに論点を掘り下げた課題の総括レポートを作成あるいは、試作作品・試行活動のブラッシュアップを行い、公開活動を通じて最終的な仕上げを行う。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			文化創成スタジオB I 文化創成スタジオBでは、先鋭的な芸術・文化活動や関連する批評的・創造的言説に精通し、制作・活動の講評経験も蓄積する担当教員の指導のもと、空間芸術・現代芸術・映像社会・現代ポピュラー文化の四領域から、芸術・文化をめぐる社会・歴史の側面に焦点をあてたプロジェクトを取り上げ、自ら取り組む。初回に担当予定全教員から課題提示を行い、担当教員ごとの班分けを行う。この「文化創成スタジオB I」では各班で関連文献調査などを通し、自らの問いに応じて論点を編集したレポートの完成を目指して活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			文化創成スタジオB II 「文化創成スタジオB II」では「B I」で提出した論点レポートをもとに、フィールド調査を企画し、関連する手法を学び企画書ないし作品・活動のプロトタイプを作成することを目指して活動を進める。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	文化創成スタジオB III	「文化創成スタジオB III」では「B II」で提出した企画書ないしプロトタイプに基づいたフィールドサーベイを実施し、作品・活動の試作・試行を実践する。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			文化創成スタジオB IV	「文化創成スタジオB IV」では「B III」で提出したフィールドサーベイや作品・活動の試作・試行実践の上に立ち、さらに論点を掘り下げた課題の総括レポートを作成あるいは、試作作品・試行活動のブラッシュアップを行い、公開活動を通じて最終的な仕上げを行う。途中で2回の中間講評会を行い、最終の2回では、すべての班が集合し、本スタジオ担当全教員参加のもとで、すべての班の成果報告、講評会を行う。達成度合いに基づいて、各教員の視点に基づいて担当教員全員の合議で各学生の成績評価を行う。	共同 演習 30時間 実習 30時間
			グローバルビジネス管理・運営スタジオ	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、その基本的な概念の設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営には様々なことを考慮する必要がある。このスタジオでは、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの管理・運営に関するコンサルティング・プロジェクトの実習を通じて、次世代のグローバルビジネスの管理・運営に関する知識と能力を修得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			グローバルビジネス広報PRスタジオ	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、その基本的な概念の設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営には様々なことを考慮する必要がある。この授業は、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの広告・広報・PRに関するプロジェクトの実習を通じて、次世代のグローバルビジネスの広告・広報・PR必要とされる知識と能力を修得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			グローバルビジネス創成スタジオ	これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場上における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、その基本的な概念の設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営は様々なことを考慮する必要がある。このスタジオは、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの創造的で革新的な基本概念と応用の設計に関するプロジェクトと実習を通じて、次世代のグローバルビジネス創成の知識と能力を修得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	ス タ ジ オ	グローバルビジネス分析評価スタジオ これからのグローバルビジネスでは、世界共通概念によるコミュニケーションと、世界市場における差別化の追及という、一見相矛盾することに着手することになり、その基本的な概念の設計や市場調査分析、あるいは、その管理運営は様々なことを考慮する必要がある。このスタジオは、これからのグローバルリーダーやグローバルファシリテーターとして必要となる基本的なグローバルビジネスの市場性の調査と評価分析に関するプロジェクトの実習を通じて、次世代のグローバルビジネスの評価分析に関する知識と能力を修得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			グローバルリーダーシップ入門スタジオ これからのグローバル社会において、クリエイティブシティーにおける協働とリーダーシップは重要な観点である。この授業では、クリエイティブシティーの特徴と、これからの協働とリーダーシップに必要な知識と能力について、講義と実習を通して習得することを目的とする。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			コラボレーティブ・アソシエイトシップ・スタジオ これからのグローバル社会においては、さまざまな背景を持つ構成員との協働が重要な観点となる。この授業では、集団の雰囲気作りや組織風土作りの上で核となる秘書やマネージャーに必要なアソシエイトシップに関する知識と能力を習得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			コラボレーティブ・スターディーズ・スタジオ これからのグローバル社会においては、さまざまな背景を持つ構成員との協働が重要な観点となる。この授業では、異なる国籍や文化背景を持つ集団構成や上下関係の中の協働をテーマに、協働・非協働によるビジネス成果の違いについて学習することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同
			リーダーシップ・ファシリテーション・スタジオ これからのグローバル社会においては、さまざまな背景を持つ構成員との協働が重要な観点となり、集団の雰囲気作りや組織風土作りの運営方法やファシリテーションによって、集団の成果は大きく左右される。このスタジオでは、グローバルリーダーやグローバルファシリテーターに必要な知識と能力を習得することを目的としている。スタジオ運営では、初回に参加学生と個別に課題を設定し、中間時と最終時に全教員および全学生参加のもとで、講評会を開催し、参加教員の多面的な視点からの評価を行う。	英語、共同

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 教育 科目	イン ター ン シ ッ プ	インターンシップA	都市社会共生学科では、大学における教育と実社会の接点を実践的に考える機会として、国内や海外の関連組織（民間企業、政府機関やNPOなど）におけるインターンシップやボランティア活動を推奨する。そのため、学科で定めた条件に基づき、学生のインターンシップやボランティアの経験を単位認定する。認定の対象となる活動については、学生が履修するスタジオ科目の担当教員の推薦をもとに決定する。
		インターンシップB	都市社会共生学科では、大学における教育と実社会の接点を実践的に考える機会として、国内や海外の関連組織（民間企業、政府機関やNPOなど）におけるインターンシップやボランティア活動を推奨する。そのため、学科で定めた条件に基づき、学生のインターンシップやボランティアの経験を単位認定する。認定の対象となる活動については、学生が履修するスタジオ科目の担当教員の推薦をもとに決定する。
	関 連 科 目	イノベーション思想史Ⅰ	この授業では、中国で独自に発展した中国医学の思想と歴史を講義することを通じて、文化の中にあるイノベーションとリスクのあり方について理解を深めることを目的とする。中国の伝統的医学は過去のものではなく、現在においても鍼灸治療・漢方治療として生きているものである。中国医学の考え方をすることは、現代人の健康上のリスクを回避する点において一定の貢献をなすものと思われる。中国医学を知ることにより、異なる文明の下に異なるリスク観、リスク対処法があり得ることを学び、イノベーションやリスク対応の社会的・文化的受容の差異について考える。
		イノベーション思想史Ⅱ	この授業では、中国医学に基づき発展した日本の医学について講義する。この講義を通じてさらに文化の中にあるイノベーションとリスクのあり方について理解を深めることを目的とする。日本の医学は中国を受け入れながら発展したものであるが、それが大きな展開を見せるのは室町時代末期から江戸時代である。この時期の医学が現在の鍼灸および漢方に直接的につながるのである。また江戸時代後期にはいわゆる蘭学として西洋医学が導入され、さらに多くの医学的議論がなされている。このような医学の歴史をたどることで、イノベーションやリスク対応の社会的・文化的受容の差異について考える。
		グローバル・エコノミー入門	現代におけるグローバル経済の動向について、多様な分析視角を提供することを目的とする。様々な国・地域を取り扱う際には、「経済システム」という考え方が有効である。経済システムにおける多様性を比較・検討することにより、多様な経済システムの特徴を比較することができるようになる。また、各国・各地域における産業ごとの特性を把握し比較することができるようになる。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	関 連 科 目	経営戦略論	<p>企業の基本的方向を設定する経営戦略を理論的に実践的に明らかにすることを旨とする。日本企業や欧米企業の事例を踏まえつつ、経営戦略の考え方、経営戦略の過程（分析・形成・実行・統制・改善・変革）を総合的に明らかにし、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略に関する枠組や考え方を修得し、他者に説明することができる。</li> <li>・実際の経営戦略についてその考え方を適用することができる。</li> <li>・常識的に考えられていた経営戦略を見直すことができる。</li> <li>・経営戦略の基本的専門知識を習得することができるとともに経営戦略に関わる現実を多面的に捉える事ができる。</li> <li>・経営戦略に関わる問題や課題を発見する能力を育成することができる。</li> </ul>	
			合意形成論	<p>計画や政策の作成、インフラ整備やまちづくりにおいて、様々な利害を持つ関係者とコミュニケーションを取りつつ、合意形成をはかるための、合意形成の理論、方法についての基礎知識をつけることを目的として講義を行う。講義においては、ロールプレイなども用いて、合意形成の実践についての理解を促す。</p>	
			国際経営論Ⅰ	<p>国境を越えた事業活動で経営成果を実現することは、規模や地域に関わらず、企業の重要な経営課題の一つとなっている。本講義は、国際化という環境下における企業経営のあり方について説明するものである。基盤となる理論をベースに、具体的な事例（ケース）を取り入れながら講義を進めることで、理解を深める。</p> <p>国際経営論Ⅰでは、企業はなぜ海外に進出するようになったのか、企業の国際化の論理を理解することからスタートする。多国籍企業の歴史的展開、多国籍企業の理論等、国際経営に関わるマクロ的な側面を中心に取り上げ、解説する。</p>	
			国際経営論Ⅱ	<p>国境を越えた事業活動で経営成果を実現することは、規模や地域に関わらず、企業の重要な課題の一つとなっている。国際経営論Ⅱでは、国際経営のミクロ的な側面を中心に、国際拠点の配置、海外子会社のマネジメント、国際的な製品戦略等を理解する。</p> <p>世界中に拡大する事業活動をいかに効果的にマネジメントするか、国際経営に関わる特有の課題、近年盛んに議論されている課題についても取り上げ、理解を深める。</p>	
			国際法	<p>本授業は、「国際法Ⅱ」とペアをなして、国際法分野についての一通りの理解を目指す。「国際法Ⅱ」が領域、海洋、空域、宇宙などの領域・空域、国際経済・環境法、平時と戦時の境目における国際法の有り様である紛争解決・安全保障の問題、戦争法規について考察するのに対して、本授業は、平時における国際法についての総論的な考察、すなわち、国際法の定義と歴史、国際法の主体、国際法の法源、国際法と国内法の関係、国家の基本的権利義務と管轄権及び（国家）領域について考察し、平時における国際法のあり方や役割についての一通りの理解を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市科学部都市社会共生学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部教育科目 専門科目 関連科目	社会環境リスク共生概論A (都市環境)	現代の都市化に関する多面的な理解とともに、それによって引き起こされる都市問題を学習するとともに、諸問題の解決策が見出されている都市の可能性についても、事例を通じて学習する。具体的には、都市化と生態系(156 小池/2回)、高層高密度化(【マル52】 佐土原/2回)、高度情報化(158 徐/1回)、エネルギーと都市環境の変化(169 鳴海/2回)、化学物質や汚濁負荷によるリスクの増大(163 小林/1回)などをとりあげる。	オムニバス
	リスク共生社会基礎論	本科目は、都市社会におけるリスク共生の考え方を理解するための基礎的素養を身につけることを目的とする。工学、経済学、経営学および社会学等の複数の学問領域から、都市社会におけるさまざまなリスクが発生するメカニズムを学び、さまざまなリスクと社会環境の共生およびさまざまなリスクの間の共生のためのマネジメントの手法を学ぶ。具体的には、イノベーションに伴う不確実性に対処する工学的な意思決定技術としてのリスクのマネジメント(【マル152】野口)、地域社会の経済活動の集密化に起因するイノベーションとリスクのトレードオフ(【マル158】遠藤)、都市社会を運営する組織行動に関わる目標設定・動機付けなどともなる経営リスクとその効果的マネジメント(【マル150】周佐)、社会の多様性や多元性に起因するリスクの特性と共生に向けた合意形成の可能性(＜兼任補充可＞)などをとりあげる。	オムニバス
	西洋建築史Ⅰ	西洋建築史では、地中海周辺という地域的な枠組みの中で、古代文明から近世にかけての建築の歴史の大きな流れを理解することを目的とする。西洋建築史Ⅰでは特に、エジプトやメソポタミアの古代文明の建築、古代ギリシア・ローマの建築、初期キリスト教とビザンツ帝国の建築、初期イスラーム建築、ロマネスク建築を対象とする。各時代の社会背景や思想を踏まえつつ、建築様式の特徴や変遷、それを可能にした建築技術の展開、異文化間の建築技術交流や相互影響についても学び、建築や都市の歴史的展開に対する幅広い視野を獲得する。	
	西洋建築史Ⅱ	西洋建築史では、地中海周辺という地域的な枠組みの中で、古代文明から近世にかけての建築の歴史の大きな流れを理解することを目的とする。西洋建築史Ⅱでは特に、ゴシック建築、中世の西洋都市やアナトリア地域の建築、ルネサンス・マニエリスム・バロック・ロココ建築を対象とする。ヨーロッパ社会の周縁であるアルメニアやジョージアの傍流としてのキリスト教建築、西洋との緊密な関係にあるイスラームの建築も学ぶことで、いわゆる西洋という枠組みを超え、地理的・時間的な広がりの中での建築や都市の歴史的展開の理解を深める。	
	都市計画とまちづくりⅠ	都市にかかわる主体である行政、民間事業者、市民それぞれの役割について、さまざまな計画、事業等を学びながら理解する。まず、行政が中心となって一般的に行われている都市計画を計画制度、規制制度、事業制度の3つの面から概説し、具体事例の紹介を通して市街地の制御や街並み形成等がいかに再生産されているか、課題は何かを講じる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専門 科目	関連 科目	都市計画とまちづくりⅡ	都市にかかわる主体である行政、民間事業者、市民それぞれの役割について、さまざまな計画、事業等を学びながら理解する。本講義では、まず民間事業者等が中心となるさまざまな都市開発事業について理解を深めたのちに、市民・住民が主体的に参画するようになった近年のまちづくりをとりあげ、成熟社会に入った日本のこれからの都市計画について考察する。	
			都市交通計画	都市における交通計画を取り上げ、その歴史や現状と課題を概観するとともに、交通需要予測の基本的手法を紹介する。さらに、公共交通、道路交通、交通結節点での計画論、交通需要マネジメントなど新しい計画論について概観する。都市交通計画の考え方については、学生によるプレゼンテーションをベースとした講義を行う。	
			途上国における都市づくりⅠ	アジア地域の開発途上国及び新興国において都市づくりを行う上で基本となる知識として、都市づくりの背景となる理論、制度や歴史について理解することを目的とする。具体的には、都市の成長、経済成長、都市計画制度、ガバナンス、都市の形成史、市民社会についての、基礎理論及びアジア開発途上国・新興国での現状、課題などについて講義する。	
			途上国における都市づくりⅡ	アジア地域の開発途上国及び新興国において都市づくりを行う上で基本となる知識として、各分野（交通、防災、貧困と住宅、都市環境、都市開発におけるファイナンス）におけるアジア開発途上国・新興国の都市の抱える諸課題とその背景、対応策、そしてアジア開発途上国・新興国の都市づくりへの国際協力の現状と課題について講義する。	
			土木史と文明Ⅰ	土木技術の発展なしには文明は発達せず、文明の発展につれて土木技術も発達してきた。土木工学と文明との関わりを歴史的に学び、土木史を通して世界の文明史を学ぶ。歴史に興味を持ち、高い志を持って土木技術者として社会で活躍するための素養を身に付ける。さらに、土木技術者として身に付けるべき倫理についても学ぶ。建設材料、橋梁、トンネル、都市の発展と巨大化、自然災害、高速道路等の歴史について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	関連 科目	土木史と文明Ⅱ	土木技術の発展なしには文明は発達せず、文明の発展につれて土木技術も発達してきた。土木工学と文明との関わりを歴史的に学び、土木史を通して世界の文明史を学ぶ。歴史に興味を持ち、高い志を持って土木技術者として社会で活躍するための素養を身に付ける。さらに、土木技術者として身に付けるべき倫理についても学ぶ。鉄道、運河、港湾、都市、農業と灌漑等の歴史について学ぶ。
			日本建築史Ⅰ	日本の建築はその風土にねざし、適当な時期に大陸から新しい様式を摂取して、木造建築における高度な建築文化を形成してきた。その意匠および構造・技術の変化を年代を追って建築類型ごとに把握し、建築家として必須の素養を培う。講義は、先史時代～古代における我が国建築文化の流れを、画期における重要遺構の解説を中心に、最近の研究動向や史料の紹介を加えながら進める。具体的には、上古の住居と集落、飛鳥・奈良・平安各時代の寺院建築、古代の神社建築、古代の都市と住宅、などを講じる
			日本建築史Ⅱ	日本の建築はその風土にねざし、適当な時期に大陸から新しい様式を摂取して、木造建築における高度な建築文化を形成してきた。その意匠および構造・技術の変化を年代を追って建築類型ごとに把握し、建築家として必須の素養を培う。講義は、中世～近世における我が国建築文化の流れを、画期における重要遺構の解説を中心に、最近の研究動向や史料の紹介を加えながら進める。具体的には、中世の寺院建築、中世の神社建築、中世の都市と住宅、近世の城郭と寺社建築、書院造、数寄屋などを講じる。
			人間生活と建築計画Ⅰ	建築計画のための一般基礎理論を講じる。様々な種類の建築を設計・計画するための共通する計画概念や方法が確立され理論化されており、これらを実用例を交えて紹介する。生活的要求と建築空間のあり方との関係を捉えるこれらの理論の多くは、建築学独自の理論というよりは、社会学、心理学、統計学、医学などの理論を応用し組み合わせたものであり、様々な学問分野、幅広い知識を建築空間へ活用する発想法を講じる。建築計画の概論から始まり、建築計画と調査、計画の方法などについて学ぶ。
			人間生活と建築計画Ⅱ	建築計画のための一般基礎理論を講じる。様々な種類の建築を設計・計画するための共通する計画概念や方法が確立され理論化されており、これらを実用例を交えて紹介する。生活的要求と建築空間のあり方との関係を捉えるこれらの理論の多くは、建築学独自の理論というよりは、社会学、心理学、統計学、医学などの理論を応用し組み合わせたものであり、様々な学問分野、幅広い知識を建築空間へ活用する発想法を講じる。寸法計画、規模計画、安全計画などについて学ぶ

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専 門 科 目	関 連 科 目	マクロ経済学入門	「国民所得」、「失業」、「インフレーション」など、マクロ経済学における基本項目を理解する。一般教養としてのマクロ経済学を理解することで、経済記事・雑誌を無理なく読むことができるようになる。
			ミクロ経済学入門	ミクロ経済学は、与えられた経済環境下において、個々の経済主体（家計・企業など）がどのように行動するのか（すべきか）という意思決定問題を扱う学問である。そこでは、特に商品価格と主体行動との関係性が重要な論点となってくる。様々な経済現象は関係する経済主体が行動した結果なので、現実の経済問題を考える上でも、ミクロ経済学的な視点は必要となってくる。この講義の目的は、今後より上級の経済学を学んでいくうえで必要な、ミクロ経済学の基礎的知識を習得してもらうことである。これにより実際に起こる経済現象を、経済学的視点で考えられるようになる。
			法学入門	初めて法学を学ぶ受講生に対し、社会生活の多様な場面で機能している法規範とこれを扱う法学の魅力を伝えることを第一の目的としている。しかし、法は決して万能ではないため、人間のもてる倫理・正義感の涵養が何より大切であり、内心からの自己規律と外部からの法的規律の使い分けが肝心である。どうしたら不幸な争いを未然に防げるか、不幸にも起こってしまった争いをどのように解決すれば、最も正義に適っているか、具体的事例に即して受講生とともに考えたい。それこそは、法的思考という法学的センスのトレーニングであり、この講義の第二の目的でもある。
			雇用社会論	日本の雇用慣行について、社会学を中心に経営学など隣接領域の知見を考慮しながら明らかにする。国際比較や日本国内における組織や個人の多様性、歴史を踏まえつつ、日本の雇用慣行の現状と変容を概観し、下記の能力を養う。 ・日本の雇用慣行の特徴について、概念的に説明する能力。 ・日本の雇用慣行の長所と短所について、論理的に説明する能力。 ・日本の雇用慣行に関する一般的理解と実際との違いについて、具体例やデータを踏まえて説明する能力。
			産業社会論	ポスト工業化やグローバル化、少子高齢化など社会の変化に応じて、仕事と生活がどう変化しているのか、社会学を中心に隣接領域の知見を考慮しながら明らかにする。国際比較や日本国内における組織や個人の多様性、歴史を踏まえつつ、日本における仕事の現状と変容を概観し、下記の能力を養う。 ・仕事と生活の相互関係について、概念的に説明する能力。 ・仕事の仕組みが、仕事と生活それぞれに与える影響について、長所と短所の両面から論理的に説明する能力。 ・仕事と生活の変化について、歴史的、国際的な視野から説明する能力。

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	専門 科目	関連 科目	NPO論	本講義では、民間非営利活動の歴史を踏まえたうえで、NPO(民間非営利組織)に関する制度や仕組み、活動の実際などを学ぶとともに、NPOが社会のなかで果たす役割などについて考える。阪神・淡路大震災を機に日本においても民間非営利活動への関心が高まり、現在では、保健・医療・福祉、まちづくり、子育て、環境など多岐にわたる分野でNPOによる活動が展開され、多くの人々が参加するようになっている。受講者によるグループワークを通じて、社会環境の変化により生じる様々な課題に取り組む国内外のNPOについて多面的に検討する。
			現代社会福祉	現代社会における比較福祉政策研究の基礎理論の到達点と課題を把握することを目的とし、国際比較の視点から福祉レジームの特質を検証するための理論的問題を理解する。
			合意形成とリスクⅠ	社会を運営していくためには、個別の行為者の意思を把握し、それを集約し、合意による集団行動が行われる必要がある。これらの過程は、通常「制度」とよばれる定型的な行為様式によって支えられている。制度自体も合意に基づくもので、最終的な強制力を欠いたコミュニケーション過程であることから、社会にとって制度自体がリスクの源泉である。制度とそれが生み出す固有のリスクについて、選好、囚人のジレンマ、自由主義のパラドックスなどのトピックを取り上げて、理解を深める。
			合意形成とリスクⅡ	社会を運営していくためには、個別の行為者の意思を把握し、それを集約し、合意による集団行動が行われる必要がある。これらの過程は、通常「制度」とよばれる定型的な行為様式によって支えられている。制度自体も合意に基づくもので、最終的な強制力を欠いたコミュニケーション過程であることから、社会にとって制度自体がリスクの源泉である。制度とそれが生み出す固有のリスクについて、民主制の不可能性、正義の選択、戦略的操作可能性などのトピックを取り上げて、理解を深める。
			高齢社会とリスクB	この授業では、寿命の伸展による個人の高齢化と長命の高齢者が数でも割合でも多くなる（超）高齢社会への移行に際して生起する社会的な現象や事象について講義し、近未来の高齢者のためにどのような社会のあり方が求められているかを、「リスク」という視点から考察する。本講義では、そのための具体的、実践的な事例を中心にとりあげる。

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	関 連 科 目	ランドスケープ論Ⅰ	ランドスケープアーキテクチャの考えかた・技術・職能像を学び、何気なく自分がたつ地面、そして都市・地域へと繋がる大地の在り様や関わり方をスケール毎に考えていく方法論を講義する。そして、フィールド・サーベイ、建築・都市デザインにも有用な「世界へのまなざし＝ランドスケープ的思考」について課題のプレゼンテーションを通じて身につけることをねらいとする。	
			ランドスケープ論Ⅱ	ランドスケープアーキテクチャの考えかた・技術・職能像を学び、何気なく自分がたつ地面、そして都市・地域へと繋がる大地の在り様や関わり方をスケール毎に考えていく方法論を講義する。そして、フィールド・サーベイ、建築・都市デザインにも有用な「世界へのまなざし＝ランドスケープ的思考」について課題のプレゼンテーションを通じて身につけることをねらいとする。ランドスケープ論Ⅱでは、Ⅰよりもより広い視野を学んでいく。	
			事業計画と知的財産	複数の国に跨るグローバルビジネスを展開するにあたり、商品イメージと商品単価を高らしめる知的財産に関する知識とノウハウは必修のビジネススキルである。最近では、市場調査を行う前の段階から、ネーミングやブランディングを念頭においたビジネス企画や商品開発が行われており、各国の知的財産に関するデータベース等を駆使した市場調査やネーミング戦略が求められている。この講義では、ビジネスの企画段階で見過ごされがちな知的財産とその運用方法に関する知識と技術の修得を目的としている。	英語
			実用ICTプロジェクトとセキュリティ	この講義では、情報メディアやインターネットに関連したデジタルメディアやデバイスアプリケーションの応用製作実習を通じて、高度に発展して行くこれからのサイバー社会におけるICT社会の価値創成とセキュリティとの共生について学習することを目的としている。	英語
			実用数理モデリング	グローバル社会の発展・進化に伴い、さまざまなビジネスや産業の融合や複合が発生する。このときに必要となるのは、ビジネス上の人間関係だけではない。ビジネスの内容を標準化して評価可能となる数理によるコミュニケーションが必要不可欠である。この講義では、統計分析以外で各種産業界に必要な評価要因分析と、評価のための数理モデルの構築と分析の方法に関する知識と洞察力を習得することを目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要					
(都市科学部都市社会共生学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 部 教 育 科 目	専 門 科 目	関 連 科 目	都市社会マネジメント（国際貿易政策Ⅰ）	この講義は、都市社会で重要な位置をしめる国際貿易政策をめぐり、グローバル化の利点とコスト、貿易からの利益、貿易保護の原因とコストについてより深い理解を得ることを目的とする。また、TPPや環太平洋戦略的経済連携協定の議論の裏側にある経済学を真に理解することに役立つ知識を提供する。	英語
			都市社会マネジメント（国際貿易政策Ⅱ）	この講義では、都市社会における国際貿易政策の観点から、貿易の利益や「自由貿易地域」による効果、貿易赤字および黒字の性質、国際的政策調整の困難さ等について理解を深めることを目的とする。また学生は、基本的なゲーム理論についても学ぶ。	英語
			都市創成技術（化学・生命科学）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この講義では、都市を創成する技術という観点から、日本が誇る世界最先端の化学、生命科学に関する原理の理解と先端事情の学習を通じて、次世代のインフラや科学技術を使いこなしながら、豊かな生産活動とに向けたアイデア創出と次世代の文化創生のためのインスピレーション学習を主体とした文理融合教育の実現を目的としている。	英語
			都市創成技術（化学・生命科学演習）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この演習では、都市を創成する技術という観点から、世界最先端で日本が誇る化学と生命科学の中から具体的な2つのトピックにテーマを絞り、その研究・開発経緯とこれからの発展の可能性について調査・分析を行い、次世代のクリエイティブなイノベーションを自ら考え設計すること実習に取り込むPBL型の学習に取り組むことにより、次世代の科学技術をそれぞれの立場で理解し使いこなす人材の輩出を目的としている。	英語
			都市創成技術（機械工学・材料学）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この講義では、都市を創成する技術という観点から、日本が誇る世界最先端の機械工学と材料科学に関する原理の理解と先端事情の学習を通じて、次世代のインフラや科学技術を使いこなしながら、豊かな生産活動とに向けたアイデア創出と次世代の文化創生のためのインスピレーション学習を主体とした文理融合教育の実現を目的としている。	英語

授 業 科 目 の 概 要				
(都市科学部都市社会共生学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 教育 科目	関連 科目	都市創成技術（機械工学・材料学演習）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この演習では、都市を創成する技術という観点から、日本が誇る世界最先端の機械工学と材料科学の分野から具体的な2つのトピックにテーマを絞り、その研究・開発経緯とこれからの発展の可能性について調査・分析を行い、次世代のクリエイティブなイノベーションを自ら考え設計すること実習に取り込むPBL型の学習に取り組むことにより、次世代の科学技術をそれぞれの立場で理解し使いこなす人材の輩出を目的としている。	英語
		都市創成技術（数物・電子情報学）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この講義では、都市を創成する技術という観点から、日本が誇る世界最先端の数学、物理学、電子情報学に関する原理の理解と先端事情の学習を通じて、次世代のインフラや科学技術を使いこなしながら、豊かな生産活動とに向けたアイデア創出と次世代の文化創生のためのインスピレーション学習を主体とした文理融合教育の実現を目的としている。	英語
		都市創成技術（数物・電子情報学演習）	グローバルなビジネスと産業の基礎は物理的なインフラや実際の生産活動に支えられており、日進月歩の技術革命と豊かな社会作りは利用側と提供側の発想力の融合成果といえる。この演習では、都市を創成する技術という観点から、日本が誇る世界最先端の数学、物理学、電子情報学の分野から具体的な2つのトピックにテーマを絞り、その研究・開発経緯とこれからの発展の可能性について調査・分析を行い、次世代のクリエイティブなイノベーションを自ら考え設計すること実習に取り込むPBL型の学習に取り組むことにより、次世代の科学技術をそれぞれの立場で理解し使いこなす人材の輩出を目的としている。	英語
		剽窃とその規制	OECD等の先進国の基準に照らし合わせると日本社会における著作権や知的財産に関する理解は乏しいと言わざるを得ない。また、これからのグローバル社会において、さまざまな国籍や文化背景を持つ構成員とともに協働していく上では、著作権と剽窃、知的財産に関する理解の共有は必要不可欠である。この授業は、日本やアジアにおけるこれまでの剽窃事例に関する学習のほかに、未だにグレーゾーンなパロディビジネスや風刺ビジネスに冠する事例をもとに、次世代の著作権と剽窃に関する知識と理解を深めることを目的としている。	英語
	卒業 関連	課題演習 A	4年間の学修において各自が発展させ、また実践的に学んできた様々な分野の知見を統合しながら、それぞれが研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究活動を行うゼミナールと位置づける。少人数制での演習形式の授業で、卒業研究につながるより高度な研究を行う。担当教員は、原則として2年次・3年次に所属したスタジオの教員から選ぶものとする。	

授 業 科 目 の 概 要					
（都市科学部都市社会共生学科）					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部 教育 科目	専 門 科 目	卒 業 関 連	課題演習 B	4年間の学修において各自が発展させ、また実践的に学んできた様々な分野の知見を統合しながら、それぞれが研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究活動を行うゼミナールと位置づける。少人数制での演習形式の授業で、卒業研究につながるより高度な研究を行う。担当教員は、原則として「課題演習A」の教員と同じとする。	
			卒業研究 A	4年間の学修を総合するために、卒業に向けた研究に取り組む。実際の研究にあたっては、課題演習の担当教員の指導のもと、1年次から様々な講義科目を履修することで積み上げ、またスタジオ科目やインターンシップ科目において各自がより実践的に発展させてきたテーマを絞り込み、自らが取り組む研究テーマを定め、研究を遂行していく。	
			卒業研究 B	4年間の学修を総合するために、卒業に向けた研究に取り組む。実際の研究にあたっては、課題演習の担当教員の指導のもと、1年次から様々な講義科目を履修することで積み上げ、またスタジオ科目やインターンシップ科目において各自がより実践的に発展させてきたテーマを絞り込み、自らが取り組む研究テーマを定め、研究を遂行していく。	